

官報 號外

大正十年二月二十五日 金曜日

印刷局

第四十四回衆議院議事速記録第十八號

大正十年二月二十四日(木曜日)午後一時十六分開議

議事日程 第十七號 大正十年二月二十四日

午後一時開議

- 第一 大正九年勅令第四百八十五號(承諾ヲ求ムル件)(貴族院送付)
- 第二 右議案ノ審査ヲ付託スヘキ委員ノ選舉
- 第三 米穀法案(政府提出) 第一讀會
- 第四 右議案ノ審査ヲ付託スヘキ委員ノ選舉
- 第五 米穀需給調節特別會計法案(政府提出) 第一讀會
- 第六 右議案ノ審査ヲ付託スヘキ委員ノ選舉
- 第七 罹災救助基金法中改正法律案(政府提出) 第一讀會
- 第八 右議案ノ審査ヲ付託スヘキ委員ノ選舉
- 第九 大正九年法律第十二號中改正法律案(政府提出) 第一讀會
- 第十 右議案ノ審査ヲ付託スヘキ委員ノ選舉
- 第十一 明治四十年法律第二十一號中改正法律案(政府提出) 第一讀會
- 第十二 右議案ノ審査ヲ付託スヘキ委員ノ選舉
- 第十三 國有財產法案(政府提出) 第一讀會
- 第十四 作業會計法中改正法律案(政府提出) 第一讀會
- 第十五 海軍燃料廠ノ石炭、煉炭又ハ燃料油ノ買入ニ關スル法律案(政府提出) 第一讀會
- 第十六 府縣制中改正法律案(濱田國松君外二名提出) 第一讀會
- 第十七 郡制中改正法律案(濱田國松君外二名提出) 第一讀會
- 第十八 市制中改正法律案(濱田國松君外二名提出) 第一讀會
- 第十九 町村制中改正法律案(濱田國松君外二名提出) 第一讀會
- 第二十 市制中改正法律案(大道寺慶男君提出) 第一讀會

- 第二十一 町村制中改正法律案(大道寺慶男君提出) 第一讀會
- 第二十二 府縣制中改正法律案(箕浦勝人君外三名提出) 第一讀會
- 第二十三 郡制中改正法律案(箕浦勝人君外三名提出) 第一讀會
- 第二十四 市制中改正法律案(箕浦勝人君外三名提出) 第一讀會
- 第二十五 町村制中改正法律案(箕浦勝人君外三名提出) 第一讀會
- 第二十六 北海道會法中改正法律案(箕浦勝人君外三名提出) 第一讀會
- 第二十七 土地收用法中改正法律案(上島益三郎君提出) 第一讀會
- 第二十八 國有土地森林原野下戻ニ關スル法律案(戶狩權之助君外八十六名提出) 第一讀會
- 第二十九 決議案(朝鮮統治ニ關シ調査委員會設置ノ件)(中野正剛君提出) 第一讀會
- 第三十 食糧政策及農家經濟ノ維持確立ニ關スル建議案(天香文衛君外十九名提出) 第一讀會
- 第三十一 市町村教育費ノ整理ニ關スル建議案(井上角五郎君外十三名提出) (委員長報告)
- 第三十二 徵兵令事務施行細則改正ニ關スル建議案(植原悅二郎君提出)
- 第三十三 產業組合法及重要物產同業組合法改正並同組合振興ニ關スル建議案(土井權大君提出)
- 第三十四 成年調査ニ關スル建議案(奥村安太郎君外一名提出)
- 第三十五 石油政策ニ對スル燃料調査會設立ニ關スル建議案(高野毅君提出)
- 第三十六 特別市制促進ニ關スル建議案(作間耕逸君外五名提出)
- 第三十七 多摩川改修費及水源涵養費國庫支辨ニ關スル建議案(秋本喜七君外一名提出)
- 第三十八 多摩川改修費及水源涵養費國庫支辨ニ關スル建議案(高木正年君外六名提出)

- 第三十九 免因差別待遇撤廢ニ關スル建議案(鮎川盛貞君提出)
 - 第四十 救世軍補助ニ關スル建議案(橫山勝太郎君提出)
 - 第四十一 科學知識普及ニ關スル建議案(鈴木錠藏君提出)
 - 第四十二 遠東鐵道速成ニ關スル建議案(松浦五兵衛君外五名提出)
 - 第四十三 大垣、大野、金澤間鐵道速成ニ關スル建議案(西村正則君外八名提出)
- 議長(奧繁三郎君) 諸般ノ報告ヲ致シマス
- 一 政府ヨリ提出セラレタル議案左ノ如シ
- 米穀法案
 - 米穀需給調節特別會計法案
 - 罹災救助基金法中改正法律案
 - 大正九年法律第十二號中改正法律案
 - 明治四十年法律第二十一號中改正法律案
- (以上二月二十三日提出)
- 民事訴訟費用法中改正法律案
 - 刑事訴訟費用法案
 - 大正七年度歲入歲出總決算
 - 大正七年度各特別會計歲入歲出決算
 - 大正七年度歲入歲出決算檢査報告
 - 大正八年度豫備金支出ノ件
 - 大正八年度豫備金外ニ於テ豫算超過及豫算外支出ノ件
 - 大正八年度特別會計豫備金支出ノ件
 - 大正八年度特別會計豫備金外ニ於テ豫算超過及豫算外支出ノ件
 - 大正八年度大正三年臨時事件豫備費支出ノ件
 - 大正八年度大正三年臨時事件豫備費外ニ於テ豫算外支出ノ件
 - 大正八年度帝國鐵道特別會計積立金支出ノ件
 - 大正八年度帝國鐵道特別會計積立金外ニ於テ豫算超過支出ノ件
- (以上二月二十四日提出)

官報號外 大正十年二月二十四日(明後日)第三種郵便物認可

衆議院議事速記録第十八號 議長ノ報告

一議員ヨリ提出セラレタル議案左ノ如シ

國有財産法案ニ對スル修正案

提出者 野田文一郎君

森山儀文治君

中川幸太郎君

高木 正年君

金澤安之助君

地方學事通則中改正法律案

提出者 竹上藤次郎君

營業稅法中改正法律案

提出者 荒川 五郎君

平島 欽司君

神谷 彌平君

太田信治郎君

出口 直吉君

富山伏木間鐵道建設ニ關スル建議案

提出者 高見 之通君

米澤與三次君

松江隱岐間海底電線増設速成ニ關スル建議案

提出者 若林 德懋君

島田 俊雄君

佐野 正雄君

金融機關整備ニ關スル建議案

提出者 河上 哲太郎君

武藤 金吉君

鈴木 錠藏君

波多野承五郎君

松本孫右衛門君

中山 佐市君

思想問題審議機關設置ニ關スル建議案

提出者 星島 二郎君

米麥多收穫獎勵ニ關スル建議案

提出者 多木久米次郎君

南滿洲鐵道株式會社庫清ニ關スル建議案

提出者 橋本 喜造君

(以上二月二十三日提出)

民法中改正法律案

提出者 奥村安太郎君

(以上二月二十四日提出)

一議員ヨリ提出セラレタル質問主意書左ノ如シ

關稅定率法中改正ニ關スル質問主意書

提出者 鈴木 錠藏君

北井波治目君

(以上二月二十三日提出)

國民思想善導ニ關スル質問主意書

提出者 田中 善立君

(以上二月二十四日提出)

一 去二十二日議長ニ於テ選定シタル委員左ノ如シ

特許法改正法律案外四件

島田 俊雄君 今泉嘉一郎君 北井波治目君

松實喜代大君 野副 重一君 塚原 嘉藤君

福井 甚三君 矢野 丑乙君 木下十四三君

麓 純義君 宮崎三之助君 出口 直吉君

淺賀長兵衛君 鷗澤 宇八君 鈴木久次郎君

飯塚春太郎君 清瀬 一郎君 森下龜太郎君

一 去二十二日大正九年勅令第五百三十四號承諾ヲ

求ムル件)委員清水留三郎君辭任ニ付其ノ補闕トシ

テ淺川浩君ヲ、小學校教員俸給國庫負擔額增加ニ

關スル建議案外一件委員原田十衛君辭任ニ付其ノ

補闕トシテ井上角五郎君ヲ就レモ議長ニ於テ選定セ

リ

一 昨二十三日小學校教員俸給國庫負擔額增加ニ關ス

ル建議案外一件委員土屋與君仙波太郎君辭任ニ

付其ノ補闕トシテ岩切重雄君守屋松之助君ヲ就レモ

議長ニ於テ選定セリ

一 今二十四日特許法改正法律案外四件委員飯塚春

太郎君辭任ニ付其ノ補闕トシテ野村嘉六君ヲ議長ニ

於テ選定セリ

一 昨二十三日委員長及理事互選ノ結果左ノ如シ

特許法改正法律案外四件委員

委員長 高田 俊雄君 理事 宮崎三之助君

鈴木久次郎君 清瀬 一郎君

一 昨二十三日委員長及理事補闕選舉ノ結果左ノ如シ

小學校教員俸給國庫負擔額增加ニ關スル建議案外

一件

委員長 鈴木錠藏君(委員長原田十衛君補闕)

理事 阪上貞信君(理事鈴木錠藏君補闕)

一 昨二十三日衆議院規則第十五條但書ニ依リ議長ニ

於テ議席ヲ左ノ如ク變更セリ

六 副島 義一君 七 有森 新吉君

二 富永孝太郎君 七 松下 禎二君

八 南 鼎三君 八 守屋松之助君

○議長(與繁三郎君) 會議ヲ開キマス、諮問事項ガアリマ

ス、第四部選出請願委員高柳淳之助君ヨリ常任委員辭

任ノ申出ガアリマシタ、異議ナケレバ許可致シマス考デス

〔異議ナシ〕、異議ナシノ聲起ル

○議長(與繁三郎君) 御異議ナシト認メマス、仍テ許可

致シマス、同部ノ諸君ハ速ニ補缺選舉ヲ行テ、届出アラン

コトヲ望ミマス、押川君ヨリ議事ヲ進行ニ就テ御意見ガア

ルヤウニ通告ガアリマス、發言ヲ許シマス

〔押川方義君登壇〕

○押川方義君 去十九日ノ本會議ニ於キマシテ、議長

ハ其前日湯淺凡平君ガ爲サレマシタ演說ノ中ニ、不穩ノ言

辭アリトシテ之ニ警告ヲ與ヘラレマシタデアリマス、演說

者ノ言論ヲ監視致シマシテ、其言葉ヲ悉ク束縛シテ警告致

サレマスルコトハ、假令湯淺君ノ如キ達辯者若クハ能辯者デ

アリマシテモ、非常ニ困難ヲ感ズルコトデアラウカト斯ウ考ヘ

テ居リマシタ時ニ、丁度武富時敏君ガ壇上ノ人ト爲ラレマ

シテ、同氏ハ數週間以前カラ病ノ床ニ居ラレタ人デアリマ

ス、當日ハ病ヲ押シテ此議場ニ出ラレマシタ譯ハ、憂國ノ赤

誠禁ヲ難キモノアツテ、黨ヲ代表シテ所見ヲ陳述シ、天下萬

衆ノ同情ヲ喚起センコトヲ期待致サレマシタルコトハ、申ス

マデモナイコト、推察致シマス、然ルニ不幸ニシテ病ハ忽チ

同氏ノ咽喉ヲ塞フ所トナリ、發言ノ自由ヲ妨ゲラレマシタ

ル有様ハ、例ノ見ル目モ實ニ氣ノ毒ノ極ニシテゴザイマシタ、

(拍手起ル)同氏ノ憤慨恨事、實ニ推シテ察スベキデアリマ

ス、斯ル時ニ臨ミマシテ、如何ナル所ノ態度ヲ執ルベキカト

考ヘマスレバ、其當時ノ議場ノ光景ヲ來タサセマシタコトノ

如キハ、責任極メテ重大ナリト吾輩ノ感ズルデアリマス、壓

迫又壓迫脅迫、又脅迫、遂ニ騷擾ヲ極メマシテ、同氏ノ言

ヲ發スルコトノ出来ナイヤウナコトニナリタデアリマス、國民

ガ若シ健康ノ體ヲ持テ居リマシタナラバ、五百ノ蟻蜂何カ

アラント云フ概ヲ示サレタカモ知レヌカ、不幸ニシテ病ハ如

何トモスルコトガ出来ナイヤウニナリマシタ...

○議長(與繁三郎君) 押川君、議事ヲ進行ニ就テ御述ナ

サイ

○押川方義君(續) 議事ノ進行ニ就テマアリマス

○議長(與繁三郎君) 今ノハ進行デアアリマセヌ—今ノ

デアアリマセヌ

○押川方義君(續) 結論ヲ御聽ニナラヌ中ニ—結論ヲ

御聽ニナレバ

○議長(與繁三郎君) 議事ヲ進行ニ關スル發言ハ、成ベ

ク簡單ニ結論ヲ仰シヤイ

〔無用々々〕ヤルベシト呼フ者アリ

○押川方義君(續) ソレデアリマスカラ私ハ、サウ云フ場

合ニ臨ミマシテハ、成ベク靜肅ニシテ、辯士ヲシテ必ズ其意

ヲ徹底セシムルヤウニ努ムベキコトハ紳士ノ禮儀デモアリ、

(「駄辯ヲ言フカラダ」ト呼フ者アリ)又武士ノ情カト思ヒマ
ス、同氏ハ經驗モアリ、學問モアリ、又品格モアル御方デアリ
マスルシ、又一黨ヲ代表シテ、自分ノ言ハントスル所ヲ言ハ
レルノデアリマスルシ、且又辯論ニ於キマシテモ、議院内ニ雄
ヲ爭フコトハ自他共ニ許シテ居ルコトデアリマス、同氏ノ其
當時ノ有様ハ、實ニ戰場ニ臨ンテ敵ヲ前ニ見テ、矢モ盡キ刀
モ折レ、馬モ斃レタト同ジデアリマスルカラ、斯ウ云フ時ニ臨
ミマシテ、同氏ニ向テ同情ヲ表スルハ、武士ノ情カト吾輩
ハ思フデアリマス(拍手起ル)數分間以前ノ演說中ニ、一
ノ不穩ノ言辭アリトシテ警告ヲ與ヘラレマシタ所ノ議長ガ、
斯ノ如キ場合ヲ惹起シマシタル多クノ人ニ向テ、適當ナ
ル警告ヲ與フルノ意思アリヤ否ヤヲ聽カントシテ此所ニ立
チマシタ譯デアリマス、(無用々々)「愚論々々」議事ノ進行
ニ非ズ妨害ナリ、武富氏ノ演說中ニ憲政會ノ執リシ態度
如何ト呼フ者アリ)

○議長(奥繁三郎君) 押川君ノ問ハントスル所ハ議場ニ
デスカ、議長ニデスカ

○押川方義君 議長ニデアリマス

○議長(奥繁三郎君) 議場ニ對シテデスカ、議長ニ對シテ
デスカ

○押川方義君 議場及議長ニデアリマス

○議長(奥繁三郎君) 押川君ノ發言ニ對シテ一言致シ
マス、武富君ハ十九日ニ於テ病氣ノ爲メニ發言ニ苦シマレ
タ模様ヲ察シマシテ、議長ハ特ニ議場ニ其事ヲ告ゲテ御注
意ヲシタ、(其通リ)ト呼フ者アリ)近クノ方ハ病氣タルコト
ヲ知ラナイ模様モアリマシタ、殊ニ武富君ニ對シテ、病氣ヲ
嗜メル模様ハ議場ニ無カト察シマス、ソレデアリヨリ押川
君ヨリ敢テ注意ヲ要セズトモ、ソレ位ノ事ハ諸君ハ夙ニ知ッ
テ居ラレル事ト思ヒマス(拍手起ル)議長ニ於テ押川君ノ今
更ノ言ヲ俟タズシテ、其際ニ於ケル處置ハ相當ニ執ッタモノ
ト確信致シマス(拍手起ル)日程ニ入りマス、第一大正九
年勅令第四百八十五號、承諾ヲ求ムル件ヲ議題ト致シマ
ス外務大臣

第一 大正九年勅令第四百八十五號(承
諾ヲ求ムル件)(貴族院送付)

大正九年勅令第四百八十五號

朕茲ニ緊急ノ必要アリト認メ樞密顧問ノ諮詢ヲ經テ帝
國憲法第八條第一項ニ依リ帝國ト墺地利國トノ間ニ
設置スル混合仲裁裁判所ニ關スル件ヲ裁可シ之ヲ公布
セシム

御名 御璽

官報號外 大正十年二月二十四日 衆議院議事速記録第十八號

大正九年十月十四日

内閣總理大臣	原	敬
海軍大臣	男爵加藤	友三郎
外務大臣	伯爵内田	康哉
大藏大臣	子爵高橋	是清
陸軍大臣	男爵田中	義一
農商務大臣	男爵山本	達雄
內務大臣	床次	竹二郎
文部大臣	中橋	徳五郎
逓信大臣	野田	卯太郎
鐵道大臣	元田	肇
司法大臣	伯爵大木	遠吉

勅令第四百八十五號
大正九年勅令第八十七號ノ同盟及聯合國ト墺地利國
トノ平和條約第二五十六條ノ規定ニ依リ帝國ト墺地
利國トノ間ニ設置スル混合仲裁裁判所ニ關シ之ヲ準用ス

附則
本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

○國務大臣(伯爵内田康哉君) 本案事後承諾ヲ求メマ
スル件ハ、日獨混合仲裁裁判所ニ關シマスル大正九年
勅令第八十七號ノ規程ヲ帝國ト墺地利國トノ間ニ於ケル
混合仲裁裁判所ニ準用セントスルモノデアリマス、本件勅
令ハ元來法律ヲ以テ定ムベキモノデアリマス、然ルニ右日獨
混合仲裁裁判所ハ、同盟及聯合國ト墺地利國トノ平和
條約第二五十六條ニ依リマシテ、同條約實施ノ日、即チ
大正九年七月十六日ヨリ起算致シマシテ三箇月後、即チ
昨年十月十五日マデニ設置ヲ要スルノデアリマス、隨テ其
期日マデニ本案規程ノ如キ事項ニ就キマシテ規程ヲ設ケル
コトハ、帝國政府ノ責務ニ屬スル事柄デアリマス、當時議會
開會デアリマセズ、憲法ノ規程ニ依リマシテ、勅令ヲ以テ
昨年十月十五日ニ公布セラレタ次第デアリマス、此勅令ハ
將來ニ向テモ其效力ヲ存續セシムル必要ガアリマスニ依
テ、本日帝國憲法第八條第二項ニ依リマシテ、議會ノ承諾ヲ求
ムル次第デアリマス、何卒御審議ノ上ニ承諾ヲ與ヘラレンコ
トヲ希望致シマス(拍手起ル)

○議長(奥繁三郎君) 日程第二、右議案ノ審査ヲ付託ス
ヘキ委員ノ選舉ヲ議題ト致シマス

第二 右議案ノ審査ヲ付託スヘキ委員ノ
選舉

○岩崎勳君 本案ハ大正九年勅令第五百三十四號、承
諾ヲ求ムル件ノ委員ニ併セテ付託セラレンコトヲ望ミマス

(「贊成」ト呼フ者アリ)

○議長(奥繁三郎君) 岩崎君ノ動議ニ御異議アリマセヌカ
(「異議ナシ」異議ナシト呼フ者アリ)

○議長(奥繁三郎君) 御異議ハ無イト認メマス、仍テ動
議ノ如ク決シマシタ

○小田切善太郎君 是ヨリ大正九年勅令第五十三號承
諾ヲ求ムル件ノ委員會ト、唯今附託ニナリマシタ大正九年
勅令第四百八十五號承諾ヲ求ムル件ノ委員會ヲ開會致
シタク存ジマスカラ、御許可ヲ願ヒマス

○議長(奥繁三郎君) 小田切君ノ委員會ヲ開會シタイト
云フコトハ、許可スルニ御異議アリマセヌカ

(「異議ナシ」異議ナシト呼フ者アリ)

○議長(奥繁三郎君) 御異議ナイト認メマス、仍テ許可
スルコトニ致シマス、日程第三、第五、第七ハ便宜上一括
議題ト爲ス考デアリマス、御異議アリマセヌカ

(「異議ナシ」異議ナシト呼フ者アリ)

○議長(奥繁三郎君) 御異議ナイト認メマス、仍テ日程
第三米穀法案、日程第五米穀需給調節特別會計法案、
日程第七罹災救助基金法中改正法律案ヲ一括シテ議題
ト致シマス、其第一讀會ヲ開キマス——山本農商務大臣

第三 米穀法案(政府提出) 第一讀會

米穀法案

第一條 政府ハ米穀ノ需給ヲ調節スル爲必要アリト認
ムルトキハ米穀ノ買入、賣渡、交換、加工又ハ貯蔵ヲ爲
スコトヲ得

第二條 政府ハ米穀ノ需給ヲ調節スル爲特ニ必要アリ
ト認ムルトキハ勅令ヲ以テ期間ヲ指定シ米穀ノ輸入税
ヲ増減又ハ免除シ又ハ其ノ輸入若ハ輸出ヲ制限スル
コトヲ得

第三條 政府ハ帝國内ニ於テ第一條ノ規定ニ依リ米
穀ノ買入又ハ賣渡ヲ爲サントスルトキハ其ノ價格及期間
ヲ告示スヘシ但シ米穀ノ買換、貯蔵米穀整理ノ爲ニ
スル賣渡其ノ他必要ト認ムル場合ニ於テハ此ノ限ニ
在ラス

第四條 政府ハ米穀需給調節上米穀現在高調査ノ必
要アリト認ムルトキハ米穀ノ生産者、取引業者、倉庫
業者其ノ他占有者ニ對シ調査ニ必要ナル事項ノ報
告ヲ命シ又ハ官吏若ハ吏員ヲシテ其ノ營業所、倉庫
其ノ他ノ場所ニ臨檢シ帳簿物件ヲ検査セシムルコト
ヲ得

第五條 前條ノ規定ニ依ル命令ニ違反シ又ハ當該官吏若ハ吏員ノ職務ノ執行ヲ妨ケタル者ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

附則

本法ハ大正十年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

第五 米穀需給調節特別會計法案(政府提出) 第一讀會

米穀需給調節特別會計法案

- 第一條 米穀需給調節ノ爲ニスル米穀ノ買入、賣渡、交換、加工又ハ貯藏ニ關スル一切ノ歳入歳出ハ之ヲ一般會計ト區分シ特別ノ會計ヲ立テシム
- 第二條 本會計ニ屬スル經費ヲ支辨スル爲ニ必要アルトキハ政府ハ本會計ノ負擔ニ於テ借入ヲ爲スコトヲ得
- 第三條 米穀ノ買入代價ハ外國ヨリ直接ニ買入ル場合ヲ除クノ外一年內ニ償還スヘキ證券ヲ以テ其ノ額面金額ニ依リ之ヲ交付ス
- 第四條 日本銀行ハ前條ノ證券ノ所持人ノ請求ニ依リ政府ノ定ムル歩合ヲ以テ其ノ證券ノ割引ヲ爲スヘシ
- 第五條 本會計ノ負擔ニ屬スル證券及借入金ノ償還金及利子並證券ノ發行及償還ニ關スル諸費ノ支出ニ必要ナル金額ハ毎年度國債整理基金特別會計ニ之ヲ繰入ルヘシ
- 第六條 本會計ハ借入金、米穀賣渡代金及附屬雜收ヲ以テ歳入トシ米穀ノ買入代金、米穀ノ買入賣渡交換加工貯藏及運搬ニ關スル諸費、證券及借入金ノ償還金及利子其ノ他諸費ヲ以テ歳出トス
- 第七條 本會計ニ於テ支拂上餘格アルトキハ大藏省預金部ニ之ヲ預入ルヘシ
- 第八條 本會計ノ決算上剩餘アルトキハ翌年度ノ歳入ニ之ヲ繰入ルヘシ
- 第九條 政府ハ毎年度本會計ノ歳入歳出豫算ヲ調製シ歳入歳出ノ總豫算ト共ニ帝國議會ニ之ヲ提出スヘシ

第十條 本會計ノ收入支出ニ關スル規程ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

附則

本法ハ大正十年度ヨリ之ヲ施行ス

第七 罹災救助基金法中改正法律案(政府提出) 第一讀會

罹災救助基金法中改正法律案

- 第十七條第一項ニ左ノ一號ヲ加フ
 - 五 米穀ヲ買入ルルコト恒シ買入金額ハ罹災救助基金年度初ノ現在高ヨリ第三條ノ制限額ヲ控除シタル金額ヲ超ユルコトヲ得ス
- 附則
- 本法ハ大正十年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

〔國務大臣男爵山本達雄君登壇(拍手)〕

○國務大臣(男爵山本達雄君) 唯今議題ト相成リタル米穀法ニ就キマシテ説明ヲ致シマスルガ、我國主要食糧品タル米穀ノ産額ハ、年々増加シツ、アルノデゴザイマス併ナガラ又一方ニハ人口ノ増殖ノタメニ、此供給ノ十分ニ充タスコトガ出來ナイノデアリマス。平年ニ於キマシテハ、其平作ノ米穀生産高ガ約三百——或ハ二百二三百万石ノ不足ヲ生ズルコトニ相成テ居リマス。而シテ此米ハ一種特別ナル品質ヲ我米ハ持テ居リマス、又市場ノ範圍モ甚ダ狹隘ナルデアリマス。サウ云フヤウナ事ノ爲メニ、豊凶如何ニ依リマシテ、ドウモ此供給需要ノ關係ニ於テ著シク權衡ヲ失ヒマス、隨ヒマシテ米ノ價格ノ騰落ガ激甚ニナリマス。ソレガ爲メニ此農家ノ生産ニ不安ヲ起シ、又國民食糧ハソレガ爲メニ脅カサレテ、一般ノ經濟社會ノ發達ヲ阻止スルコトガ、過去ノ歴史ニ於テ屢アルコトデアリマス。政府ハ是等ノ事ニ鑑ミマシテ、食糧品ノ充實ヲ根本的ニ充タスノ必要ヲ感ジマシテ、昨年カラ臨時經濟調査會ニ諮詢ヲ致シマシテ、漸ク此頃其答申ヲ得マシタ、此答申ノ趣旨ニ基キマシテ、穀物ノ充實ヲ圖ルコトニ極力相努メ、又一方ニハ此法案ヲ制定シマシテ、而シテ先ヅ自給ノ調節ヲ圖リタイト思フノデアリマス。米穀ノ豐作ノ時ニ於テ——剩餘ノ時ニ於テソレヲ買取リマシテ、サウシテ之ヲ貯藏シ、尙ホ供給ノ不足アル凶年ノ場合ニ於キマシテハ、之ヲ賣拂ヒ、尙ホ場合ニ依リテハ、外國ヨリ外米ヲ輸入スルコトノ途ヲ立テ、又ソレト同時ニ其時ノ必要ナル場合ニハ、關稅ノ増減免除、又ハ外米ノ輸入ヲ制限スル等、要スルニ此唯一ノ食糧品ノ調節按排ヲ十分ニシタイト云フ精神ニ於テ提出シタ案

デゴザイマス、何卒慎重慎議ノ上御協賛ヲランコトヲ希望致シマス(拍手)

〔國務大臣子爵高橋是清君登壇(拍手)〕

○國務大臣(子爵高橋是清君) 日程第五第七即チ米穀需給調節特別會計法案、及罹災救助基金法中改正法律案ノ提出ノ理由ヲ説明致シマス、唯今農商務大臣ヨリ米穀法案ニ就テ説明セラレタル如ク、此多年ノ懸案デアリマシタル所ノ食糧問題ヲ解決致シマスル爲メニ、此度政府ハ必要ヲ認メマシタル場合ニ於テハ、即チ米穀ヲ買入レタリ、或ハ賣渡ヲ爲シタル爲メ、制度ヲ確定スルコト、致シマシタルニ就キマシテハ、其買入レタリ或ハ賣渡シタリ、其他收支——收入又ハ支出ヲ整理スル爲メニ、特別會計ヲ設置スルコトヲ以テ適當ナリト認メタル次第デアリマス。米穀ノ買入其他ニ要シマスル資金ハ、最高額ニ億圓ト見積ルコトニ致シマシタ、而シテ米穀ノ買入レ代價ハ、證券ヲ以テ交付スルコト、致シマシタ、且ツ其證券ハ、何時ニテモ日本銀行ニ於テ其提出者ニ對シテ割引ヲ爲スコト、致シマシタ。サウシテ此賣主ノ便利ヲ圖ルコト同時ニ、此證券ノ流通ヲ圖リマシテ、金融業ノ便ヲ圖ルコト、致シタデアリマス、是ガ此米穀需給調節特別會計法案ノ骨子デアリマス、此會計ノ働キニ依リマシテ、大體米穀需給調節ノ目的ハ達シ得ルコト、見込ナルデアリマス。尙ホ之ニ類似ノ目的ヲ有シテ居リマスル所ノ彼ノ罹災救助基金ヲ以テマシテモ米穀ノ買入賣渡ヲ爲スコトニ致シマスレバ、一層有效デアラウト考ヘルデアリマシテ、其途ヲ新開キマスル爲メニ、罹災救助基金法ニモ相當ノ改正ヲ加フルコト、致シタデアリマス。御審議ノ上御協賛ヲ與ヘラレコトヲ切望致シマス(拍手)

○議長(奧繁三郎君) 本案ニ對シテ——此米穀法案ニ對シマシテ質疑ノ通告ガアリマス、上田彌兵衛君

〔上田彌兵衛君登壇(拍手)〕

○上田彌兵衛君 諸君、本員ハ唯今上程サレマシタ米穀案ニ就キマシテ、政府ニ對シニ三ノ質問ガアルノデゴザイマス、尤モ此詳細ニ涉リマスル點ニ就キマシテハ、追テ委員會ニ於テ致ス考デアリマスルガ、本案ハ我國ノ食糧政策ヲ確立致シマスル上ニ於キマシテ、最モ重要ナル要件デアリマス。カラ、茲ニ政府ノ方針ニ對シマシテ、其大局ニ涉リマスル點ヲ伺フデ置キタイノデアリマス、(八百長ヤルナイ)ト呼フ者アリ(政府ハ我國ノ將來ノ發展ニ對シマシテ、立國ノ國是ヲ如何ニ定メントノ御考デアルカ、即チ商工立國主義デアるか、或ハ又農本主義デアるか、但シハ農工商ノ併用主義デアるか、我國ノ將來ノ進運ハ、此食糧政策ト大ナル關係ヲ持テ居ルノデアリマス。此見解ノ相違ハ、直チニ本案

解決ノ上ニ於キマシテモ、大ナル相違ヲ來スコト、信ズルノデアリマス、我國維新ノ變革以來茲ニ五十有餘年間、海外ノ貿易ハ年ト共ニ發展ヲ致シマシテ、殊ニ歐洲ノ戰亂以來非常ニ急激ノ發展ヲ致シマシテ、今ヤ其貿易總額ハ大正八年ニ於キマシテ、殆下四十億圓以上ノ巨額ニ達シテ居ルデアリマス、隨テ内地ニ於キマスル所ノ商工業モ、亦驚クベキ發展進歩ヲ遂ゲマシテ、今ヤ我國ノ商工業ノ基礎ハ、漸ク鞏固ヲ加ヘントスルノ盛況ニ立至リテ居ルデアリマス、併ナガラ此我國ノ貿易ガ海外ノ歐米先進國ノ隆昌ニ比較シテマシテ、尙ホ未ダ及バザルノ感ガ致スノデゴザイマス、ソレ故ニ戰後ニ於キマスル我ガ海外貿易ノ施設ト致シマシテハ、國民ハ協力一致、大ニ之ニ努力ヲ要スルコトハ今更喋々ヲ談クナクデアリマス、實ニ只今ハ我國商工業ノ前途ニ對シマシテ、重要ナル時機トスルノデゴザイマス、我國ハ今ヤ此商工業ノ國是ヲ確立致シマシテ、經濟的施設ニ對シテ、勇往邁進ヲ致シマセバ、到底彼ノ歐米諸國ヲ凌駕致シマスル所ノ、經濟的地位ヲ占ムルコトハ甚ダ困難デアリマス、然ルニ翻テ考ヘテ見マスルト、我國ニハ頗ル困難ナル問題ガゴザイマス、所謂食糧問題デアリマス、過去數年來ニ於キマスル物價ノ騰貴ハ、我ガ國民生活ノ安定ヲ脅シマシテ、加フルニ國民ノ常食品タル所ノ米モ亦此物價ニ伴レマシテ、大ナル暴騰ヲ致シタデアリマス、其結果ハ食料ノ自給自足ノ問題ガ、社會ノ輿論トシテ起テ參シタデアリマス、政府ハ此點ニ對シマシテハ、ソレノ施設ヲ致サレマシテ、或ハ耕地ノ整理デアルトカ、或ハ開墾助成法デアルトカ、色々米ノ増殖ヲ圖ラレマシテ、以テ供給ノ潤澤ニ努メラレタデアリマス、此米ノ増殖ヲ圖ルト云フコトニ就キマシテハ、我國現時ノ農業制度ヨリ考ヘマスルト、必ズヤ農家所謂生産者タル農家ノ保護ト、是ガ利益増進ヲ圖ル方法ヲ講ズルニ非ザレバ、其效果ヲ十分ニ現ハスコトガ出來ナイデアリマス、ソレ故ニ農業經濟ニ於キマシテモ、相當ノ方策ヲ立テマシテ、以テ此農家ノ發展スベキ施設ヲ講ジナケレバナラヌデアリマス、農家ノ利益増進ヲ致スト云フコトハ、諸種ノ方法ガアルデアリマス、結局此米價ヲ騰貴セシムルト云フコトガ、主要ナル目的トナテ來ルデアリマス、而シテ此米價ヲ騰貴セシムルト云フコトハ、一面カラ商工業ノ發展ヲ阻止スルト云フコトニナリマシテ、茲ニ商工業ノ發展ト農本主義トノ衝突、言葉ヲ換ヘテ申シマスルト、生産者ト消費者トノ利益ガ相反スル傾ガ生ジテ來ルデアリマス、丁度西曆千八百二十年ノ頃、即チ約今ヨリ百年前ノ頃ニ於キマシテ、彼ノ英吉利國ガ丁度此食糧政策ニ就テ經驗致シマシタルヤウナ實狀ガ、今ヤ我國ノ現狀ニ實現サレテ來タデアリマス、其當時英吉利政

府ハ農業保護ニ努メマシテ、所謂農業保護ニ偏シマシタル故ニ、一方ニハ盛ナル自由貿易論ガ起リマシテ、遂ニ此自由貿易論ガ勝リシタルガ爲メニ、商工業國主義ノ下ニ今日ノ英吉利ノ隆盛ヲ來シタデアリマス、然ラバ我國ハ此英國ノ執リマシタル如ク、商工業國主義ヲ根本ノ主義方針トシテ進ムコトガ、果シテ善良ナル政策デアルヤ否ヤト云フコトニナリマス、茲ニ甚ダ困難ナル問題ガ横テ來ルデアリマス、ソレハ外デモアリマセ、所謂申スマデモナク我ガ日本人ハ米食者デアリマス、而モ日本米ノ嗜好者デアルノデゴザイマス、唯ダ單ニ米ノ需要者デアリマス、ナラバ東洋ノ諸國ニ於キマシテハ、豐富ナル米產地ヲ到ル處ニ持ッテ居ルデアリマス、所謂有無相通、缺相補フノ方法ヲ講ジマシタナラバ、左程驚ク問題デナイデアリマス、米ノ需給ノ前途ニ對シテモ、憂フル程ノ問題デナイデアリマス、奈何セン我日本人ハ日本米デナケレバ食セヌデアリマス、所謂久シキ因襲ハ直チニ此食料ニ對シテ大ナル變化ヲ與ヘルト云フコトハ、甚ダ困難デアリマス、ソレ故ニ我ノ商品デアリマセヌデアリマス、英國ト國情ヲ異ニシ、其食糧ノ種類ヲ異ニシテ居リマス、我ガ日本國ハ、直チニ彼ノ英國ガ執リマシタル所ノ、一方ニ偏シタル政策ヲ踏襲スル譯ニハ參ラヌデアリマス、是ニ於テカ我國ハ農工商ノ併用主義ヲ必要トスル狀態ニ在ルノデゴザイマス、併ナガラ此併用主義ナルモノハ、其一方ニ偏シ易クアリマシテ、一步此方法ヲ誤リマスルトキニハ、非常ニ國家ノ進運ニ大蹉跌ヲ來スコトニナリデアリマス、實ニ我國ノ政策ノ樹立ニ際シテハ、今ヤ非常ニ困難ナル岐路ニ立テ居ルモノト察スルデアリマス、(簡單ニ願ヒマス)全部贊成ダカラ簡單ニ要領ダケヲ述ベ給ヘト呼フ者アリ、即チ生産者ノ保護ニ助メマスレバ消費者ヲ苦シメ、消費者ノ負擔ヲ輕減スルコトニナリマスレバ、生産者ノ立場ヲ苦メルト云フコトニナリマシテ、寔ニ考慮スベキ問題ト信ズルデアリマス、是ニ於テカ先ヅ第一ニ此立國ノ大主義大方針ヲ定メマシテ、而シテ後ニ食糧政策ヲ考出サネバナラヌデアリマス、彼ノ歴代内閣ノ食糧政策ヲ看テ見マス、常ニ此主義方針ヲ誤リマシテ、其時々ノ狀況ニ拘泥致シマシテ、此大方針ヲ無視スルト云フコトハ、洵ニ本員ノ遺憾ニ堪ヘナイ次第デアリマス、(同感)ト呼フ者アリ、我國現時ノ農業政策、農業ノ制度及食糧品ノ狀況ヨリ鑑ミマス、國家ガ其生産、消費、分配ノ方針ヲ根本的ニ確立致シマセヌ以上ニハ、必ズ其食糧政策タルヤ常ニ消費生産ニ執レモ偏セズ致シマシテ、克ク其協調ヲ保チマシテ、國家ノ進運ニ努メル所ノ方策デナケレバナラヌデアリマス、恰モ彼ノ勞働ノ協調ノ如キ

モノデアリマス、近年：
 ○議長(奧繁三郎君) 上田君ニ注意致シマス、内容ハ成ルベク短クシテ、質問ノ要領ダケヲ言ッテ貰ヒタイ(拍手スル)
 ○上田彌兵衛君(續) 近年勞働者ト資本家トノ利害相反スルノ故ヲ以テマシテ、互ニ相爭フト云フコトハ、國家産業上大ナル不幸デアリマス、如ク、生産者ト消費者トガ相爭フト云フコトハ、又國家國民ノ一大不利益ト信ズルデアリマス、(ヒヤ、ヒヤ)ソレ故ニ政府ノ此點ニ對スル主義方針ヲ伺ヒ置キタイデアリマス、(君ハ學者ダモウ宜シイ)ト呼フ者アリ、第二ニハ食糧ノ自給自足ノ程度如何ト云フコトニ就テ伺ヒタイデアリマス、此問題ハ數年來社會ノ大問題ト致シマシテ、非常ニ論議ヲ致サレマシタガ、未ダ其定案ヲ得テ居ラナイデアリマス、即チ政府ハ米ノ自給自足ヲ絕對的ナラシメル御考デアルカ、又其大部分ヲ自給自足致シマシテ、其年ノ豐凶ニ依リ、或ハ經濟界ノ進展ニ順應致シマシテ、適宜其過不足ヲ調節セラル、ノデアルカ、此點ニ就テ伺ヒタイデアリマス、我國ノ米產額ノ增加率ハ、人口ノ增加ト米食者ノ增加率ニ伴ヒマセヌガ故ニ、凶作ノ場合ハ勿論、一朝風水害ノ爲メニ其收穫ヲ減ズルコトガアリマス、忽チ米價ノ暴騰ヲ來タシマシテ、國民ノ生活ノ安定ヲ脅スニ至ルデアリマス、此補充ト致シマシテ、毎年數千萬圓、甚シキハ一億圓以上ノ外米ヲ輸入致シマシテ、幸ニ其所用ノ量ヲ充シ、以テ需給ヲ緩和シテ居リマシテ、加フルニ其調理ノ方法ガ十分ニ研究ヲサレテ居リマセヌガ故ニ、我國ノ國民ノ歴史の慣習、所謂嗜好的欲求ハ(餘リ油ヲ注ケルノ長過キテ困ル)ト呼フ者アリ、此需要ヲ充タスニ適セナイデアリマス、故ニ、洵ニ國民一般ノ需要ヲ喚起スルコトガ出來ナイデアリマス、(學者)ト呼フ者アリ、動モ致シマス、日本米ト此外國米ハ、殆下別箇ノ商品ナルガ如キ感ヲ與ヘマシテ、全然其價格ヲ支配スルノ力ガ薄弱デアリマス、是ニ於テカ數年來ノ米價暴騰際際シマシテハ、食糧獨立ノ急務ナルコトヲ訴ヘマシテ、朝野ノ人心ハ期せずシテ其對策ヲ案ジ、(サウデゴザイマス)ト呼フ者アリ、或ハ生産ノ増殖デアルトカ、未墾地ノ開拓デアルトカ、農業ノ改良デアルトカ、產米増殖ノ輿論ガ翕然トシテ起テ參リマシタ、蓋シ當然ノ事ト信ズルノデゴザイマス、本員ノ如キモ農業政策ニ就キマシテ是ガ獎勵ヲ完備シ、以テ米ノ増殖ヲ圖リマス、急務ナルコトニ於キマシテハ、十分ニ贊成ノ意ヲ表スルデアリマス、立國ノ根本義ヨリ達觀致シマシテ、又經濟的政策ヨリ考ヘマス、一概ニ此產米ノ獨立ヲ期スルト云フコトガ、果シテ善良ナル策デアルヤ否ヤト云フコトニ就テハ、尙ホ深キ考慮ヲ要スルデア

リマスル(ヒヤ)「簡單ニヤリ給へ」ト呼フ者アリ我國ノ米ノ收穫八年々々豊凶ニ依リマシテ、常ニ其收穫高ヲ異ニシテ居ルノデアリマスル、即チ大正元年ニ於キマシテハ五千二十二万餘石、大正二年ニハ五千二十五万石デアリマス、而シテ大正九年ニハ六千三百十五万石ノ增收トナテ居ルノデアリマス、此大正元年二年ノ不作ノ年ト、大正九年ノ豊作ヲ比較シテ見マスルト、其差が實ニ一千三百萬石ノ以上ニ達シテ居ルノデアリマス、尤モ此政府ノ發表致シマスル統計ハ、其實質ニ於キマシテ正確ナリトハ申サヌノデアリマスルガ、申セヌノデアリマスルガ、免ニ角我國ノ米作ハ、豊凶其差ニ於キマシテ一千萬石以上ノ差ガアルト云フコトハ事實デアリマスル、若シ我國ノ食糧ヲ絶對ニ自給自足ヲ致スト云フコトニナリマスレバ、最モ凶年ノ年ノ收穫量ヲ以テマシテ、我國民ノ需要ノ總額ニ備ヘナケレバナラヌノデアリマスル、斯ノ如キハ到底長キ年月ヲ要シマスルノミナラズ、我國現時ノ農業ノ状態ヨリ考ヘテ見マスルト、之ガ爲メニハ巨額ノ費用ヲ投ジナケレバナラヌノデアリマスル、此巨額ノ國費ヲ一時ニ支出ヲ致シマスルト云フコトハ、一面商工業ノ發展ヲ阻止シ、商工業ノ施設ヲ犧牲ニセナケレバナラヌト云フコトニナリマシテ、商工立國ノ本旨、經濟政策ヨリ言ヒマシテ、到底堪ヘ得ナイ問題デアルト信ズルノデアリマスル、加フルニ此ノ豊年ノ年ニ於キマスル所ノ一千万石以上ノ剩餘米ニ對スル處置ニ就キマシテハ、極メテ困難ナル問題ガ湧イテ來ルノデゴザイマスル、(質問ニ入り給へ)ト呼フ者アリ以上ノ結果ヨリ考ヘマスルト、我國ノ食糧ハ、一面外國米ノ存在スルコトモ忘レテハナラヌノデアリマス、成程一時ノ消極的政策ヨリ考ヘテ見マスルト——經濟策ヨリ考ヘテ見マスルト、年々外國米ノ爲メニ、數千万圓或ハ其以上ノ費用ヲ國外ニ支出ヲ致シマスルト云フコトハ、一見國家ノ經濟ヨリ大ナル損失デアアル如ク見エルトデアリマスル、併ナガラ翻テ經濟的實質ヨリ考ヘテ見マスルト、此間國ヲ舉ゲマシテ貿易ノ伸張ニ努メ、商工業ヲ發展致シマシテ、以テ國富ヲ増進スルコトニ努メマスルナラバ、我國ノ綜合的經濟ヨリ考ヘマスルト、遙ニ利益ノ大ナルモノデゴザイマスル(大阪土產澤山ダンレデ「要領ニ入レ」ト呼フ者アリ)斯ク考ヘ來リマスルト、我國ノ食糧政策ハ、此自給自足ノ程度方針ノ確定致シマセヌ限リハ、到底總テノ施設ガ徒勞トナリマシテ、十分ノ效果ヲ擧ゲ得ルコトガ出來ナイノデアリマス、數年來ノ米價暴騰ニ際シマシテハ、國民ハ暴動ヲモ惹起シマシテ、今尚ホ之ガ救済ノ方策ニ就テ、吾人共ニ憂ヲ深カラシメテ居ルニモ拘リマセズ、一昨年來ノ增收ニ依リマシテ、米價ハ急轉直下ヲシ、今ヤ農家ノ困難ノ大ナルコ

トヲ訴ヘマシテ、農家救済ノ聲ガ喟然トシテ起テ居ルノデアリマスル、而シテ是亦國民ノ大ナル注意ヲ要スベキ問題トシテ、吾人ノ前ニ構テ參タクデアリマス、...

○議長(奥繁三郎君) 上田君ニ再ヒ注意ヲ致シマス、成ベク質問ノ要點ニ入ルコトヲ望ミマス

「要點ニ這入りナハレ」謹聽ト呼フ者アリ

○上田彌兵衛君(續) 洵ニ我國ノ食糧政策程、國家ノ消長ニ大ナル關係ヲ有スルモノハ無イノデアリマス、又之ガ調節策ニ就キマシテハ、至難中ノ至難ナル問題ト言ハナケレバナラヌ、前申上デマシタ如ク我國ノ食糧産米ノ絶對的獨立ヲ期シマスルノニハ、商工業ノ發達ニ多大ノ犠牲ヲ拂フノ虞ガアルノデゴザイマス、サリトテ一朝凶作ノ年ヲ聯想致シマスルト、相當程度ノ自給自足ノ途ヲ講ジテ置キマセヌレバ、前申述ベマシタガ如キ、國民生活ノ安定ヲ脅カスノ虞ガアルノデゴザイマス、是ニ於テカ米價ノ調節ハ、我國産米ノ自給自足ノ程度如何ト云フコトニ依テ決定マルト信ズルノデアリマス、此點ニ於キマシテ、政府ハ如何ナル御方針ト御意見ヲ持テ居ラルルカ、此點ヲ聽キタイノデアリマスル(拍手)第三ニハ此制度ハ主トシテ數量ノ調節デア

ルカ、又價格調節ノ意味ヲモ主ナル目的トシテ加味サレテ居ルノデアリマス、固ヨリ數量ノ調節ハ自然價格ノ調節ニ歸スルノデアリマス、此本末ヲ顛倒致シマスルト、其結果ニ於テ大ナル相違ヲ生ズルノデアリマス、(質問ノ要點ヲ述ベ給へ)ト呼フ者アリ本案ノ第一條ニハ「米穀需給調節ノ爲」トアリマシテ、其次ニ價格調節ト云フコトハ、明記セラレテ居ラナイノデアリマス、而シテ其次ニハ「米穀ノ買入賣渡ヲ爲スコトヲ得」トアリマシテ、此言葉ハ其目的遂行上ノ附帶行爲ト思フノデアリマス、此買入賣渡ナル行爲ガ一朝其運用ヲ誤リマスルト、政府ガ自ら買占ヲ爲シタリ、賣放ヲ爲シタリ致シマスル、所謂投機的行爲ニ陥ルナキヲ保シ難イノデアリマス(「ウ」ト呼フ者アリ)若シ政府ガ此制度ヲ濫用致シマスルニ對シテ買占賣渡等ノ行爲ヲ致シマスルナラバ、其結果ハ却テ目的ニ反對ノ現象ヲ出現致シマシテ米價調節上ニ大ナル弊害ヲ貽スコトヲ憂フルノデアリマス

、近年我國ノ米穀生産ノ狀況ヲ考ヘテ見マスルト、其供給ガ免角需要ニ件ヒマスガ故ニ、是ガ生産増殖ノ爲メニハ有ユル論議ヲサレマシテ、此實行モサレテ居ルノデアリマス、是ト同時ニ價格ノ點ニ於キマシテモ、其年々ノ豊凶ニ依リマシテ高低ガ甚シク、常ニ人心ヲ惱シテ居ル次第デアリマス、而シテ其高キニ失シマスレバ消費者ノ苦情トナリマシテ、若シ低キニ過ギマスレバ、生産者ノ不平トナルノデアリマス、故ニ此米價問題ガ需給ノ過不足問題ヨリモ、常ニ生

産者ト消費者ノ直接ヲ利害ニ關係ヲ致シマスルガ故ニ、世人ガ常ニ此價格ノ問題ニノミ、因ハレマシテ騒イデ居ル状態デアリマス、彼ノ歴代内閣ガ執リ來リマシタル食糧政策モ常ニ此價格ニ偏シマシテ、根本的何等政策ニ觸レマセズ、價格ノ騰落ニノミ拘泥致シマスル缺點ガ見出サル、ノデアリマス、即チ米價ノ高キ時ニハ、之ヲ下落セシメシコトニノミ奔走ヲ致シマシテ、又廉キ時ニハ之ガ騰貴ニ苦心ヲ致シマシテ、而モ其時機ヲ遲延ニスル、デアリマスルカ、假令其效果ガアリマシテモ、唯ダ一時的ノモノデアリマシテ、一因來ラバ復タ一因、一因去ラバ復タ一因、因來ル常ニ調節ヲ云爲スルト云フ狀況デアリマス、(分ク分ク)ト呼フ者アリ)是レ即チ從來ニ於ケル米價政策ノ通弊デアリマシテ、物價ハ常ニ其需給ノ關係ヨリ起ルト云フコトヲ無視致シマシタ結果デアリマス、其失敗ニ了リマスルコトハ、蓋シ當然ノ事ト考ヘルノデアリマス、(簡單)ト呼フ者アリ)申スマデモナク米價ノ由テ生ジマスル原因ハ、經濟上、社會上諸種ノ原因ガアリマセウガ、結局産米ノ多寡、需要ノ増減ノ分配ノ適否等ニ依テ、其實質ニ基キマスル所ノ經濟ノ利用ニ依テ決定マルノデアリマス、故ニ米價ノ調節ナルモノハ、結局需給ノ調節ニ歸スルモノト信ズルノデゴザイマス、然ルニ免角社會ニ於キマシテハ、米價ニノミ重キヲ置キマシテ、歴代ノ爲政者モ亦此米價ノ昂騰ニノミ、因ハレマシタガ爲メニ、茲ニ明ニ政府ノ御意見ヲ聽イテ置キタイ點ガアルノデアリマス、即チ昨年來經濟界ノ變亂ニ際シマシテ、米價ハ急轉直下大暴落ヲ來タシマシテデアリマス、ソレガ爲メニ生産者ハ不賣同盟ヲ形成致シマシテ騒イデ居ル状態デアリマス、此行動ハ政治上或ハ社會上ニ及ボス影響ニ就キマシテハ、他日政府ニ對シテ御問ヲスルノ機會ガアラウト思フノデアリマス、唯ダ此騒イデ居ルト云フコトガ、新聞紙上傳フル所ニ依リマスルト、單ニ此米價ノ釣上ノ爲メニ、早ク此制度ノ實施ヲ政府ニ迫ラテ居ル如キ模樣ガアルノデアリマス(「ウ」ト呼フ者アリ)果シテ本案ガ米價釣上策ニ用井ラルト云フヤウナ誤解ヲ社會ニ起スト云フコトニナリマス、本案ノ解決ノ爲メニモ又非常ナル相違ガ生ズルノデアリマス、本案ノ眞ノ目的ニ對シテ、政府ノ言明ヲ望ムノデアリマス、本案ノ内容ヲ一見致シマスルト、斯ル憂ハナイヤウニ存ズルノデアリマス、若シ斯ル一方ニ偏シタル所ノ考ヲ以テマシテ、政府當務者ガ此制度ヲ運用ヲ致シマスルコトニナリマスルト、此本案ハ十分ニ效果ヲ擧ゲルコト云フコトハ、實ニ六ヶケシ問題ト信ズルノデアリマス、故ニ敢テ此質問ヲ致ス所以デアリマス(日程ガ四十三アルダヨト呼フ者アリ)諸君、第四ニ伺テ置キタイノハ、政府ハ將來米穀官營ノ意思ナキカ、若シ之レ無シトスルモ、何故ニ外米

トヲ訴ヘマシテ、農家救済ノ聲ガ喟然トシテ起テ居ルノデアリマス、而シテ是亦國民ノ大ナル注意ヲ要スベキ問題トシテ、吾人ノ前ニ構テ參タクデアリマス、...

○議長(奥繁三郎君) 上田君ニ再ヒ注意ヲ致シマス、成ベク質問ノ要點ニ入ルコトヲ望ミマス

「要點ニ這入りナハレ」謹聽ト呼フ者アリ

○上田彌兵衛君(續) 洵ニ我國ノ食糧政策程、國家ノ消長ニ大ナル關係ヲ有スルモノハ無イノデアリマス、又之ガ調節策ニ就キマシテハ、至難中ノ至難ナル問題ト言ハナケレバナラヌ、前申上デマシタ如ク我國ノ食糧産米ノ絶對的獨立ヲ期シマスルノニハ、商工業ノ發達ニ多大ノ犠牲ヲ拂フノ虞ガアルノデゴザイマス、サリトテ一朝凶作ノ年ヲ聯想致シマスルト、相當程度ノ自給自足ノ途ヲ講ジテ置キマセヌレバ、前申述ベマシタガ如キ、國民生活ノ安定ヲ脅カスノ虞ガアルノデゴザイマス、是ニ於テカ米價ノ調節ハ、我國産米ノ自給自足ノ程度如何ト云フコトニ依テ決定マルト信ズルノデアリマス、此點ニ於キマシテ、政府ハ如何ナル御方針ト御意見ヲ持テ居ラルルカ、此點ヲ聽キタイノデアリマスル(拍手)第三ニハ此制度ハ主トシテ數量ノ調節デア

ルカ、又價格調節ノ意味ヲモ主ナル目的トシテ加味サレテ居ルノデアリマス、固ヨリ數量ノ調節ハ自然價格ノ調節ニ歸スルノデアリマス、此本末ヲ顛倒致シマスルト、其結果ニ於テ大ナル相違ヲ生ズルノデアリマス、(質問ノ要點ヲ述ベ給へ)ト呼フ者アリ本案ノ第一條ニハ「米穀需給調節ノ爲」トアリマシテ、其次ニ價格調節ト云フコトハ、明記セラレテ居ラナイノデアリマス、而シテ其次ニハ「米穀ノ買入賣渡ヲ爲スコトヲ得」トアリマシテ、此言葉ハ其目的遂行上ノ附帶行爲ト思フノデアリマス、此買入賣渡ナル行爲ガ一朝其運用ヲ誤リマスルト、政府ガ自ら買占ヲ爲シタリ、賣放ヲ爲シタリ致シマスル、所謂投機的行爲ニ陥ルナキヲ保シ難イノデアリマス(「ウ」ト呼フ者アリ)若シ政府ガ此制度ヲ濫用致シマスルニ對シテ買占賣渡等ノ行爲ヲ致シマスルナラバ、其結果ハ却テ目的ニ反對ノ現象ヲ出現致シマシテ米價調節上ニ大ナル弊害ヲ貽スコトヲ憂フルノデアリマス

、近年我國ノ米穀生産ノ狀況ヲ考ヘテ見マスルト、其供給ガ免角需要ニ件ヒマスガ故ニ、是ガ生産増殖ノ爲メニハ有ユル論議ヲサレマシテ、此實行モサレテ居ルノデアリマス、是ト同時ニ價格ノ點ニ於キマシテモ、其年々ノ豊凶ニ依リマシテ高低ガ甚シク、常ニ人心ヲ惱シテ居ル次第デアリマス、而シテ其高キニ失シマスレバ消費者ノ苦情トナリマシテ、若シ低キニ過ギマスレバ、生産者ノ不平トナルノデアリマス、故ニ此米價問題ガ需給ノ過不足問題ヨリモ、常ニ生

官營ノ制度ヲ採用セザリシカ、又將來米穀官營ノ意思アリトスレバ、現在ノ取引所ヲ如何ニ處置セラレントスルカ、本案ハ前述ノ如ク、歴代内閣ノ米價政策ヨリ一步ヲ進メマシタ持久ノ政策デアリマスルカ、經濟施設ト致シマシテハ、理論上又實際上ヨリ致シマシテ不可ナキモノト信ズルノデアリマスルカ、變化極リナキ我國ノ米界ニ處シマシテ、其運用ガ適當ニ行ハル、ヤ否ヤニ就キマシテハ、唯ダ吾人ノミナラス、政府ニ於キマシテモ、頗ル案ヅラレテ居ル點ト信ズルデアリマス、米穀ノ如キ我國ノ食糧品ノ主要物ト致シマシテハ、其價格ノ高低ハ、直チニ國民ノ生活ノ上ニ大ナル影響ヲ與ヘマシテ、其政策ノ良否ハ、寧ロ國家ノ消長ニ關スル問題デアリマスルカ、寧ロ根本政策ヨリ致シマシレバ、之ヲ官營ニ致シマスルト、極メテ徹底ノナリト信ズルノデアリマスルカ、サリトテ之ヲ官營ニ致シマスル上ニ於テハ、事極メテ重大ナル問題デアリマスルカ、論議シ又研究スベキ事項ガ澤山アラウト信ズルノデアリマスル、併ナガラ其大要ヲ申上ゲマスレバ生産分配ノ二ツナガラ政府ノ管理ニ屬セシメラル、ノデアリカ、又生産セルモノヲ買上ゲテ、分配ノミヲ管理スルノデアリカ、此二點デアリマスル、而シテ我國ノ取引所ハ、米ノ公定相場ヲ定メマスル所ノ唯一ノ機關デアリマスル、古來幾多ノ歴史ノ變遷ヲ以テマシテ今日ノ發達ヲ見マシタノデアリマスルカ、若シ米穀官營ト致スコトニナリマスレバ此處分ニ就テハ深甚ノ注意ヲ拂ハネバナラヌノデアリマスル、ソレ故ニ政府ハ將來官營ノ意思アルカヲ問フテ置キタイノデアリマスル、而シテ若シ無シトスルモ、此得失ニ就テ調査研究セラレタコトガアリマスルナラバ、其調査材料ヲ議會ニ與ヘラレントト希望スルノデアリマス、尙ホ内地米官營ノ御意思ナシトスルモ、外米官營ハ本案ヨリ有效ナラシメマスル上ニ於テ、必要ト認メルノデアリマスルカ、政府ハ何故ニ外米管理ノ制度ヲ採ラナカッタノデアリカ、我國産米ノ狀態ハ前申述ヘマシタ如ク、其年ノ豊凶ニ依リマシテ、或ハ其需要ノ増減ニ依リマシテ、種々ナル變化ヲ來タスノデアリマスカラ、之ガ調節ニ方リマシテハ、政府ハ外米ヲ管理致シマシテ、需給上ノ弾力性ヲ茲ニ用意シ置クノ必要ガアラウト信ズルノデアリマス、然ラザレバ本案ノ運用ハ甚ダ狭少トナテ、徹底セル效果ヲ現ハスコトガ甚ダ困難ナリト信ジマス、此點ニ就テノ政府ノ所見果シテ如何ト云フコトヲ御尋スルノデアリマス(拍手)

○議長(與繁三郎君) 外ニ質疑者ガアリマスカラ呼ヒマ

○國務大臣(男爵山本達雄君) 第一ハ農商工鼎立、此モ

官報號外 大正十年二月二十四日 衆議院議事速記録第十八號 米穀法案外二件 第一讀會

ノニ就テ商工立國デアリカ、農ニ就テハ云々ト云フコトニ就テ、色々長ク御演說ガアリマシタガ、要シマスルノニ政府ニ於キマシテハ、農ト云ヒ、高ト云ヒ、工ト云ヒ、之ニ就テ別段區別ヲ立テ居リマセヌ、(ヒヤ)「我國ハ農商工鼎立ヲ主トシテ今日進んで居ル次第デアリマス(拍手起ル)ソレカラ第一ニハ絕對ノ自給ヲ欲スルカ、或ハ如何ナル程度カト云フコトデアリマスガ、政府ニ於キマシテハ自給ヲ欲シテ、成ルタケ此需給ノ關係ヲシテ、均一ニ來タスベキ方針ヲ執リツ、アルノデアリマスガ、是ハ絕對ニヤルト云フコトハ餘程困難デアル、又非常ニソレハ年モ費スコトデアリマスカラシテ、是ハ絕對ト云フコトハ出來マセヌ、出來マセヌガ、成ベク其兩方ニ就テ近寄ラセラルベクメニ進んで居ル次第デゴザイマス、ソレカラ物價調節ノ程度デゴザイマスルカ、此事ニ就キマシテハ、數量或ハ價ト云フコトニ付テノ色々論議ガアルノデアリマスガ、政府ニ於キマシテハ、此法ヲ立テマシタル主ト致シマスルコトハ、我國ノ穀物ノ充實ヲ圖リタイト云フノガ大眼目デアリマス、ソコデアリマスル故ニ、其充實ヲ圖ルト云フメニハ、剩リノアル時ニ成タケ買ツテ、サウシテ不足ノアル時ニ於テソレノ供給ヲ爲シタイ、ソレデ調節ヲ圖リタイト云フノデアリマス、元ガ充實ガ主トナテ居リマス、サウシテ其數量ノ多寡ニ依リマシテ、物價ノ高低ガ起ルノデアリマスカラ、高イカラ賣ル、廉イカラ買フト云フヤウナ事ヨリモ、其品物ガ多クテ剩リガアル故ニ、其時ニ買ツテ置ク、又少クナル故ニ、其時ニハ數量ヲ賣ツタナラバ自ラ價ガ下ルデアラウ、米ノ價ノ下ル上ルト云フコトハ、其品物ノ多イ寡イニ依テ起ルコトデアリマスル故ニ、成タケ數量ノ調節ヲ圖テ來タナラバ、自ラ物價ノ高低モ支配スルヤウニナルダラウ、斯ウ云フ精神ニ於テ此法ヲ行ヒタイト思フノデアリマス、ソレカラ米穀官營ニ就テノ意思如何、又外米ニ就テ何故官營ニセナイカト云フコトデアリマスルカ、政府ニ於キマシテハ先ヅ此物價ノ高低、或ハ品物ノ多寡ト云フモノニ於キマシテハ、餘リ政府ガ干涉ガマシイ事ヲ致シマスト云フト、自然ノ調節、自然ノ發達ヲ動モスルト害スルヤウナ事ガアリマスカラ、成タケ斯ウ云フ事ハ、自然ノ高低ニ委セルト云フコトガ必要デアラウト思フノデゴザイマス、ソレ故ニ是ガ起リマシテモ、先ヅ十ノモノハ七八ハ自然ノ高低ニ委セテ置イテ、サウシテ餘リニ極端ニ趨ル如キ時ニ於テ、調節ヲ圖リタイト云フ考デアリマス、官營ノ事ニ就キマシテハ、政府ニ於キマシテ是迄色々調ベモ致シマシタガ、爰ニ斯ノ如キ調節アルトシテ提出スル所マデ至テ居リマセヌ、併ナガラ今日官營ノ意思ハアリマセヌ、先ヅ米穀法ヲ以テ、或ル點マデ調節ヲ圖ルコトガ出來ルモノト承知シテ居リマス、ソレカラ外米ノ事ニ就キマシテ、是モ今日ハ外米ヲ自ラ政府ガ管理スル、即チ官營ニスルト云フ考

ハアリマセヌ、併ナガラ今日ノ法案ニ於テ、或ハ穀物ノ輸入税ノ増減、減免、又輸入外米ノ制限、制止ト云フヤウナ事ハ、其時ノ必要ガアレバ爲スト云フコトノ權利ヲ政府ニ與ヘテ貴ヒタイト云フ考デ、此法案ガ制定シテアリマス、官營ニ致サヌデモ、此途ヲ以テ取捨按排ヲシタラバ、其邊ノ目的ヲ達スルコトニ就テ、餘リ困難ハアルマイト云フ考デアリマス、大體ハ斯ノ如クデアリマス(拍手起ル)

○議長(與繁三郎君) 齊藤宇一郎君

○齊藤宇一郎君 只今上程ニナテ居リマス三案ハ、頗ル重大ナ案デアリマシテ、私モ二三ノ點ヲ質問シテ、大體ノ立法ノ趣旨ヲ明ニ承テ置キタイト思ヒマス、第一ニ御伺シタイ事ハ、只今上田君ノ質問ノ中ニモアッタヤウニ思ヒマスガ、第一條(需給調節)ト云フコトヲ掲ゲテアリマス、又只今農商務大臣ノ御辯明ニ依リマシテモ、此量ノ問題ヲ主トシテ立法セラレタト云フコトヲ、辯明セラレテ居ルノデアリマシテ、價格ノコトニ對シテハ、言及セラレテ居ラヌノデアリマス、要スルニ量ノ高ハ、隨テ價格ニ影響スルコトハ當然デアラト云フ意味ニ於テ、需給ニ重キヲ置カシテ、立法セラレタノデアラウト思ヒマスケレドモ、第三條ヲ見マスルト「價格及期間ヲ告示ス」トアリマシテ、量ハ告示シナイコトニナテ居リマス、若シ夫レ量ト云フコトニ重キヲ置イテ本案ヲ運用スルコトニナリマスレバ、價格ニ拘ラズシテ何所迄モ剩リテ居ルト云フ其數量ヲ買上ゲナケレバナラナイト云フコトニ陥リマス、上田君ノ質問ハ、商工本位デ議論セラレタヤウデアリマシタガ、若シ數量本位デアリマスレバ、其剩リテ居ルト云フ量ヲ買ヒマスレバ、價格ニ拘ラズ買上ゲナケレバナラヌト云フコトニ理論上陥ルノデアリマスガ、政府ハ如何ナル方法ニ依テ此量ヲ定メ、又如何ナル方法ニ依テ價格ヲ定メ、而シテ其買上ノ時期等ハ、如何ナル機關ニ依テ定メテ行クノデアアルカト云フコトガ、此法ノ上ニ於テ明ニナテ居リマセヌ、是ハ頗ル重大ナ事デアリマシテ、隨テ吾等ニ是迄承ツタ所ニ依リマシレバ、臨時經濟調査會ニ於キマシテノ調査ノ中ニモ、需給調節委員會ト云フモノガ設ケラレルト云フコトニナテ居シテ、其委員會ト云フモノハ頗ル重大ナル責任ヲ以テ、是等ノ問題ヲ慎重ニ研究シテ、而シテ此間ニ於テ遺漏ナキヲ期サナケレバナラヌヤウニナテ居タト云フコトヲ漏聞イテ居ルノデアリマス、又政府ノ案モ、其需給調節委員會ト云フモノヲ置カレルト云フコトニナテ居タト云フコトヲ漏聞イテ居リマスガ、只今此案ヲ受取テ見マスルト、此米穀法ニハ其事ガ削ラレテアッテ載テ居リマセヌ、又其等ノ組織ヲ勅令ニ依テ定メルトカ何トカ云フ規定モ無イヤウデアリマス、而モ此價格ヲ定メ、量ヲ定メテ此法ヲ行フト云フコトガ本法ノ骨子デアリマ

スカラ、此調節委員會ト云フ類ノモノハ、頗ル重要ナルモノデアリマシテ、隨テ責任モ大ナルモノデナケレバナラヌデアリ故ニ必ズ本法ノ條項ノ中ニシテ明ニ規定サレテ、最も權威アルモノニテ居ラナケレバナラヌノニ、其條項ノ削ラレテ居ルコト、一爰ニ規定ガ無イト云フコトハ、如何ナル理由デアルカ、是ガ私ノ米穀法ニ對スル疑問デアリマス、即チ之ヲ要言スレバ、量ノ問題デアアルカト思ヘバ、第一條ヲ讀メバ第三條ニ於テ其量ヲ告示スルト云フコトハ、削ラレテ、價格ト期間ト告知スルト云フコトニテ居ル、サウスレバ是ハ價格主義、即チ米價主義ヲ第三條デハ採テ居ルヤウニ見エルトデアリマス、孰レガ此立法ノ精神デアルカ、而シテ斯ノ如キ事ヲ調査研究スル所ノ何等カノ機關ガナケレバナラヌノニ、其大切ナル事項ヲ本法ニ掲ゲテ居ラヌノハ、如何ナル譯デアアルカト云フコトヲ御尋致シタイノデアリマス、第二ノ特別會計法中ニモ色々疑問ガアリマス、其主ナルモノヲ申上テマスガ、第三條ニ「米穀ノ買入代價ハ外國ヨリ直接ニ買入ル、場合ヲ除クノ外一年內ニ償還スヘキ證券ヲ以テ其ノ額面金額ニ依リ之ヲ交付ス」斯ウ規定シテ居リマス、サウシマスルト云フト、政府ハドレダケノ分量ヲ買フノデアルカ知レマセヌガ、例ヘバ三百万石買フト云フコトニナリマスレバ、三十圓トシマシテモ九千万圓ノ證券ヲ發シテ居ラナケレバナラヌト云フコトニナル、其金ハ其年度內ニ於テ、之ヲ償還シナケレバナラヌト云フコトヲ爰ニ規定シテアルノデアリマス、果シテ之ヲ償還スルトスレバ、政府デ買テ居ル米ト云フモノハ、其償還期間ノ間ニハ賣ラナケレバナラヌト云フコトヲ是ハ聯想シナケレバナラヌノデアリマス、果シテ然リトスレバ、何時デモ此政府ノ買入レタ所ノ三百万石ト云フ米ガ市場ヲ壓迫スルト云フコトハ當然ノ事ニナルノデアル、斯様な事デハ實際此需給關係ノ上カラ、又農家經濟ノ上カラ考ヘテ見マシテ、非常ニ是ハ面白クナイ所ノ結果ヲ惹起シハセヌカ、又此常平倉ト云フモノ、性質カラ考ヘテ見マシテモ、是ハ米ガ剩リテ居レバ賣ラナイト云フ事ガ、根本ノ意義ニナテ居ラナケレバナラヌ賣ラナイト云フ事ガ、然ルニ其米ヲ持テ居ル所ノ資源、其代價ト云フモノハ、一年ノ間ニ償還シナケレバオラヌト云フ此法規カ以上ハ、ドウシテ之ヲ持テ居ルノデアルカ、必ズ是ハ何等カノ方法ニ依リテ賣ラナイト云フ明カナル國民ガ信賴スルダケノ資源ヲ持テ居ラナイト云フ其安心ガ無ケレバ、此米穀法案ト云フモノハ、是ハ有テモ無クテモ、同ジ事ニナリハセヌカト思フノデアリマス、果シテ其安定ヲ得ルニハ、ドウシテモ爰ニ政府ハ何等カノ資源ヲ積ンデ置イテ、サウシテ此米ヲ若シ量ガ多イ場合ニ於テハ何年デモ賣ラナイト云フダケノ、鞏固ナル基礎ガナケレバナラヌト思フノデアリマスカラ、政府ハ其點ニ就テ如何ナル所信ヲ持テ

居ラル、ノデアアルカ、サウデナケレバ是ハ日本銀行カラシテ、最後ニハ其金ハ借入金トシテ殘シテ置カケレバナラヌト云フコトニナリマス、故ニソレヲ本法ニ於テ認ムルノデアアルカ、例ヘバ若シ其米豐年デアルト云フコトデアレバ、此米ト云フモノハ長ク貯藏シナケレバナラヌト云フコトニナリマスカラ、爰ニ會計法ニ規定シテアル一年デ償還シナケレバナラヌト云フ事モ、或ル場合ニ於テハ是ハ或ル方法ニ依テ、返済シナケレバモ宜イト云フ考ヲ持テ居ラル、ノデアアルカ否ヤ、其點ヲ御尋致シタイト思フノデアリマス、ソレカラ罹災救助基金ノ改正案ニ於キマシテ、先刻大藏大臣ノ御説明ハ、頗ル簡單デ要ヲ得マセヌノデアリマス、唯ダ米ヲ買入レルコトニシタナラバ、此場合非常ニ都合ガ好イト云フ意味ニ於テ、改正案ヲ出シタト云フ御話デアリマシタガ、此罹災救助基金ハ、確カ全國ヲ通ジテ六千万圓程金高ハアルト云フコトニ記憶シテ居リマスガ、併ナガラ其現金ト云フモノハ、四五百萬圓ノモノデアラウト私ハ考ヘテ居リマス、ソレダケノ金ヲ政府ガ中央ニ集メテ、サウシテ此米穀法ノ出資ノ上ノ資源トスル御考デアアルカ、或ハ各縣ニ金ノアリ次第ニ、自由ニソレデ米ヲ買ハスト云フ御考デアアルカ、若シ各縣ニ自由ニスルト云フナラバ、如何ナル方法ニ依テ之ヲ行フノデアアルカ、或ハ又之ヲ目下頻リニ要求シテ居リマスル所ノ低利資金ノ一部トシテ、産業組合ナリ、農業倉庫ナリニ運用ヲ致シテ而シテ幾分カ其等ノ機關ノ運用ヲ便利ニシヤウト云フ爲メニ此罹災救助基金ヲ利用スルト云フ御考デアアルノデアアルカ、其點ハ少シク御説明ガナケレバ、吾々理解ニ苦シムノデアリマス、ソレヲ明ニ御説明ニナラナケレバ、目下此米ノ問題、殊ニ農家經濟上カラ申シマスレバ、價格ノ問題ガ非常ニ八釜シイコトニナテ居ルノデアリマス、然ルニ此價格ノ問題ヲ申シマスト云フト、是ハ何カ商工業者ノ不利益デモ働クヤウニ成者ハ誤解スルノガ、非常ニ國家ノ爲メニ憂フルノデアリマシテ、若シ價格ガ適當ナル程度ニ維持サレナケレバ、本年度ノ肥料ノ入レ方カラ、耕作ノ仕方カラ、遂ニ此秋ニ至ラテ非常ニ減收ヲ來タシハシナイカト云フコトヲ、一般ニ慮レテ居ルノデアリマス、故ニ若シ果シテ斯ノ如キ事ガアリマシタナラバ、今日ノ是ハ單ニ農業者ダケ利益ヲ圖ルモノデアルト云フ其誤解シタ人ガ、他日臍ヲ嚙ンデモ及バザル所ノ非常ナル高イ米ヲ食ハナケレバナラヌヤウニ陥ルデアラウ、(ヒヤ)「拍手」故ニ私共ハ決シテ生産者側ノ利益ヲ考ヘテ居ルノニ非ズシテ、ドウシテモ是ハ消費者ガ將來非常ナル窮地ニ陥ラナケレバナラヌト云フノデ、此價格問題モ大ナル問題トシテ考ヘテ居ルノデアリマス、政府ノ提案ヲ見マスト云フト、唯タ單ニ分量ノ調節ダケスレバ、ソレデ足レリト云フヤウナ御説明ハ、何カ爰ニ言フニ言ハレヌ所ノ理由ガ

アツテ、隠レテ物ヲ言テ居ラル、ノデハナイカト思フ節モアルノデアリマス、是ハ國民ニ明ニ徹底スルヤウニシテ、生産者モ消費者モ此法ヲ巧ニ運用シテ、公平ナル判斷ニ依テ價格ヲ定メ、量ヲ定メ、而シテ消費者モ生産者モ、安心シテ此重要ナル所ノ米ト云フ問題ヲ考ヘルヤウニ御説明ニナラナケレバ、折角ノ案モ、是ハドウ云フ風ナ運命ニナルカモ判ラヌコトニナルカモ知レヌ、故ニ政府ハ、虚心坦懷ニ國民ト共ニ此問題ヲ研究スル態度ニ於テ、明ニ其邊ノ事ヲ此席ニ於テ御辯明ニナルコトハ、本案ノ成立ノ上ニ於テ利益ナ事ト思ヒマスカラ、農商務大臣及大藏大臣ガ、爰ニ詳細ナル御説明ヲナサルコトヲ要求致シマス(拍手起ル)

○國務大臣(男爵山本達雄君) 只今御質問ノ、價格ヲ如何ニシテ協定スルト云フコトデアリマス、是ハ矢張此法律案ガ法律ニナリマスレバ、ソレニ依テ勅令ニ依リマシテ、サウシテ調節委員會ト云フモノヲ設ケテ、ソレニ依リマシテ調節委員ニ任命スルト云フ考デアリマス、ソレニ依リマシテ調節委員ト云フ積リデアリマス、即チ價格ヲ定メ、又買入レルト云フヤウナ事ニ就テモ皆ナ此委員會ニ諮ラテ、サウシテ成タケ公平ニ、又ハ隱微ニ行ハレヌヤウニ、明ニヤリタイト云フ積リデアリマス、免角斯ウ云フ事ニ於テハ餘リ少數ノ人ガヤリマス、色々ナル批評モ起テ參リマスカラ、其邊ハ餘程明ニシタイト云フ積リデアアルノデアリマス、ソレカラ一條ニ於テ米ノ數量ガ示シテナイ、シテ見ルト米ノ數量ト云フモノヨリモ、價ト云フ方ニナテ居ル疑ガアルト云フ御質問デアリマス、是ハ初ヨリ申ス通りニ、數量ガ主トナテ居ルノデアリマス、御承知ノ通りニ米ノ高イ廉イト申シマシテモ一般ノ物價ガ廉イ爲メニ、ソレニ準ジテ矢張米モ廉クナル、又一般ノ物價ガ經濟上ノ狀態ニ伴レテ高クナル、ソレ故ニ米モ矢張同ジ比例ヲ以テ高クナルノデアアル、斯ウ云フ事ト、經濟社會ノ狀態ニ於テ諸物價ハ餘リ高低ハ無イガ、米ソレ自身ニ於テ、豐凶過不足ガ起ル爲メニ米ガ高クナルノデアアル、或ハ低クナルノデアアルトシテ、申サバ其物價單獨ニ高低ヲ致スト云フ場合ガ、折御承知ノ通りアルノデアリマス、此所ガ此法ニ於テ大ニ考ヘナケレバナラヌ點ニナルノデアリマス、假令米ガ廉クナリマシテモ、總テ諸物價ガ廉クナテ、ソレニ伴レテ廉イト云フモノデアリマスレバ、之ヲ米單リ高クナルヤウナルコトガ生ジマス、亦一方ソレニ就テ害ガ起テ參リマス、併シ米ガ不足シテ居ルガ故ニ高クナリ、又餘リ豐作デ多過キタ故ニ低クナルト云フ高低ノアル場合ニ於テハ、多イ時ニ買入レ、少イ時ニソレヲ賣テ、サウシテ平均ヲ得テ調節ヲ圖リタイト云フノデアリマス、ソコデアリマス

均ヲ得テ調節ヲ圖リタイト云フノデアリマス、ソコデアリマス

ガ故ニ、矢張數量如何ニ依テ、政府ノ買フ賣ルト云フコトヲ決スルコトガ主トナルノデアリマシ、併ナカラ數量ガ主トナシテ居ル、主トナシテ居ルガ故ニ、數量ノ餘テ居ルト考ヘルダケノモノハ、假令百萬石デアラウガ二百萬石デアラウガ、買フノデアルト云フコトニシテ、價ヲ少シモ願ミナシト云フコトニナリマスレバ、亦價ナルモノガ非常ナル高イモノニナル場合モ、必ズ生スルデアラウ思ヒマス、何故ナラバ政府ニ於テハ必ズ是ダケ買フト云フコトニナシテ、サウシテ後ニ價ヲ示シテ、是レモミナラバ何月ヨリ何月マデハ買入レルト云フコトヲ告示シマシテモ、其價ガ賣ラヌ前ニ甚シク高クナラテ來テ、一向手ニ入ラナイト云フコトニナシテ、其狀態ニ依テハ、或ハ控ヘナケレバナラヌト云フコトガ生ズルノデアリマスカラシテ、サウ云フ如キ事ハ、矢張其時ノ事情ニ依テ、臨機適當ナル處置ヲスルト云フコトノ餘裕ヲ持テ居リマセヌト、必ズ政府ガ是ダケノモノヲ買フト云フコトガ故ニ、高クテモ何デモ買ハナケレバナラヌト云フコトヲ買フコトノ起ルノヲ虞ルノデアリマス、固ヨリ價ヲ定メテ參リマスカラシテ、其價ヲナケレバ買ハヌト云フコトモ生ジマスケレドモ、此價ヲ以テ政府ハ必ズ是ダケ買フト申シマスル、其數量ノ入ラヌ間ニ見込ヲ以テ甚シク高クナルト云フヤウナ場合ハ、必ズ生ズルコト、思フノデアリマスカラシテ、ソレハ假令數量ヲ主ト致シマシテモ、餘リ釣合ヲ失シタ高イヤウナコトガアレバ控ヘナケレバナラヌノデアリマスカラ、其邊ノ餘地ヲ以テ、其數量ヲ爰ニ法律的ニ示シテ居テヌノデアリマス、併ナカラ實際ニ於テハ買フカト云ヘバ、此時期ニ於テハ、何万石買フ、何十萬石買入レルノデアルト云フガ如キ事ハ、實際ニ於テハ必ズ前スコトニ相成ラウト思ヒマスガ、必ズ示サナケレバナラヌト斯ウ法律ニ定メラレマス、實際ニ於テ甚シク不便ヲ感ズルデアラウト云フコトデアアルカラ、彼ノ數量ヲ掲ゲズニ置イタ次第デアリマス、ソレデアリマスカラシテ、數量ヲ主トスルガ、價ハソレナララウト構ハヌカト云フト、サウデアアリマセヌ、今申上デマシタ通り、價ハ數量ニ依テ自ラ定メテ居リマス、米ソレ自身ハ今申シマス如キ取捨ヲシテヤリマスレバ、實際ノ事ハ數量ヲ入レルノモ價ヲ定メテ買入レルノモ、サウ酷イ喰違ハアルマイト思ヒマス、特別會計ニ就キマシテハ、大藏大臣ヨリ説明ガアラウト思ヒマスカラ私ハ控ヘマスガ、是ハ手形ハサウナシテ居リマスガ、米ヲ其時ニ賣ルト云フコトハ決シテアリマセヌ、此法ニ於テ説明ヲ致シマシタル如ク、政府ハ餘リアル時ニ買フテ置クノゴザイマス、若シ一年經テモ二年經テモ三年經テモ米ヲ賣ル必要ガナイ、豐作ガ續イテ賣ル必要ガ無ト云フナラバ何年經テモ賣ラナイ、而シテ何カ米ノ腐敗ガ起ルトガ、品質ガ惡クナルト云フヤウナ事ガアリマス、ソレダケノモノハ又新シイ物ニ代ヘテ、古

イ物ハ賣ラヌ、矢張數量ニ於テハ從前ノ通り時ヘテ置イテ、サウシテ他日不足ノ用ニ備ヘルト云フ考デアリマス、又會計上ニ就テノ其邊ノ經緯ノコトハ、大藏大臣ヨリ説明致シマス

○議長(奥繁三郎君) 大藏大臣

(國務大臣子爵高橋是清君登壇拍手起ル)

○國務大臣(子爵高橋是清君) 御質問ノ證券ノ事ニ就テデアリマスガ、是ハ十二箇月ヲ超ユルコトヲ得ナイ期限ニナシテ居リマス、故ニ十二箇月經テマシレバ、無論額面ノ金額ヲ日本銀行ニ於テ支拂テヤル譯デアリマス、併シ御尋ノ趣意ハ、手形ハ取り來ルガ、一方ニ於テ米ヲ賣ラナイデ居タナラバ、如何ナル金ヲ以テ其米ヲ貯ヘルカト云フコトノ御疑ガアルデアウト思ヒマス、ソレハ一方ニ於テ借入金ヲスルヤウニ此規則デハ出來テ居リマス、此借入金ト云フモノニハ、年限ガ定メテナイノデアリマス、發行スル所ノ證券ニ限リテ年限ガ定メテアリマス、故ニ手形ハ支拂ヲシテ、米ハ賣レズニ手許ニアルト云フ場合ニハ、借入金ヲ以テ其米ヲ維持スルト云フコトニナルノデアリマス、(高聲ニ願ヒマス)ト呼フ者アリ)ソレカラスウ云フ疑ガ起ルカモ知レナイ、サウスレバ二億ノ制限ト云フコトニナシテ、最高額ガ二億トナルカラ、不足ヲ生ジハセヌカト云フ疑モ起ルカモ知レマセヌ、免ニ角此法案ト云フモノハ、兩院ヲ通過シマシレバ初メテノ試デアリマスカラ、其狀況ニ依リマシテ、此手形ノ發行額ハ、借入金ノ金額ガ二億不足ヲ告グルト云フ場合ニ於キマシテハ、之ヲ増加スルノ必要アルコトハ無論デアリマス、併シ先ヅ初メテノ試デアリマスカラ、最高額ヲ二億トシテ置イテ今日ノ所行フコトガ出來ヤウ、斯ウ存ジテ居ルノデアリマス、ソレカラ罹災基金ノ事デアリマスガ、是ハ今日デハ只今モ御述ニナシテ、六千萬圓餘ノ罹災基金ガ各府縣通シテアル、多クハ有價證券或ハ地方債等ニ今日ハナナテ居リマスガ、尙ホ其等ノモノヲ差引イテ、手許ノ殘金ガ三百四十五萬圓ノ現金ガアル勘定ニナシテ居リマス、ソレハ其地方々々ニ於キマシテ天災等ノ爲メニ物資ヲ供給スルト云フノガ本來ノ趣旨デアリマス、ソレ故ニ地方ニ依リマシテ萬一ノ場合ニ備ヘルノ、米ヲ貯ヘテ置クト云フコトモ、至極罹災ノ趣意ニ適フコトデアラウト考ヘルノデアリマスカラ、今日米穀法ヲ設ケマスル以上ハ、地方ノ罹災救助基金ヲ以テ、地方ノ望ニ依テハ米穀ヲ買入レテ置クト云フ途ヲ開クコトガ至當ナリト云フ考デ、其法ヲ設ケタノデアリマス(拍手)

○議長(奥繁三郎君) 前川虎造君

(前川虎造君登壇拍手)
○前川虎造君 大分先程カラノ御質問ニ依リマシテ私共ノ疑問ヲ氷解致シマシタガ、尙ホ二三判ヲ又所ガアリマスカ

ラ、此場合同シテ置キタイト思ヒマス、吾々ハ此米穀問題ト云フモノニ對シマシテハ、強チ生産者ノ側バカリカラ見テ居ル者デナイ、一體政治ニ大切ナル事ハ國家ノ存立デアアル、國家ノ存立ト云フモノハ、其國民ノ安固安定ト云フモノヲ根柢ニ置カナケレバナラヌノデアアル、一昨年來國民ノ思想ニ多少ノ動搖ヲ來シ、或時ハ危險思想ノ如キモノモ現ハレタ、ト云フコトハ何ニ原因致シテ居ルカト云ヘバ、悉ク生活難ト云フモノガ主ナル原因ヲ成シテ居ル、ソレデ此生活難ノ緩和ト云フコトハ、國家ノ存立、國民ノ生存ト云フ事ニ大切ナル問題タルコトハ、申スマデモナイ事デアリマス、故ニ政府ハ食糧ト云フモノニ就テハ、非常ナル御考慮ヲ下サルト、云フコトハ吾々ノ深ク感謝スル所デアリマス、併シ一體政府ガ此穀物問題ニ就テ、何ヲ根據トセラレテ總テノ施設ヲナサレテ居ルカ、此點ニ於テ吾々ハ大ナル疑問ヲ持テ居ル、ト云フハ、此穀物ニ就テノ問題ノ起リタノハ、今日ニ始マツコトデハナイ、大正二年米ガ十圓内外ニ下ツタト云フ時ニ、痛切ニ國民ガ感ズタノデアリマス、又政府モ之ヲ感ズタノデアリマス、ソレカラ近クハ大正八年即チ一昨年デアアル、一昨年来價ガ暴落致シマシテ、石五十四圓ノ、五十五圓ノト云フ價格ヲ示ス際ニ至シテ、國民ガ非常ニ不安ヲ感ズタノデアアル、此場合ニ政府ハ如何ナル處置ヲ御執リニナシタカ、其當時政府ハ臨時事件費カラ、七千八百八十萬圓ト云フ巨額ノ金ヲ投シテ外國米ヲ百五十八萬石餘ヲ御買入ニナシタノデアアル、其買入ニナシタ原因ハ何所ニ在ルカ、米ガ足ラナイ、米ガ足ラナイカラ、此際此米價ヲ調節スルノニハ、米ヲ外國ヨリ買テ來テ之ヲ市場ニ撒布スレバ、此價額ガ調節サレルト云フ御見込ヲ以テ御買入ニナシタノデアアル、然ルニ其結果ハドウナツタノデアアルカ、其結果ハ高等官ニ犯罪人ヲ出シ、ソレカラ指定商人ニ不都合ナル者ヲ出シ、却テ其買入レタ米ナルモノハ、政府ガ目的トシタ所ノ、市中ノ生活難ニ苦シテ居ル者ニ供給スル能ハズシテ、却テ米ヲ持テ居ル所ノ農民ガ之ヲ買フテ食ツタト云フ、非常ナ奇妙ナル現象ヲ現ハシタノデアリマス、而シ又驚クベキハ此莫大ノ金ヲ御出シニナシテ買取タ米ヲ、政府ガ應急ノニ之ヲ撒布スルコトガ出來ナクテ、遂ニ五十萬石ト云フモノヲ今尙ホ之ヲ倉庫ニ御貯藏ニナシテ居ルデハナイカ、然ラバ一體何ノ爲メニ此米ヲ買ウタノカ、今日米ノ剩餘ヲ來スト云フ、此剩餘米ノ高ク多クスル爲メニ御買入ニナシタト見ルヨリ外、我々ハ見ラレナイノデアアル、假令五十萬石ニセヨ、今日此米ガ無クナラバ、ソレダケ此過剩ノ米ガ減シテ居ルト云フコトニナシテ居ルノデアアル、又大正八年度ニ泡ヲ食シテ、政府ガ米ガ足ラナイカラ米ヲ買フノデアアルト云フテ御買入ニナラナクテ、此米ヲ何トカシテ農民ノ懷中ヨリ吐出サセテ、市場ニ撒布スルト云フ手段ヲ御執リニナシテ居

タナラバ、今日此米が如ク四百萬石、五百萬石ト云フ過剩が出來ズ、確ニ二百五十萬石ト云フ米が減テ居ルノデアル、故ニ此政府ノ政策ノ錯誤ガ、即チ今日過剩米ニ多クノ數ヲ加ヘタト云フ結果ニ今日ナテ居ルノデアリマス、併シ之ヲ煎ジ詰メテ何ニ原因シテ居ルカト云フト、農商務ノ當局ガ米ノ生産ト云フコトヲ確實ニ御調査ニナラナイ、杜撰ナ調査ヲ以テ速断セラレト云フニ、結論スルノデアリマス、(拍手起ル)故ニドウシテモ斯ウシテモ、今日日本ニハドレ位ノ米ヲ作ルカ、唯今段々御説明ガアリ、又質問者モ言ハレテ居リマスガ、平年作ガ五千萬石ト云フ、或ハ豐作ノ時ニハ六千万石、其差額ガ一千万石ト云フ御話ガアリマシタガ、此根據ハ何ニ依リテ居ルカ、即チ町村役場、郡役所ニ調査ヲ命ズル、郡役所カラ來タ人間ガ今年ハ米ガドノ位出來ルデアラウカ、先ツ是位ダラウト云フヤウナ、ダラウト云フ説ニ依リテ數字ヲ御書上ケニナテ居ル、日本ノ米ハ是ダケヨリ出來ナイ、又豐作ナレバ是ダケ出來ル、斯様ナル不完全ナル調査ノ下ニ根據ヲ置カレテ、サウシテ米ガ剩ルノ剩ラナイト云フ御速断ヲナサル、此根本ニ私ハ誤謬ガアルト考ヘルノデアリマス、故ニ之ヲ如何ニ御取扱ニナルカ、成程此法案ハ見マシタ所ハ海ニ結構ナ法案デアル、剩ル時ニハ買取テ置ク、足ラヌ時ニハ此米ヲ以テ市場ヲ潤ハス、洵ニ簡單明瞭ナモノデアリマス、併ナガラ今日ハ昔トハ違フ、段々此人間ノ力ヲ以テ凶作ヲ防グト云フ術ガ進歩致シテ居ル、昔ノヤウナヤリ放シテハアリマセヌ、又水旱ノ非常ニ少ナカモ四五年前マデハ、水旱ノ憂ノ爲メニ出來高ガ非常ニ少ナカモ所ガ、朝鮮事業公債ト云フモノヲ拵ヘテ、河川ノ改良ヲ爲サレテ居ル爲メニ、本年ハ二百五十萬石ノ米ガ剩ル、來年ハ凶作デアラタナラバ、非常ニ足ラヌト言ハレルカドウカ知ラヌガ、來年マデハ段々工事ヲ進メテ行ク、サウスレバ灌溉ノ便モ付イテ行キ、少々ノ日燒位デハ朝鮮ハ米ニ苦シムト云フトハ最早ナイ、人工ガ加テ來テ、此人間ノ力ガ天災ヲ防グト云フ方ニ段々向イテ居ルノデアル、故ニ是マデノ通りニハ行カナイ、又一方カラ言ヘバ我々モ今ヨリ二十年前ニハ、地方デハ大抵一段ノ土地カラ二石五斗位獲レバ喜ンデ居タノデアル、今日ハドウシテモ一段ノ地所カラ三石以上ヲ獲ラナケレバ、農民ハ承知シナイト云フ位ニ耕作法ガ進歩致シテ居ルノデアル、故ニ今ハ十年前ノ平年作五千万石デナイ、ソレカラ以來土地ハ開墾サレテ居ラナクテモ、農家ノ勉勵ト肥料ノ造方ト耕作法ノ進歩トニ依リテ、一段カラ取上ゲル所ノ作物ハ、段々進歩致シテ來テ居ルノデアル、然ル二十年モ二十年モ、前ニ而モ出鱈目ヲ拵ヘテ所ノ統計ニ依リテ、是ダケ足ラヌトカ剩ルトカ云フヤウナ、早計ナル考ヲ御持ニナテ法律ヲ御制定ニナル、而モ永久的ノ法律ヲ愛ニ御制定ニナルト云

フコトハ、私ハ甚ダ其意ヲ得ナイと思フノデアル、故ニ政府ハ現在ヤラレテ居ル所ノ、農商務省ガ執テ居ラレル所ノ統計ト云フモノハ、果シテ間違ガ無イト云フ御確信ガアリヤ否ヤト云フコトヲ、私ハ先ツ伺ヒタイノデアリマス、ソレカラ若シ又サウ確實ト云フコトガ斷言ハ出來ヌト云フナラバ、何等カノ方法ヲ以テ、今後之ヲ確實ニ御取調ニナルコトノ御考ヲ持テ居ラレカドウカト云フコトモ伺ヒタイノデアル、ソレカラモウ一ツ私ハ大切ナル事ヲ伺ハナケレバナラヌ、成程政府ハ今簡單ニ米ヲ買ウテ置ケバ、今度不足ノ時ニ賣レバ大變都合ガ好イ、ソレハ極メテ明瞭ナ好イ事ニ相違ナイ、併ナガラ凶作豐年ト云フモノハ、必ズ何年ニ來ルト云フコトハ政府ハ御存ジアルマイ、恐ラクハ我々人間ガ、今年ハ豐年デアラガ、來年ハ不作デアラト云フコトヲの確ニ御決メニナルト云フコトハ、人間ノ知識デハ出來ナイと思フ、如何ニシテ豐年ガ三年モ四年モ續イタト云フコトニナテ、サウシテ年々剩ル所ノ米ヲ政府ガ之ヲ倉庫ニ御入レニナル、御入レニナテ其結果ハドウナル積リデアアルカ、又此法案ニ依リテ米ハ今度買替ヘルコトガ出來ルト云フコト、左様ニ買替ヘルト云フコトヲ御書キニナテ居ル、買入レテ所ノ米ハ今度買替ヘルコトガ出來ルト云フコト、已ムラ得ズ新ニ出來タ所ノ米ツコトガ出來ナイト云フコト、已ムラ得ズ新ニ出來タ所ノ米ト買替ヘルノデアル、此場合ニ政府ハ此米ヲ賣ウテ値デ賣ルト云フ御考デアアルカ、既ニ最早古米ニナテ、古々米ニナルト云フ、價格ニ非常ニ變動ガ、現在價格ニ變動ナクテモ、其品物ニ就テ非常ニ價格ガ劣タト云フ場合ニ、高ク買ウテ居ル米ヲ同ジ値デ以テ市場ニ賣ルト云フコトハ、ドウシテモ出來ル譯ノモノデハナイ、故ニ此時ニ政府ハ損失ヲシナケレバナラヌ、是ガ繰返シニ、十年五年モヤテ居レバ、其缺損高ガ今ノ法案ノ一億萬圓ト云フモノニナテシマタ時ニハ、ドウスル積リデアリマスカ、二億萬圓ヲ損シテシマタ時分ニハ、ドウ云フ御考ヲ御持ニナテ居リマスカ、此法律デハ二億萬圓ヲ限度トシテヤルト云フ趣旨デアアルガ、此二億萬圓ヲ三年カ、四年ノ間ニ賣リ買リ買リシテ居ル間ニ、政府ガ損ヲシテシマタ時ニハ、ドウ云フ結果ニナルノデアアルカ、更ニ又二億萬圓ト云フモノヲ御出シニナテ、是デオヤリニナル御考デアアルカ、私ハ非常ニドウモ疑フノデアル、サウ云フ譯デアアルカ、是等ニ對シテモ政府ハドウ云フ御考ヲ御持ニナテ居ルカト云フコトヲ伺ヒタイ、ソレカラ一體政府ハ今度ノ此事業ト云フコトニ就テハ、價格ニハ何等ノ關係ハシナイ、唯ダ剩ル米ガアタナラバ買テ置イテ、今度足ラナケレバ之ヲ出スノデアアルト云フ、御趣意デアルト、斯ウ云フヤウニ唯今承シタノデアアルガ、成程御趣意ハサウカモ知レナイケレドモ、政

府ハ百万石二百萬石ト云フ米ヲ買ウタリ賣タリスル結果ガ、市場ニ一ツモ影響シナイト、云フコトガ言ヘルカドウカ、僅ニ或一人ガ取引所ニ行テ十萬石カ二十萬石ヲ買ウテスラモ、此取引所ノ市場ガソレダケノ影響ヲ生ジテ來ルノデアル、況ンヤ政府ガ百万石二百萬石ノ米ヲ買ウテ、市場ノ價格ニ影響ヲ及ボサヌト云フコトハ、私ハドウシテモ無カラウト思フ、故ニ私ハ是ハ米價需給一人名ハ需給デアアルケレドモ、之ヲヤタ時ニハ結果ハ矢張米價ノ價格ニ變動ヲ來スト云フコトハ、明カナル事實デアアル名前ハ何デアラウトカンデアラウト、即チ米ガ下タ時ニハ豐作ノ違ヒナイ、之ヲ政府ガ買ハバ價格ガ上ル、ソレカラ米ノ足ラヌ時ニ政府ガ米ヲ賣レバ、即チ價格ガ下ルト云フ結論ニナルノデアアルカ、需給ハ名前デアラガ、其事實ハ矢張米價ニモ同様變更ヲ與ヘルト云フ案ニ相違ナイノデアアル、然ルニ尙ホ政府ハ是ハ價格ニ關係ハ無い、是ハ唯ダ剩ラタ米ヲ買テ、サウシテ足ラヌ時ニハ賣ルノデ、市場ノ價格ニハ何等ノ關係ヲ及ボサズルモノデアアルト云フコトノ御確信ヲ御持ニナテ居ルカドウカ、ソレデ私ハ最後ニ於テ一言申シマスガ、一體不誠意極マルト思フ、政府ハ穀物ニ對シテハ、誠意ヲ缺イテ居リハセヌカ、私ハ疑テ居ル、是ハ一言聽イテ見ヤウト思フ、何故ナラ政府ガ此財政經濟會ニ御諮問ニナタ案ハ、ドウ云フ案デアアルカ、吾々ハ漏レ承ハル所ニ依レバ、一方デハ農業資金ヲ潤澤ニ供給スル、ソレカラ水利ヲ益、便ニスルヤウニヤテヤル、ソレカラ肥料モ廉クヤテヤル、ソレカラ開墾助成法ノ金額ヲ増シテ、益開墾ヲ獎勵シテ耕地ヲ拵ヘル、斯ウ云フノデアアル、サウシテ其次ニ何ガアルカト云フト、出來タ米ガ澤山出來過ギテハ、困ルカラ、其時ニハ政府ガ買ウテヤル、斯ウ云フノデアアル、既ニ是ハ矛盾ノ甚シキモノデアアル、故ニ政府ニ於テ若シ之ヲヤラウト思フナラバ、何故ニ此日本國民ガ、ドノ位現在ニ於テ米ガアルナラバ、何故ニ自由ヲ感ジナイカト云フコトヲ、確實ナル統計ノ上カラ御割出シニナテ、サウシテ足リナケレバ足リヌテ、足ラヌダケヲ如何ニシテ之ヲ拵ヘル、剩レバ剩ラタモノハドウ處分スルト云フ事カラ割出テ來ル法律ニ非ザル以上ハ、唯々其時其場合直クオヤリナサルコトデアラナラバ、偶、以テ此法律アルガ爲メニ、吾々ハ生活ノ根據ヲ脅カサレタノデアアル、何トナレバ確ニ一昨年ノ如キハ脅カサレタノデアアル、何故カト云フト米ガ高クナルト云フト、一方生産者ハ一石一萬圓ニモナルヤウニ思テ米ヲ賣ラナイ、廉クナケレバ無料ニナルヤウニ思ウテ一過ニ賣ル、ソレガ市場ニ崩雪レテ來ル所ノ結果ガ、米ノ價格ニ變動ヲ來スノ、此間ニ利スル者ハ何人デアアルカト云フト、取引ニ關係スル商人デアアル、此商人ガ政府ノ米ヲ買タリ賣タリスル機微ニ乘ジテ、如何ニ政府ガ今日ヤルカ、其違方ヲ先キニ前知シテ、サウシテ之ヲ直チニ取引

於テ價格ヲ維持スル爲メニ來ルカラ、政府ハ價格ヲ上ケル
爲メニ、唯ダ人氣取テハナイカト云フヤウナ御疑モアツヤウ
デアリマシタガ、是ハ決シテサウデアアリマセヌ、此常平倉ノ
如キ米ヲ如何ニシナケレバナラヌト云フコトハ、中々長イ論
議デアリマシテ、是マデ代々ノ内閣ニ於テ調査會ナドヲ設ケ
マシテ、十分ニ調べテヤテ來タガ、今迄實行スルコトハ甚
ダ難カッタ、一昨年来ノ大變高イ時分ニ、是ハ此儘ニ捨テ置
イテハ、常ニ食物ノ過不足ニ於テ、生計ヲ脅スガ爲メニ、何ト
カ安定ヲ來ス根本方針ハ無イカ、斯ウ云フコトニ於キマシテ
一昨年、是ハ今日ノ臨時經濟調査會ニ掛ケタデアリマス、
其前ニモ既ニ此事ハ經濟調査會ニ諮ラコトガアリマスガサ
ウシテ今日此ニ至ラデアリマシテ、決シテ是ハ唯タ一時
茲ニ突發的ニ起ラタ問題デアナイト云フコトヲ御承知願ヒタ
イ(拍手起ル)

○議長(奥繁三郎君) 右三案ノ審査ヲ付託スヘキ委員
ノ選舉ヲ議題ニ致シマス

第四、第六、第八 右議案ノ審査ヲ付託ス

ヘキ委員ノ選舉

○岩崎勳君 日程第三、第五、第七ノ三案ヲ一括シテ、委
員ノ數ハ特ニ二十七名トシ、議長ニ於テ指名セラレンコト
ヲ望ミマス

○議長(奥繁三郎君) 岩崎君ノ動議ニ御異議アリマセヌ
カ

〔異議ナシ〕(異議ナシ)ト呼フ者アリ

○議長(奥繁三郎君) 御異議ナシト認メマス、仍テ動議ノ
如ク決シマシタ、日程第九、大正九年法律第十二號中改
正法律案ノ第一讀會ヲ開キマス、大藏次官

第九 大正九年法律第十二號中改正法律

案(政府提出)

第一讀會

大正九年法律第十二號中改正法律案

第三條 朝鮮、臺灣、關東州又ハ樺太ニ本店又ハ主ク
ハ所得稅法施行地ニ本店又ハ主ク事務所ヲ有スル
法人ト合併シテ設立シタル法人カ所得稅法施行
地ニ本店又ハ主ク事務所ヲ有スルトキハ、所得稅法
第九條第三項及第十二條ノ規定ヲ準用ス

第四條 日本ノ國籍ヲ有セザル者ノ臺灣ニ於ケル資産、
營業又ハ職業ヨリ生スル所得ニ付テハ、所得稅法第十
八條第六號ノ規定ヲ適用セス

第五條 臺灣ニ住所ヲ有シ又ハ一年以上居所ヲ有スル
個人ノ所得稅法第三條第二種乙及第三種ノ所得ニ
付テハ命令ノ定ムル所ニ依リ所得稅法ニ依ル所得稅
ヲ課セス

第六條 所得稅法施行地ニ住所ヲ有シ又ハ一年以上
居所ヲ有スル個人ノ所得ニシテ臺灣ニ於ケル法令ニ
依リ第二種ノ所得トシテ所得稅ヲ課スルモノニ付テハ
所得稅法ニ依ル所得稅ヲ課セス

第七條 朝鮮、臺灣、關東州又ハ樺太ニ於テ所得稅ヲ
免除スル各當該地ノ製造業ヨリ生スル所得ニ付テハ
命令ノ定ムル所ニ依リ所得稅法ニ依ル所得稅ヲ免除
ス

附則

本法ハ大正十年四月一日ヨリ之ヲ施行ス但シ第三種
ノ所得ニ付テハ大正十年分所得稅ヨリ、第三條改正ノ規
定ハ大正十年四月一日ヲ含ム事業年度分ヨリ之ヲ適
用ス

〔政府委員神野勝之助君登壇〕

○政府委員(神野勝之助君) 大正九年法律第十二號
ハ、所得稅法ノ施行ニ關スル法律デゴザイマス、内地ト朝
鮮臺灣等トノ間ニ於キマス、所得稅ノ二重課稅ヲ避ケル
コトヲ主眼トシテ改正シタイト云フデアリマス、現在朝鮮
臺灣等ニ於キマシテハ、第一種ノ所得、即チ法人ニ對スル所
得稅ノミヲ課稅致シテ居ルデアリマス、隨ヒマシテ現行法
ノ規定致シテ居ルデアリマス、然ルニ臺灣ニ於キマシテハ、
大正九年法律第十二號ハ、主トシテ法人ニ關スル方面
ヲ規定致シテ居ルデアリマス、然ルニ臺灣ニ於キマシテハ、
大正十年カラ第二種ノ所得及第三種ノ所得ニ對シテ、所
得稅ヲ課稅スルコトニナシテ居リマス、第一種所得稅ニ
於ケルト同一ノ趣旨ヲ以テマシテ、第二種及第三種ノ所得
稅ニ就キマシテモ、内地ト臺灣トノ間ニ重複課稅ヲ避ケマ
シテ、相互ノ聯絡ヲ圖ル必要ガアリマス、此改正ヲ致
シタイト云フデアリマス、是ト同時ニ此場合ニ於キマシ
テ、内地及朝鮮、臺灣等ノ法人ガ相互ニ合併シテシタル
場合ニ於テ、所得稅ノ課稅方ニ關スル規定ヲ追加致シタイ
ト云フノガ、他ノ一點デゴザイマス、何卒御審議御協賛アラ
ンコトヲ望ミマス

第十 右議案ノ審査ヲ付託スヘキ委員ノ

○岩崎勳君 委員ノ數ヲ九名トシ、議長ニ於テ指名アラ
ンコトヲ望ミマス

○議長(奥繁三郎君) 岩崎君ノ動議ニ御異議アリマセヌカ
〔異議ナシ〕(異議ナシ)ノ聲起ル

○議長(奥繁三郎君) 御異議ナシト認メマス、仍テ動議
ノ如ク決シマシタ、日程第十一、明治四十年法律第二十一
號中改正法律案ノ第一讀會ヲ開キマス

第十一 明治四十年法律第二十一號中改

正法律案(政府提出)

第一讀會

明治四十年法律第二十一號中改正法律案

第一條 市街宅地稅

六 酒造稅

七 醬油稅

附則

本法ハ大正十年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

〔政府委員永井金次郎君登壇〕

○政府委員(永井金次郎君) 本案ハ極メテ簡單ナル法
律案デゴザイマシテ、樺太ノ租稅ノ改正案デゴザイマス、此
改正致シマスル理由ハ、今ノ樺太ノ財政上ノ必要、即チ樺
太ノ歲入増加ヲ圖リマス爲メニ、市街宅地稅ヲ起シタイト云
フノガ、一ツデアリマス、ソレカラ今一ツハ現在ニ於キマシテ、
營業稅中ニ酒稅ト醬油稅ヲ徵收シテ居リマスガ、甚ダ徵收
上不便デゴザイマスカラ、之ヲ獨立ノ稅目ニ改メマシタ方ガ
徵收上便宜デゴザイマス、之ヲ獨立ノ稅目トシテ、酒稅
ト醬油稅ヲ起シタイト云フデアリマス、即チ市街宅地稅ト
酒稅ト、醬油稅ト三項目ヲ、現行法中ニ於テ改正ヲ致シタ
イト云フ外ナラヌデアリマス、何卒御審議ノ上御協賛アラ
ンコトヲ望ミマス

○議長(奥繁三郎君) 日程第十二、右議案ノ審査ヲ付
託スヘキ委員ノ選舉ヲ議題ト致シマス

第十二 右議案ノ審査ヲ付託スヘキ委員

ノ選舉

○岩崎勳君 本案ハ異ノ政府提出大正九年法律第十二
號中改正法律案ノ委員ニ併セテ付託セラレンコトヲ望ミマ
ス

○議長(奥繁三郎君) 岩崎君ノ動議ニ御異議アリマセヌカ
〔異議ナシ〕(異議ナシ)ノ聲起ル

○議長(奥繁三郎君) 御異議ナシト認メマス、仍テ動議
ノ如ク決シマシタ、日程第十三、國有財産法案ノ第一讀會
ノ續ヲ開キマス、委員長清水市太郎君

第十二 國有財産法案(政府提出)

第一讀會ノ續(委員長)

報告書

一國有財産法案(政府提出)
右ハ本院ニ於テ別紙ノ通修正スヘキモノト議決致候此
段及報告候也
大正十年二月十二日

國有財産法案委員長

清水市太郎

衆議院議長與繁三郎殿

(小字及一ハ委員會修正)

國有財産法案中ノ通修正ス

第十三條 隣接地所有者者。境界査定ニ對シ不服アル

トキハ其ノ通知ヲ受ケタル日ヨリ六十日以内ニ訴願シ

又ハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得

○清水市太郎君 只今ノ議題ニナリマシタ國有財産法案ノ

委員會ノ經過ヲ御報告スルニ先ダチマシテ、本案ノ内容ニ
就テ多少要點ヲ申上ゲルノハ、御參考上便利カト考ヘルノ
デゴザイマス、本案提出ノ理由ハ、既ニ大藏大臣ガ本會議
ニ於テ述ベラレタ通りデアリマシテ、其點ヲ申上ゲル必要ハ
無イト思フ、本案ノ内容ニ於キマシテハ、國有財産ノ範圍ヲ
第一ニ規定シマシテ、不動産、動産及權利ト致シマシテ、其權
利ハ地役權若クハ鑛業權等ヲ含ムデアリマス、第二ニ國有
財産ノ分類ヲ致シマシテ、公用財産、公用財産、營林財
産、此三ツノ中ニ入ラナイ其他ノモノヲ、總テ雜種財産ト致
シマシテ、各省ノ國有財産ヲ不用ニ歸シタモノハ總テ雜種
財産ニ組替ヘテ、大藏大臣ノ管轄ニ歸スルト云フコトデア
リマス、從來ハ各省ガ有テ居ル國有財産ハ、各省デ所管致
シテ居リマシタ是ガ不用ニ歸シテ處分スルトキニ當リマシテ
ハ、内務省ニ歸セシメテ、或ハ賣買或ハ交換ヲスルノデアリ
マス、今度ノ法案ニ依リマシテ、大藏省ニ其雜種財産ノ管
理ハ歸シテ、サウシテ、大藏省ニ於テ自然處分スルコト、考ヘ
ルノデアリマス、其他本案ニ於キマシテハ、國有財産ノ報告
ニ就テ規定ヲシテ居リマシタモノハ從來ハ國有財産ハ、十
年ニ一回帝國議會ニ報告スルノデアリマス、而モ其價格
ト云フモノハ、ソレヲ所有シタ當時ノ價值デアリマシテ、甚ダ
適切ナラザル報告デアッタデアリマス、本法ニ依リマシテ、
五年ニ一回國有財産ノ計算書ヲ作りマシテ、而シテ此價
格ハ時價ニ於テ見積リマシテ、サウシテ之ヲ帝國議會ニ報
告スル前ニ、會計検査院ノ検査ヲ經テ帝國議會ニ報告ス
ルノデアリマス、此報告ハ從來ノニ比シテ甚ダ明確ノモ

ノデアリマシテ、大ニ精密且ツ一目瞭然ニ之ヲ見ルコトガ出
來ルト云フ便宜ガアリマス、一段ノ進歩改良ニ相違ナイト
思フノデアリマス、其他國有財産ノ境界査定、或ハ國有財
産ノ使用收益、寺院ノ土地、國有財産ノ臺帳、國有財産ノ
總計算書、本法施行ニ關スル規定、他ノ法令ト國有財産
トノ關係規定ト云フヤウナモノガ書イテアルノデゴザイマス、
斯ノ如キ法案デアリマシテ、此法案ヲ委員會ニ於テ慎重審
議ヲ致シマスニ方リマシテ、第一質問ハ國有財産ノ主ナル
モノガ、土地、森林、原野デアラゲ、問題ノ主ニ起リマシタ
ノモ亦此七地、森林、原野ニ就テデアリマシタ、ソレデ國有
財産ノ森林原野中ニ、從來人民ノ所有デアリ、又御一新前
ニ於キマシテハ、人民ノ使用收益ノ慣行ノアツタモノガ、國有
ニ編入サレタモノガ澤山アル、甚シキモノハ民家ノ軒下ヨリ
官有ニ編入サレテシマシテ、木一本取テモ、薪一荷ヲ取テ
モ、盜伐ニ依テ處分セラレルト云フヤウナ状態ニ陥リ居リ
マス、斯ノ如キモノハ、本案ニ依テ何トカ人民ノ從來ノ慣
行ニ依テ、使用收益ヲ得タゲ、權利ヲ認メルヤウナ方法
ハ、出來ナイカト云フヤウナ質問モ起ラノデゴザイマス、之ニ
對シテ政府委員ハ、サウ云フ事實ガ成程アルコトハ認
メル、併ナガラ、如キ事ヲ本法ノヤウナ重大ナ國有財産
ヲ永久ニ國有財産トシテ國ガ所有スルモノヲ規定スル法案
ニ書クノハ、困ル、矢張他ノ下戻トカ、緣故拂下トカ云フヤウ
ナ法令ニ依テ書ク方ガ宜カラウト思フ、併ナガラ從來ノ勅
令等ヲ出來ルダケ活用シテ、人民ノヤウニ便宜ヲ與ヘルト云
フ意味ノコトハ、政府委員ガ言明サレタデアリマス、ソレカ
ラ又第二ニ起リマシタノハ、寺院ノ土地デアリマス、寺院ノ上
地ト云フモノハ、從來ハ寺ノ物ハ國家ガ捲上ダタノデアアル
カ、寺ニ返シテ宜カラウト云フ意味ノ質問ガアリマシタ、
而シテ此點ニ就イテハ政府委員ハ、矢張國有法案ハ、國家
ノ財産トシテ永久國家ノ有ツモノヲ規定シタノデアアル、人民
ノ物ヲ誤ラテ有ツタモノガ此中ニアツテ、ソレヲ人民ニ下ゲルト
云フヤウナコトハ、本法案ニ於テ規定スルノハ適當デナイト
考ヘル、他ノ法律勅令等ヲ以テ規定スルノハ、適當デナイト
法案ニ於テ規定スルコトハ適當ト認メナイカラ、贊成スルコ
トハ出來ナイ、ト云フ趣意ノ意見ヲ述ベラレタデアリマス、
惟フニ此本法案ノ調整セラレテ、其官有財産調査會ニハ
各派ノ議員諸君ガ選拔サレテ委員ニナリ居ラレ、政府委
員ト屢、委員會ニ於テ質問應答ガアリ、意見ノ交換ガア
リマシテ、サウシテ只今ノ問題ノ寺院ノ土地等ニ關シマシテ
モ、或ル程度迄ハ諒解ガアツタモノ、ヤウニ見エル、其點カラ
致シマシテ、他ノ法令ヲ以テ寺院ノ土地ヲバ云々スルト云

フヤウナコトニ就テ規定スルノハ特別デアラガ、本法案ニ於
テサウ云フ事ヲ書クト云フコトハ適當ト認メナイ、同意スルコ
トガ出來ナイ、斯ウ云フヤウナコトハ、自然官有財産調査會
ニ於テモ意見ノ交換ガアツタモノト見エル、ソレカラ其意味ニ
於テ本法案ノ第二十四條ノ、從前ヨリ引續キ寺院又ハ佛
堂ノ用ニ供スル雜種財産ハ勅令ノ定ムル所ニ依リ其ノ用ニ
供スル間無償ニテ之ヲ當該寺院又ハ佛堂ニ貸附スルモノト
看做ス(即チ從前カラ寺ガ用井テ居ル所ノ雜種財産、ソレハ
無償デ寺ニ貸シタモノト看做ス、斯ウ云フ成文ニ就テ、之ヲ
無償デ與レシマシマ、無償ニテ下附スト云フ風ニ修正スルコ
トハ出來ヌカ、又其第二項ノ寺院佛堂ノ土地ニ係ル雜種
財産ハ、之ヲ無償デ其寺ニ下附スルコトハ出來ヌカト云フ
コトヲ質問サレテ、詰リ只今ノ意味ノ質問應答ガアリマシタ
ノデゴザイマス、政府ハ之ニ應ズルコトハ出來ヌト云フ意
見デアリマス、ソレカラ又本法第五條ニ、雜種財産ハ左ニ掲
ケル場合ニ限り之ヲ讓與スルコトヲ得(一)ガ公用財産、(二)ガ
神社、寺院又ハ佛堂ノ併合シタル場合ニ於テ之ニ因リ其ノ
供用ヲ止メタル佛堂ノ併合シタル神社、寺院又ハ
佛堂ニ讓與スルコトキ(二)云フ箇條ガアリマス、其次、持テ行ッ
テ第四項ヲ加ヘテ(寺院又ハ佛堂ノ用ニ供スル國有財産ヲ當
該寺院又ハ佛堂ニ讓與スルコトキ)ト云フ一箇條ヲ加ヘテ、雜
種財産中寺院又ハ佛堂ニハ或場合ニ於テハ之ヲ讓與スルコト
ヲ得(ト云フ)斯ウ云フ一項ヲ加ヘヤウト云フ意見モ質問モ出
タノデアリマス、是等ノ質問ニ對シマシテモ、政府委員ハ矢張リ
先刻申上ゲルヤウナ理由ニ依リマシテ應ズルコトノ出來ヌト云
フ意見デアリマシタ、ソレカラ此質問ガ更ニ境界査定ノ件ニ關
シテ起リマシタ、境界査定ハ第十條カラ第十三條ノ間ニ規定
シテアルノデアリマス、此第十條ハ國有財産ニ付境界査定
ヲ施行セムトスルトキハ豫メ期日ヲ定メテ隣接地所有者者ニ
之ヲ通知シ其ノ立會ヲ求ムヘシトアル、然ルニ此隣接地所
有者ニ通知シテ立會ヲ求ムヘシトアルガ、隣接地ノ所有者
ニ通知ヲシナカ場合、通知ヲサレナイデ、知ラヌデ居ル間
ニ境界ガ査定セラレルト云フコトキハドウスル、斯ウ云フ問
題ガ質問サレタ、ソレニ對シテハ政府委員ハ、通知ヲシナイ
場合ハ、ソレハ法律ノ所謂境界査定ノ無イモノト看做ス、苟
モ境界査定ヲスル以上、通知スルノガ無イモノト云フコトキ
ハ、其物ニ對シテ未ダ境界査定ガ無イノデアアル、サウ云
フコトキハ此第十一條ノ境界査定ヲ了シタルトキハ隣接
地所有者者ニ之ヲ通知ス(シ)ソレカラ第十三條ノ、隣
接地所有者者ガ境界査定ニ對シ不服アルトキハ其通知ヲ受
ケタル日ヨリ六十日以内ニ請願シ又ハ行政裁判所ニ出訴ス
ルコトヲ得(トアル)通知ヲ受ケタル者ガ六十日デアラガ、通
知ヲ受ケナイ者ハドウスル、斯ウ云フコトキハ、ソレデ第一

出來タノデス、然ルニ本法案ハ之ヲ非常ニ擴張シテ、原野ノミナラズ、森林ノミナラズ、田畑宅地ニ至ル迄、此極ク最下級ノ技手ヤ雇ガ線ヲ引張テ、是カラ此方ハ官ノ用地デアアルト云フコトヲ認定スレバ、直チニ吾々ノ住シテ居ル所ノ宅地住宅ガ、悉ク官ノ所有權ニ移轉スルト云フ、是ハ非常ナ大變ナ事ニナリテ居ル、ソレデ固ヨリ是ハ行政訴訟ハ許サレテ居ルケレドモ、併ナガラ行政處分ト云フモノハ、訴訟ニ拘ラズ其效力ヲ持テ居ルモノデアリマス、技手ヤ雇ガ數千數十万ノ澤山ノ土地ヲ線一ツ引張ラタラ、ソレデ直チニ官有地トシテ效力ガ發生シ、直チニ其日カラ吾々ノ所有權ガ消滅スルト云フコトニナル、デ從來斯様ニ保護ノ方法ヲ盡シテ居ル所ノ田畑並ニ此宅地ニ就テ、何故ニ今日此法案ニ於テ斯ノ如ク人民ノ權利ヲ非常ニ縮少シ、サウシテ行政官ノ權利ヲ非常ニ擴張シテ、總テノ土地ノ所有權ヲ行政官ノ一存ニ委ネルト云フガ如キ改正ヲ致シタト云フノハ、果シテ是ハ如何ナル理由デアラウカ、斯ノ如クセザレバ今日ノ行政權ト云フモノハ、其運用ヲ全ウスルコトガ出來ナイカ、斯ノ如ク重大ナル所ノ殆下人民ノ所有權、不可侵ノ權利ヲ事實ニ於テ中止スルガケノ多大ノ權利ヲ持タナクシ、今日ノ行政官ハ官有財產ノ管理ガ出來ナイカ、此點ヲ一ツ御伺致シタイノデアアル、ソレカラ第二ハ本法案ノ第十四條デアアル、第十四條ハ國有財產ニ付境界ノ査定又ハ測量ヲ爲スルメ、政府ニ於テハ他人ノ土地ニ立入り、目標ヲ建設シ、又ハ障害物ヲ除去スルノ權利ヲ與ヘテ居ル、是ハ國有林野法ノ第六條ニ基イタモノデアッテ、第六條モ殆ト同様ノ權利ヲ與ヘテ居ルノデアアル、所ガ此國有林野法ノ第六條ニ於キマシテハ、ダズナレバ今申上ゲマシタヤウニ單ニ、此林野ニ限ッテ居ルノデアアル、然ルニ本件ハ矢張之ヲ市街地及田畑ニ及ボシテ居ル、ソレト共ニデスナ、國有林野法ハ單ニ此障害トナルベキ木石ヲ伐採スルノ必要ガアル場合ニ、木石ノ伐採スル權利ヲ認メテ居ル、本法案ハ總テノ障害物ヲ除去スル權利ヲ認メテ居ル、ソレデ此障害物ノ除去ト云ヘバ、竹木ノ伐採ヨリハ非常ニ廣大ナル權利デアリマシテ、之ヲ極端ニ解釋スレバ、建物モ除去スルコトガ出來ル、墓石モ除去スルコトガ出來ルノデアアル、斯ノ如ク墓石ヲ除去シ、建物ヲ除去シト云フ貴重ナ物デモ悉ク除去スルガケノ、重大ナル所ノ權利ヲ附與シテ居ルノデ、是ハ餘リニドカモ此人民ノ權利ヲ度外視シテ居ルノ如ク、私ハ立法デアアルマイト云フコトヲ廣ルノデアアル、矢張斯ノ如ク餘リニ廣大ナル所ノ權利ヲバ行政官ニ與ヘルト云フコトハ、一面ニ於テ人民ノ權利ヲ非常ニ縮小スルト云フ危害ヲ生ズルダラウト思フ、尤モ此法ノ運用ハ人ニ在ルノデアリマスカラ、左様ナ非常識ナ事ハシナイ、當事者ヲ信賴セヨト云フ議論モアラウト思ヒマスガ、併シレモ程度ニ依ルモノデアッテ、一體立憲政治ト云フモノデス、吾々ノ

權利ノ保障ヲ、單ニ行政官ノ行爲又ハ其手心ニ待タズシテ、直接ニ法律其モノ、上ニ吾々ノ安心ノ出來ル權利ノ保障ヲ求ムルト云フコトガ、即チ立憲政治ナンデス、此故ニ本法案ニ於キマシテモ、徒ニ當業者ニ信賴セヨト言フテ、斯ノ如キ廣大ナル權利ヲ與ヘルト云フコトハ、吾々ノ甚ダ解シ難ネルトデアアル、加之實際此非常ナル廣大ナル權利ヲ與ヘルト云フコトハ、時トシテ之ガ爲メニ官吏ガ其職權ヲ濫用シテ、其私曲ヲ營ムト云フヤウナ弊害ヲ生ズル虞ガアルデアリマス、況ヤ此法案ノ實際ニ當テ運用スル人間ハ、高ニ此最下級ノ技手ヤラ、或ハ雇ガ人足ヲ連レテ歩クデアッテ、高等ナル教育ヲ受ケテ、高等ナル知識ヲ持テ居ラル、所ノ政府委員ノヤウナ方メガ、決シテ境界査定ヤ或ハ測量ノ爲メニ、人足ヲ連レテ人ノ家ニ行クノデアリデスカラ、斯ノ如ク廣大ナル權利ヲ下級ノ官吏ニ與ヘルト云フコトハ、小兒ニ刺刀ヲ與ヘルガ如キ危險ヲ生ズルモノト私ハ考ヘルノデアリマス、斯ウ云フヤウナ次第デゴザイマシテ、私ハ此特別委員デゴザイマシタガ、特別委員會ノ最終日ニ於テ、私ハ請願書ヲ致シテ居リマシテ、此點ヲ聞キ漏シマシタ、研究スレバ研究スルガケ、本法案ハドウモ甚シク官僚味ヲ帶ビテ、訂正ヲ要スル所ガ多イト思ヒマス、其一例トシテ此質問ヲシテ、サウシテ此點ニ對スル所ノ政府委員、或ハ特別委員長ノ私ハ御辯解ヲ求ムル次第デアリマス(拍手起ル)

者アリ—政府委員ニ許シマス
〔政府答辯スヘシ〕政府ノ答辯ヲ求メマスト呼フ者アリ
〔政府委員田中隆三君登壇〕
○政府委員(田中隆三君) 只今ノ御質問ニ就テ私カラ御答辯致シマス、第一ノ境界査定ノ事ニ就テノ御議論デゴザイマシタガ、此境界査定ノコトニ就キマシテハ、現行法ニ於テモ一ツノ行政處分トシテ、總テ其爭議ノ決定ハ、之ヲ訴願或ハ行政裁判所ノ判決ニ待ツコトニナッテ居リマス、獨リ境界査定ノミナラズ、皆サン御承知ノ通り、官民有其所所有權其モノ、決定ノ事サヘモ、我國ノ法制ニ於テハ行政處分トナッテ居ルノデアリマス、況ヤ其些細ナ境界査定ノ如キモノハ、此行政處分ヲ認メルト云フコトハ、已ムヲ得ヌデアリマス、併ナガラ御懸念ノ如キ境界査定ヲ不當ニスルトカ、或ハ不法ニスル、ソレニ就テ異議ノアル者ハ今申上ゲマズル通り、之ヲ上級官廳ニ訴願スルトカ、或ハ行政裁判所ニ出訴致シマシテ、嚴正確實ナル判決ニ依ッテ、其當否ヲ決スルノデゴザイマシマスカラ、サウ云フ御心配ハ毫無イコト、存ジマス、ソレカラ第二ニ測量ノ場合ニ於テ、障害物ヲ除却スルト云フコトニ就テ、從來ハ障害ノ竹木ト書イテアッタノヲ、今度ハ廣ク障害物ト書イテアルコトニ就テ御懸念ガアルヤウデゴザイマシタガ、其法文ヲ前後續イテ御讀ミ、下サレバ能ク判ツテ居ルコトデ「正當ナル理由ナクシテ拒ムコトヲ得ヌ」ト書イテアル所謂其測量ノ爲メニ此物ガ邪魔ニナルト云フヤウナコトヲ測量者ガ申シマシテモ、其所有者ニ於テ不當ナリト認メマスレバ、即チ正當ナル理由ガアレバ、之ヲ拒ムコトヲ得ルノデアリマス……
〔上島益三郎君「正當ナル理由トハ誰ガ認メマスカ」ト呼フ〕
○議長(奧繁三郎君) 靜ニ……
○政府委員(田中隆三君)(續) 而シテ其實際問題ト致シマシテハ、測量ノ爲メニ障害物ヲ除却スルト云フノハ、實際ノ適用問題ト致シマシテハ、モウ殆ト總テ竹木ノ場合ニ限ルト私ハ思ヒマス、例ヘバ或建物ノ在ルヤウナ場所ヲ測量スルトキニハ、必シモ其建物ヲ見透シテ測量シナクシテ、ラスト云フコトハ、無イノデアリマス、測量ハ斯ウ廻テモ測量ハ出來ルノデアアル、必シモ一線ナラ一線ヲ通ラナクシテ、測量ノ出來ヌト云フモノノデアリ、測量ヲ知ッテ居ル人ニハ能ク判ルノデアリマス、併ナガラ山林等ノ廣イ場合ハドウシテモ之ヲ測量スルトキニハ、山林ヲハ、木ノ無イ所マデ遠廻リ、又困難ナ事デアアル、サウ云フ山林ノヤウナモノヲ測量スル場合ニハ、ドウシテモ見透シノ爲メニ木ノ枝ヲ拂フトカ何トカ

ノヤウニ考ヘマス
〔答ヘル必要ナシト呼フ者アリ〕
○議長(奧繁三郎君) 今政府委員ハ居リマセヌ
○清水市太郎君 只今ノ質問應答ハ委員會ニ於テ十分ニ行ハレタノデアリマス、此上本會議ニ於テ質問應答スル必要ハ無イ、殊ニ少數意見ヲ留保シテ居ルノデモ……
○議長(奧繁三郎君) 答辯ナラ許シマス、清水市太郎君登壇ナサイ
〔清水市太郎君登壇〕
○清水市太郎君 只今ノ上島益三郎君ノ御質問ハ、委員會ニ於テ十分ニ答ラレテ、之ニ對シテ政府委員モ十分答ヲ與ヘラレタノデアリマス、サウシテ修正トカ何トカ云フモノノデ、少數意見ノ留保ガアツタノデモ、本會議ニ於テ「ソレトハ全ク違フ」ト呼フ者アリ、質問應答スル必要ハ無イト考ヘル(拍手起ル「ヒヤ」)「違フ」ト呼フ者アリ
○議長(奧繁三郎君) 質問ハ必要ナリト考ヘル、質問ハ當人が必要ナリトシテ質問サレタノデ、議長公平ト呼フ

○議長(奧繁三郎君) 清水君、答辯スル考デスカ
○清水市太郎君 答辯デハナイ
○議長(奧繁三郎君) 筋合ハ政府委員ガ答ヘルベキモノノヤウニ考ヘマス
〔答ヘル必要ナシト呼フ者アリ〕
○議長(奧繁三郎君) 今政府委員ハ居リマセヌ
○清水市太郎君 只今ノ質問應答ハ委員會ニ於テ十分ニ行ハレタノデアリマス、此上本會議ニ於テ質問應答スル必要ハ無イ、殊ニ少數意見ヲ留保シテ居ルノデモ……
○議長(奧繁三郎君) 答辯ナラ許シマス、清水市太郎君登壇ナサイ
〔清水市太郎君登壇〕
○清水市太郎君 只今ノ上島益三郎君ノ御質問ハ、委員會ニ於テ十分ニ答ラレテ、之ニ對シテ政府委員モ十分答ヲ與ヘラレタノデアリマス、サウシテ修正トカ何トカ云フモノノデ、少數意見ノ留保ガアツタノデモ、本會議ニ於テ「ソレトハ全ク違フ」ト呼フ者アリ、質問應答スル必要ハ無イト考ヘル(拍手起ル「ヒヤ」)「違フ」ト呼フ者アリ
○議長(奧繁三郎君) 質問ハ必要ナリト考ヘル、質問ハ當人が必要ナリトシテ質問サレタノデ、議長公平ト呼フ

○議長(奧繁三郎君) 靜ニ……
○政府委員(田中隆三君)(續) 而シテ其實際問題ト致シマシテハ、測量ノ爲メニ障害物ヲ除却スルト云フノハ、實際ノ適用問題ト致シマシテハ、モウ殆ト總テ竹木ノ場合ニ限ルト私ハ思ヒマス、例ヘバ或建物ノ在ルヤウナ場所ヲ測量スルトキニハ、必シモ其建物ヲ見透シテ測量シナクシテ、ラスト云フコトハ、無イノデアリマス、測量ハ斯ウ廻テモ測量ハ出來ルノデアアル、必シモ一線ナラ一線ヲ通ラナクシテ、測量ノ出來ヌト云フモノノデアリ、測量ヲ知ッテ居ル人ニハ能ク判ルノデアリマス、併ナガラ山林等ノ廣イ場合ハドウシテモ之ヲ測量スルトキニハ、山林ヲハ、木ノ無イ所マデ遠廻リ、又困難ナ事デアアル、サウ云フ山林ノヤウナモノヲ測量スル場合ニハ、ドウシテモ見透シノ爲メニ木ノ枝ヲ拂フトカ何トカ

是ハ御懸念ノ如キ測量ノ爲メニ必要アリト云テ、人家ヲ
壞ストカ何トカ云フコトハ、日本帝國ノ官吏ニハ無イコトデ
アリマスカラ、是モ御心配ハ無イコト、御承知ヲ願ヒマス

○清水市太郎君 議長

○議長(奥繁三郎君) 清水君、何デスカ

○清水市太郎君 議事ノ進行ニ就テ一言致シタイ

○議長(奥繁三郎君) 許シマス、登壇ナサヤ

○清水市太郎君登壇

〔清水市太郎君登壇〕
〔感情ニ走テハナラヌ、君ノ違方ガ惡ルカトナラズト
呼フ者アリ〕

○議長(奥繁三郎君) 静ニ……

○清水市太郎君 委員會ニ於キマシテ委員ノ人ガ質問應
答ヲヤテ、十分其場合ニ於テソレデ済ンデ居ルノヲバ、其委
員ガ又再ビ本會議ニ來テ同ジ質問應答ヲ繰返シテ居リマ
スガ、斯ノ如キ狀況デアラナラバ、際限ノナイコトデアルト思
フ、故ニ委員會ニ於テ委員デアッタ人ガ、政府委員ニ向テ質
問應答ヲシタ事ヲ、復タ本會議ニ於テ質問ヲシテ、政府委
員ノ答辯又ハ委員長ノ答辯ヲ求ムルガ如キコトハ、斷ジテ
議事ノ進行上惡例ヲ貽スモノト考ヘマスカラ、(「ヒヤ」ト
呼フ者アリ)私ハ本會議ニ於テ質問應答ノ限リニ在ラズト
申シテデアリマス(拍手起ル)

〔ソレデカラドウスト云フノカ〕清水バリストル落
第「議事ノ進行ニ就テト何ダ」斯様ナ惡例ヲ貽ス
ノヲ正スノダ」質問ガアレバ政府委員ニ尋ネテ差支
ナイト呼フ者アリ

○議長(奥繁三郎君) 静ニ……

〔清水市太郎君〕委員會ヲ復タ開クコトニナルト呼
フ

○議長(奥繁三郎君) 清水君——清水君ガ今述べラレタ
通りデアラナラバ、議事ノ進行ヲ妨ゲルカラ成ベク慎ンデ貫
ヒタイ、ケレドモ上島君ノ陳述ハ、最終ノ日ニ缺席シテ、問ハ
ント欲スル所ヲ問ハナカッタ、ソレ故ニ質問ヲスルト云フノデ
アリマス(清水市太郎君「問ヒマシタ」ト呼フ)吾ハ、ハ委員
會ノ速記ヲ全部見テ居ルモノデハナイ、ソレ故ニ發言ヲ求メ
テ質問サレルナラバ、此場合ニ許サナケレバナラヌ次第デア
リマス(拍手)故意ヲ以テ今清水君ガ言ハレル通りノ如キ
事ガ將來生ズルナラバ、議事ノ進行上宜シクナイカラ、議長
ハ氣ノ付キ次第ノ止メルコトニ致シマス(「議長長」ト呼フ
者アリ)〔本案ノ第二讀會ヲ開クヤ否ヤヲ諮リマス〕

○議長(奥繁三郎君) 第二讀會ヲ開クニ異議ナシト呼フ

○議長(奥繁三郎君) 第二讀會ヲ開クニ御異議ナシト認
メマス、第一讀會ヲ開クコトニ決シマシタ

○岩崎勳君 直ニ本案ノ第二讀會ヲ開カレンコトヲ希
望致シマス

〔賛成ト呼フ者アリ〕
○議長(奥繁三郎君) 岩崎君ノ動議ニ御異議アリマセヌ
カ

〔異議ナシト呼フ者アリ〕

○議長(奥繁三郎君) 御異議ナシト認メマス、直ニ本案
第二讀會ヲ開キ、議案全部ヲ議題ニ供シマス

國有財產法案

第二讀會

○議長(奥繁三郎君) 野田文一郎君外四名ヨリ修正ガ
出テ居リマス——野田文一郎君

〔野田文一郎君登壇拍手起ル〕

○野田文一郎君 本案ニ對シマシテハ、嚮ニ清水委員長
ヨリ御報告ノ如ク、委員會ニ於テ少數意見ヲ保留致シテ置
キマシタガ、少數意見ハ撤回ヲ致シマシテ、更メテ修正ノ動
議ヲ提出スル次第デアリマス、修正ノ簡條ハ本案ノ第十條、
第十三條、第二十四條ノ此三箇條ニ互テ居リマス、元來
國有財產ノ管理ヲ統一スル爲メニ、統一ノ立法ヲ致スト
云フコトハ、吾ハ異存ガ無イノデゴザイマシテ、隨テ大體ニ
於テハ本案ニ對シテ、賛成ノ意見ヲ表スルニ吝ナルモノデハナ
イ、併ナガラ此法案ノ内容ヲ調ベテ見マスト云フト、先刻上
島君ノ質疑ニモゴザイマシテ、一種ノ慣習ヲ脱スルコトガ出
來ナイ、官僚ノ臭氣ガ尙ホ遺シテ居ル法案デアルト云フコト
ハ、本法案ノ爲メニ甚ダ遺憾ニ存ジマス、併ナガラ其等ノ事
ヲ細カク修正ノ意見ヲ提出致シタイノデゴザイマスルガ、成
タケ雅量ヲ以テ原案ヲ傷ケザラント努力メマシテ、能ク能
ク國民ノ權利ヲ擁護スル上ニ於テ、必要缺クベカラザルモノ
ト信ジタ點ニ向テ、修正ノ意見ヲ提出スル次第デアリマス、
先ヅ第一ニ修正致シタ簡條ハ、第十條ノ第二項ニ持ッテ參
テ「隣接地所有者ハ境界査定ヲ請求スルコトヲ得」ト云フ
事ヲ入レマシタ、本案ニ依レバ境界査定ハ政府ノ御都合次
第デ政府ガ査定ヲスルコトヲ欲スレバ査定ヲスル、若シ査定
ヲ爲スコトノ欲セザレバ、何時マデモ抛ッテ置イテモ差支ナイ
ト云フコトニナリマス、而モ境界査定ト云フ本案ノ看テ居ル
所ハ、一種ノ行政處分ガ先ヅ前提トシテナケレバ、之ニ對
シテ訴願若クハ行政訴訟ト云フヤウナ權利ノ救済方法ガ
無イト云フコトニナルノデアラテ、要スルニ國有財產ノ境界
テ土地ヲ持ッテ居リマスル者ガ、境界ノ明カナラザル場合ニ
一方トモ有テアルガ爲メニ、政府ガ何時マデモ抛ッテ置イ
テ如何トスルコトガ出來ナイト云フコトハ、甚ダ不公平
デアル、境界査定ノ性質ノ問題ハ、第二段トシテ、免モ角モ
人民ノ側カラモ矢張境界査定ノ必要アリト信ジ政府ニ請
求スルナラバ、政府ハ之ニ應ジテ境界査定ヲシナケレバナラ
ヌ、斯様ニ致サナケレバ公平平デナイト云フ考ヨリ挿入ヲ致シ

マシタ、尤モ委員會ニ於テ、政府ハ此點ハ勅令ヲ以テ決メル
筈デアルカラ、原案ノ儘ニシテ貫ヒタイト云フ意見デアッタ、
既ニ勅令ニ於テ同様ノ趣旨ノ規定ヲ致スナラバ、此根本法
タル本案ニ於テ、人民ノ方ノ側ノ權利トシテ、斯様ナ明確ナ
ル規定ヲ置クト云フコトハ、立法ノ體裁ヨリ申シマシテモ
如何ナル點ヨリ見テモ、本案ニ規定スルコトガ相當デア
ル、斯様ニ私ハ信ズルノデアル、ソレカラ第十三條デゴザ
イマスガ、言フマデモナク國ガ一ツノ不動産ヲ所有ヲ致
シテ居リマスレバ、其所有權者トシテハ、全然個人ト對等
ノ地位ニ立ツベキモノデアラテ、國ガ財產ヲ所有シテ居ル
爲メニ、國ノ所有スル所有權ガ、個人ノ所有スル所有權ヨ
リモ優越ナル權利ニナルト云フコトハ斷ジテ無イ、民法上ノ
所有權ノ性質範圍ハ、總テ國ガ所有ヲ致ス場合ト雖モ、同
様デアラナラナラズト云フコトハ勿論デス、ソレ故ニ若シ境
界ニ就テ争ガアルト云フコトデアレバ、則チ所有權ノ一種ノ
争デアル、所有權ノ争ハ所謂民法上ノ争議デゴザイマスルカ
ラ、此争議ヲ判斷シテ之ヲ確定スル權利ヲ持ッテ居ル者
ハ是ハドウシテモ司法機關デアラナラヌ、行政機關ガ民
法上ノ私權ニ關スル争ヲ、確定的ニ裁判スルコト云フ權能
ハアルベキ筈デハナイノデアル、斯様ニ考ヘマスルト、境界査
定ト云フコトヲ元來行政處分ト見タノガ誤デアル、是ハ舊
キ思想デ所謂官地——御上ノ土地デアラト云フ舊キ思想
カラ段々參ッテ來テ、ソコデ官民有土地ノ區分ニ關スル私權
ト云フヤウモノヲ、訴願法ノ第一條ニ持ッテ、參ッテ行政處
分トシテ從來扱ヒ來テ居ルノデゴザイマスガ、併ナガラ前申
ス如ク、元來民法上ノ私權ニ關スル争デアル以上ハ、是ハ
ドウシテモ司法機關ノ司法權ノ發動ニ俟タナケレバナラヌ
ト云フコトハ當然デアル、勿論國家ノ權力ガ最高ナルノデア
ルカラ、ドウシテモ差支ガ無イト言ヘバ言ヒ得ルカモ知レ
ヌ、殊ニ司法事件ト行政事件トノ區別ハ、憲法ニ於テハ消
極的ニ行政裁判所ノ管轄ニ屬スルモノハ司法裁判所ガ裁
判ガ出來ナイ、斯様ニシテ司法事件ト行政事件トノ區別
致シテ居リマスカラ、無理ニ言ヘバ如何ヤウニ出來マセウ
ガ、併ナガラ本來法律上ノ法理論ノ性質トシテ、私權ニ關ス
ル争ハ司法裁判所ガ判斷スルコト云フコトハ當然デアル、サ
ウスレバ此訴願法ノ第一條ニゴザイマスル土地ノ官民有區
分ニ關スル事件ト云フガ如キ、舊キ思想ノ遺シテ居ルト云フ
コトハ、斯様ナル立法ノ機會ニ於テ之ヲ改正スルコト云フ
コトハ當然デアラナラヌ(拍手)若シ左様ニ致サナケレ
バ、隣地所有者ノ實際ニ於テモ、權利ノ擁護ト云フコトハ出
來マセヌ、以上申シタノハ專ラ法理上ノ觀察ニ基イコトノデ
ゴザイマスガ、更ニ此實際ノ點ヨリ考ヘテ見マシテモ、若シ之ヲ
矢張行政事件ト致シテ、行政裁判所マデ一々持ッテ來ナケ
レバナラヌト云フコトニ致シマスレバ、遠隔ナル地方ヨリハヨ

クコト重大ナル事件ニ非ズンバ、實際ニ於テ出訴スルコトガ出来ナイ。サウスト先刻上島君ガ申シタ如ク、下級官吏ノ致シタ唯ダ圖面ノ上ナド、實際ノ狀況モ何モ知ラズシテ境界ノ査定ヲ致シテ、事實ニ於テハ之ニ服従シナケレバナラヌト云フコトニナルノデアル。斯様ナル事ハ權利ノ保護ヲ全ウスル道デハ斷ジテナイト思ヒマス、ソレカラ又人民ノ側ヨリ申セバ左様デアルガ、之ヲ裁判スル方ノ側ヨリ觀察シテモ、行政裁判所ヘ持テ參テ、斯様ナル民法上ノ純然タル私權ニ關スル事ヲ裁判セシムルト云フコトハ、是ハドウシテモ專門デナイカラ方角違デアル、境界ノ如キ問題ハ裁判所構成法ニ於テモ、現ニ區裁判所ノ管轄トシテ、一般現場ノ檢證ヲスルニ便宜ノヤウニ、實際ノ事情ガ最モ明カニナルヤウニト云フ意味ニ於テ、區裁判所ノ管轄ニ屬セシメテ居ルト云フヤウナコトデアル、斯様ナル點カラ考ヘテモ、行政事件ト云フコトヲ止メテ、普通事件トシテ境界確定ノ訴ヲ起サシムルト云フコトニ改メルトハ、ドウシテモサウシナケレバナラヌ、此點ハ委員長タル清水君ノ如キ、或ハ委員ノ宮古君ノ如キモ在野法曹ノ御方ハ恐ラク御賛成デアラタト云フコトハ私ハ十分ニ察シテ居ル、唯ダ原案ヲ傷ケナイト云フコトノミヲ考ヘズシテ、斯様ナ問題ハ所謂政黨ノ争ニ屬スベキ問題デナク、純然タル法律上ノ問題デアリマスカラ、政友會ノ諸君モ此點ニ就テハ法律家ノ意見ニ重キヲ置カレテ、黨派問題トセズシテ、私ノ説ニ御賛成下サルト云フコトガ最モ適當デアラウト思ヒマス（拍手）其次ハ第二十四條ノ寺院ノ土地ニ係ル問題デアリマスガ、是ハ第二十七議會以來、數回或ハ請願ノ形式ニ依リ、若クハ法律案ト致シテ本議場ニ現ハレマシテ、小川平吉君、或ハ鶴澤總明君ノ如キ、只今ノ議長與繁三郎君ノ如キモ、矢張其提出者若クハ贊成者トシテ御盡力ニナリテ方デアリマスカラ、此問題ニ就テモ詳細ニ論ズル必要ハナイト思ヒマスガ、要スルニ寺院ノ土地財產ナルモノハ、明治ノ初年、今日ノ如ク所有權ト云フヤウナ法律上ノ觀念ノ未ダ發達セザル時代ニ於テ、一面ニハ官憲ノ力ヲ以テ如何ナル事モ爲シ得ルト云フ時代ニ於テ、時ノ政府ガ亂暴ニモ之ヲ取上ゲタモノデアルト云フコトハ、是ハ天下周知ノ事實デアアル、而シテ之ヲ今日ノ法律家ノ研究ヨリ申シマシテモ、矢張寺院ハ一個ノ人格者デアラテ、元ト明治以前ニ持テ居タモノハ、矢張寺院一個ノ所有權デアルト云フコトハ、既ニ學者ノ定論ニモナリテ居ルノデアル、斯様ナルモノヲ今日國有財產トシテ其範圍ヲ定ムル機會ニ於テ、元ノ所有者ニ返シテアルト云フコトハ最モ機宜ヲ得タルモノデアラト我國ノ宗教ハ明治維新前ヨリ文化ノ中心ハ、實ニ佛教デアラタノデアル、諸君モ御承知ノ如ク今日全國何レノ所ヘ參リマシテモ、津ノ浦ニ到ルマデ、寺院ト云ハハ高ク譽テ、或ハ風景トナルベキコトモアルシ、免モ角モ此佛教ノ偉大ナル力ト云

フコトハ、矢張寺院ト云フ此建物其物が既ニ之ヲ語テ居ルノデアル、今ヤ我國ノ思想界ノ現狀ハ、床次内務大臣ハ浪花節ヲ高等官待遇トシテマデモ、國民ノ思想ノ善導ニ努メナケレバナラヌト云フヤウナ時節デアアル、此時ニ當テ是等ノ寺院等ハ相當保護ヲ加ヘテ、矢張社會ノ爲メ、國家ノ爲メニ貢獻セシムルト云フコトニスルコトハ、今日ノ政略ノ問題ヨリ申シテモ、當ニ時機ヲ得タルモノデアルト私ハ信ズル、（ヒヤ）（拍手）元來ガ寺院ノ所有デアルト云フコトガ明確ニナリテ居ルノモノ拘ラズ、尙ホ強テ明治初年ニ致シタル亂暴ナル進方ヲ何所迄モ貫クト云フコトハ、是ハ明ニ誠意ノ觀念ニ反スルノミナラズ、只今申ス如ク政略ノ問題ト致シテモ、甚ダ採ルベキ事デナイト云フコトハ勿論デアルト思ヒマス、要スルニ尙ホ其點ニ就テ申シマスルガ、此二十四條ハ改正ヲ致シマシテ附則ノ中ニ入レマシタ、是ハ先刻委員長ノ報告ニモゴザイマス通り、一時的ノ事ヲ本則ノ中ニ入レルト云フコトハ穩カデナイ、斯様ニ考ヘマシタカラ、附則トシテ此法律ノ力ヲ發生セシメテ、之ニ依テ寺院ヲシテ永ク其所有權ヲ取得セシムル、斯様ナル意味ニ於テ此點ハ特ニ注意ヲ致シテ、附則ノ中ニ加ヘタノデゴザイマス、以上ノ修正ニ對シテハ、何レモ諸君ニ於テモ其理由由精神、何レノ點ヨリ見テモ、反對ヲセラルベキ理由ハ無イモノト信ジマスカラ、黨派心ニ因ハル、コトナク、雅量ヲ以テ是非御賛成アラント云フ此機會ニ於テ切望致シマス（拍手起立）

○議長（與繁三郎君） 討論ニ移リマス——宮古啓三郎君

○宮古啓三郎君 登壇（拍手起立）

○宮古啓三郎君 報告案ニ賛成ヲ致シマシタ關係ガゴザイマスカラ、只今野田君等ヨリ修正案ガ提出ニナリマシタ以上ハ、一應其理由ノ無イコトヲ辯駁シ置クノ必要ガアルト存スルノデアリマス野田君等ノ案ノ第一ノ修正ヲセント致シマスノハ、本案ノ第十條ノ中ニ「隣接地所有者ハ境界査定ヲ請求スルコトヲ得」ト云フ一條ヲ加ヘタイト云フ趣意デアリマス、此點ニ就キマシテハ委員會ニ於テ質問應答ガ其、結局ハ元來必要ナリトシテ止メルコトニ致シタノデアリマス、其趣意ハ必要ニ法律ハ、何人カラ境界査定ヲ要求スルカト云フコトヲ規定シタモノデハナイノデアラテ、人民側ノ要求ニ係ラウトモ、官ノ都合ニ依ルトモ、執レニシテ境界査定ヲスルトキニハ、斯ニ致サウト云フ所ノ案デアアルノデアリマス、ソレデアリマスルカラ、是ニ人民側ノ方カラ境界査定ノ請求ヲスル權利ヲ規定スルト云フコトハ、此條文ノ性質ニ副ハナイモノデアアル、其故ニ此點ニ就キマシテハ、別ニ勅令ヲ以テ定メルト云フコトガ至當デアラウト云フコトデ、政府ニモ交渉ヲ致シ政府ニ於テモ之ニ同意ヲ致シテ、此點ニ就キマシテハ、勅令ヲ以テ明ニ規定スルト云フコトヲ聲明サレタノデアリマス、ソレデアラウイマ

スルカラ是ヨリ後ニ於キマシテ必ズ政府カラシテ勅令トシテ此點ハ出ルノデゴザイマスルカラシテ、此法律ニ之ヲ規定スルノ必要ハ無イノデゴザイマス（拍手起立）其次ノ問題ハ第十三條ヘ持テ行テ、人民ノ方カラシテ司法裁判所ニ訴ヘルト云フノ權利ヲ認メルコトニ致シタイ、行政訴訟ト云フコトニ必ズシモ限定スルヤウナコトデナク、寧ろ行政裁判所デハナク、司法裁判所デ裁判スルコトニ致シタイト云フノガ、修正案ノ骨子デゴザイマスル、是ハ一應御尤デハゴザイマスルガ、元來今日迄境界査定ト云フコトニ對シマシテハ、總テ行政訴訟デ救済ヲ致シテ來タノデアリマス、勿論此點ニ就キマシテハ、土地ト云フコトハ寧ろ入ラスシテ、國有林野デアッタノデゴザイマスルガ、國有財產ノ中デハ、森林原野ト云フモノガ一番多イノデゴザイマシテ、唯ダ單ニ土地ト云フ名目ノ付クモノハ、極メテ小部分デゴザイマスル、デアリマスルカラシテ國有財產ノ大部分ト云フモノハ、今日矢張官ニ於テ査定ヲ致シ、而シテ之ニ對シテ不服ノアル場合ニハ、行政裁判ヲヤリ來タノデアリマス、其今日迄ノ例ヲ引イテハ此法律案ニハ矢張境界査定ニ對シマシテハ、行政訴訟ノ途ヲ開クト云フコトニ致シタノデアリマス、ソコデ申スマデモナク、境界査定ト云フコトハ一ツノ行政處分デアアル、行政處分ニ對シテハ、行政訴訟ノ途ニ依ルト云フノガ、是ガ正當ナ方法デアリマス、ソレデアラウイマシテ、司法裁判所ヘ行クコト必ズシモ不可ナリト云フ譯デアラウイマセヌガ、今日迄ノヤリ來リ並ニ査定ト云フモノハ行政處分デアリマスル以上ハ、之ニ對シテ行政訴訟ニ依テ救済ヲスルト云フコトハ、決シテ惡イ事デハナカラウト思ヒマス、加之行政裁判所ト云フモノヲ、野田君ハ非常ニ輕ク御覽ニナリヤウデアラウイマスルガ、行政裁判所ガ必ズシモ司法裁判所ニ劣ルモノデハナイノデアリマス、今日ノ行政裁判所ガ若シ惡カクナラバ、是ハ大ニ改善スルヲ必要トスルノデアリマス、ソレデアリマスカラシテ何モ行政裁判所ガ、司法裁判所ニ劣ラテ居ル譯デアラウイマセヌカラシテ、行政裁判所ニ依テ之ヲ判決スルコトガ、不可ナリト云フ譯、理窟モ無カラウト存ジマスカラ、此分モ敢テ修正ノ必要ハ無イ存ジマスル、而シテ又吾々ガ委員トシテ、此第十三條ヲ修正スルト云フコトニ致シマシタノハ、元ノ案ニ於キマシテハ洵ニ其範圍ガ狭クテ、唯ダ單ニ隣接地所有者ト云フクニ限ラレテ居タノデゴザイマスルガ、之ニ對シマシテハ政府ノ見ル所、隣接地所有者トシナイト云フヤウナモノモゴザイマスルシ、自分等ガ見テ隣接者ト思フテモ、政府ノ方デハ左様ニ考ヘナイト云フヤウナモノモゴザイマスルカラシテ、左様ナ利害關係ノアリマスモノハ救済スルガ至當デアラト云フノガ、此所ニハ「隣接地所有者」ト云フ所ヘ「其ノ他」ト云フ文字ヲ入レマシテ、如何ナルモノデアラテモ、此査定ニ利害關係ノアル者ハ、

第五十條中「毎年一回」ヲ「每會計年度一回」ニ改ム
第五十五條中「年齢同シキトキ」ヲ「同年月日ナルトキ」ニ改ム
第六十六條中「年齢同シキトキ」ヲ「同年月日ナルトキ」ニ「毎年」ヲ「二年毎」ニ改ム

附則
本法ハ本法施行後ニ行ハルル選舉ヨリ之ヲ適用ス
本法施行ノ際必要ナル規定ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第十七 郡制中改正法律案(濱田國松君 第一讀會 外二名提出)
郡制中改正法律案
郡制中左ノ通改正ス
第六條第一項ヲ左ノ如ク改メ第二項、第三項及第五項ヲ削ル

郡内ノ町村公民ニシテ町村會議員ノ選舉權ヲ有スル者ハ郡會議員ノ選舉權並被選舉權ヲ有ス
同條第六項第四號中「神官」ノ下ニ「神職」ヲ加フ
同條第九項ヲ左ノ如ク改ム
郡ニ對シ請負ヲ爲ス者及及其ノ支配人又ハ主トシテ同一ノ行爲ヲ爲ス法人ノ無限責任社員、重役及支配人ハ其ノ郡ニ於テ被選舉權ヲ有セス
第十一條第一項ヲ左ノ如ク改メ第二項乃至第八項ヲ削ル

郡會議員ノ選舉ニ要スル選舉人名簿ハ町村會議員ノ選舉人名簿ヲ以テ之ニ充ツ
同條第九項及第十項中「確定名簿」ヲ「選舉人名簿」ニ改メ第十一項ヲ削ル
第十五條第三項中「選舉人名簿」ノ下ニ「又ハ其ノ謄本」ヲ加フ
投票簿ニ捺印シテ削ル
第十七條 投票ノ拒否及其效力ハ選舉立會人ノ意見ヲ聽キ選舉長之ヲ決定ス
第十八條及第二十一條中「同年月」ヲ「同年月日」ニ改ム

第三十八條中「毎年一回」ヲ「每會計年度一回」ニ改ム
第四十三條中「同年月」ヲ「同年月日」ニ改ム
第五十四條中「同年月」ヲ「同年月日」ニ「郡會議員ノ定期改選」ヲ「二年」ニ改ム

附則
本法ハ本法施行後ニ行ハルル選舉ヨリ之ヲ適用ス
本法施行ノ際必要ナル規定ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

海軍燃料廠ノ石炭煉炭又ハ燃料油ノ買入ニ關スル法律案 第二讀會(確定議)
〔異議ナシ〕(聲起ル)

○議長(與繁三郎君) 御異議ナシト認メマス、仍テ兩案トモ委員長報告通り可決確定致シマシタ。日程第十六乃至第十九ノ同種ノ議案ニシテ、且ツ提出者ハ同一ナルニ依リ、一括シテ議題ト致スニ御異議アリマセヌカ

〔異議ナシ〕(聲起ル)
○議長(與繁三郎君) 御異議ナシト認メマス、仍テ第十六府縣制中改正法律案、第十七郡制中改正法律案、第十八市制中改正法律案、第十九町村制中改正法律案ヲ一括シテ議題ト致シ、其第一讀會ヲ開キマス。植原悦二郎君

第十六 府縣制中改正法律案(濱田國松君 外二名提出) 第一讀會
府縣制中左ノ通改正ス
第六條第一項ヲ左ノ如ク改メ第二項、第三項及第五項ヲ削ル

府縣内ノ市町村公民ニシテ市町村會議員ノ選舉權ヲ有スル者ハ府縣會議員ノ選舉權並被選舉權ヲ有ス
第九條 府縣會議員ノ選舉ニ要スル選舉人名簿ハ市町村會議員ノ選舉人名簿ヲ以テ之ニ充ツ
第十條 削除
第十一條 削除
第十二條 選舉人名簿ニ登錄セラレサル者ハ選舉ニ參與スルコトヲ得ス但シ選舉人名簿ニ登錄セラレヘキ確定裁決書又ハ判決書ヲ所持シ選舉ノ當日選舉會場ニ到ル者ハ此ノ限ニ在ラス
選舉人名簿ニ登錄セラレタル者選舉權ヲ有セザルトキハ選舉ニ參與スルコトヲ得ス但シ名簿ハ之ヲ修正スル限リニ在ラス

第十八條中「選舉人名簿」ノ下ニ「又ハ其ノ謄本」ヲ加フ
第二十八條 投票ノ效力ハ選舉立會人ノ意見ヲ聽キ選舉長之ヲ決定ス
第二十九條中「七分ノ一」ヲ「五分ノ一」ニ、「年齢同シキトキ」ヲ「同年月日ナルトキ」ニ改ム
第三十二條及第四十八條中「年齢同シキトキ」ヲ「同年月日ナルトキ」ニ改ム

國カラ原油ヲ買入レマシテ、我が艦船ヲ動かカシマスルニ適當ナル所ノ燃料、即チ重油ヲ製造シ、之ヲ貯藏致シタイト云フ新ナル計畫ヲ加ヘマシテ、即チ海軍ノ燃料政策ヲ一定スルガ爲メニ、海軍燃料廠ト云フモノヲ設ケマス、ソコデ今日マデ石炭煉炭ノ作業ニ使ッテ居ル所ノ、据置運轉資本ハ十萬圓デアリマスルガ、大正十年ニ於テ七十萬圓ヲ増加ヲ致シ、合セテ八十萬圓トシ、大正十一年度ニ於テ七十萬圓ヲ増加シ、大正十二年ニ於テ五十萬圓増加ヲ致シテ、合計二百萬圓ノ据置運轉資本ニ致シ、海軍艦船ノ燃料政策ヲ統一經營致シタイト云フノ案デアリマス、此案ニ就キマシテハ、各委員諸君ヨリ最も熱心有益ナル所ノ御質問ガアリマシテ、海軍大臣モ委員會ニ出席ヲシテ、軍事上ノ秘密ニ涉ラザル程度ニ於テ、委員ヲ満足セシムル所ノ答辯ガアリマシタ、仍テ委員會ハ滿場一致ヲ以テ、此作業會計法中ノ改正案ハ可決致シマシタ、ソレカラモウ一ツノ法案ハ海軍ガ燃料廠ヨリ石炭、煉炭又ハ燃料油ノ買入ニ關スル法律案デアリマスルガ、是ハ從前ニ於テ法律ガアリマスル、即チ海軍ニ於テ石炭、煉炭ヲ買入レマスル場合ニ於テハ、代金先拂ヲ爲スコトヲ得ルト云フ法律ガアリマスルガ、此燃料廠ヲ設ケマシテ新ニ燃料政策ヲ一定致シテ重油ヲ買入レマスルガ爲メニ、矢張前ト同一ニ前渡金ヲスルコトヲ得ルト云フ法律案ヲ拵ヘテ、從前ノモノハ此法律ガ出來上リマスルト、現在ノ法律ハ同時ニ廢シタイト云フ案デアリマス、此案モ作業法ノ改正ヲ致シマスル結果トシテ、當然可決スベキモノト云フコトニナリマシテ、兩案共委員會ハ滿場一致ヲ可決ヲ致シマシタカラ、本會ニ於テ速ニ確定議ヲ與ヘラレンコトヲ希望致シマス(拍手)

○議長(與繁三郎君) 兩案ノ第二讀會ヲ開クヤ否ヤヲ御諮リ致シマス
〔異議ナシ〕(聲起ル)
○議長(與繁三郎君) 第二讀會ヲ開クコトニ御異議ナシト認メマス、第二讀會ヲ開クニ決シマシタ

○岩崎勳君 日程第十四第十五ノ掲グル兩案ヲ一括シテ直チニ第二讀會ヲ開キ三讀會ヲ省略シテ委員長報告通り可決確定アラントヲ希望致シマス
○議長(與繁三郎君) 岩崎君ノ動議ニ御異議アリマセヌカ

〔異議ナシ〕(聲起ル)
○議長(與繁三郎君) 御異議ナシト認メマス、仍テ直チニ兩案ノ第二讀會ヲ開キマス

作業會計法中改正法律案 第二讀會(確定議)

官報號外 大正十年二月二十四日 衆議院議事速記録第十八號 第十六 府縣制中改正法律案外三件 第一讀會

大正十年二月二十四日 衆議院議事速記録第十八號 第十六 府縣制中改正法律案外三件 第一讀會

大正十年二月二十四日 衆議院議事速記録第十八號 第十六 府縣制中改正法律案外三件 第一讀會

大正十年二月二十四日 衆議院議事速記録第十八號 第十六 府縣制中改正法律案外三件 第一讀會

大正十年二月二十四日 衆議院議事速記録第十八號 第十六 府縣制中改正法律案外三件 第一讀會

大正十年二月二十四日 衆議院議事速記録第十八號 第十六 府縣制中改正法律案外三件 第一讀會

大正十年二月二十四日 衆議院議事速記録第十八號 第十六 府縣制中改正法律案外三件 第一讀會

第十八 市制中改正法律案(濱田國松君 外二名提出) 第一讀會

市制中改正法律案

市制中左ノ通改正ス
第九條第一項ヲ左ノ如ク改ム
帝國臣民ニシテ獨立ノ生計ヲ營ム年齡二十年以上ノ男子六月以來市ノ住民ト爲ルトキハ其ノ市公民トス但シ貧困ノ爲公費ノ救助ヲ受ケタル後一年ヲ經サル者、禁治産者、準禁治産者及六年ノ懲役又ハ禁錮以上ノ刑ニ處セラレタル者ハ此ノ限ニ在ラス

同條第二項中「二年」ヲ「六月」ニ改メ第三項及第五項ヲ削ル
第十一條第二項ヲ左ノ如ク改ム
市公民家資分散若ハ破産ノ宣告ヲ受ケ其ノ確定シタルトキヨリ復權ノ決定確定スルニ至ル迄其ノ公民權ヲ停止ス禁錮以上ノ刑ノ宣告ヲ受ケタルトキヨリ其ノ執行ヲ終リ若ハ其ノ執行ヲ受ケルコトナキニ至ル迄亦同シ

第十三條中「人口五十萬ヲ超ユル市ニ於テハ人口二十萬ヲ削ル
第十四條第二項乃至第五項ヲ削ル
第十五條 削除
第十六條中「二級又ハ三級選舉ノ爲ノミニ付亦同シ」ヲ削リ第四項ヲ左ノ如ク改メ第五項ヲ削ル選舉人ハ住所ニ依リ所屬ノ選舉區ヲ定ム
第十七條中「二級又ハ三級選舉ノ爲ノミニ付亦同シ」ヲ削ル
第十八條第四項及第五項ヲ左ノ如ク改ム
父子兄弟タル緣故アル者ハ同時ニ市會議員ノ職ニ在ルコトヲ得ス其ノ同時ニ選舉セラレタルトキハ得票ノ數ニ依リ其ノ多キ者一人ヲ當選者トシ同數ナルトキ又ハ選舉區ヲ異ニシテ選舉セラレタルトキハ年長者ヲ當選者トス同年同日ナルトキハ抽籤ニ依リ市長ヲ定ム其ノ時ヲ異ニシテ選舉セラレタルトキハ後ニ選舉セラレタル者議員タルコトヲ得ス
議員ト爲リタル後前項ノ緣故ヲ生シタル場合ニ於テハ年少者其ノ職ヲ失フ同年同日ナルトキハ抽籤ニ依リ市長ヲ定ム
第十九條中「第一」ニ「每級各別ニ」及「及等級」ヲ削リ第三項ノ次ニ左ノ一項ヲ加フ
議員ノ定數ニ異動ヲ生シタル爲新ニ議員ノ選舉ヲ要スルトキハ三月以内ニ其ノ選舉ヲ行フヘシ

第二十條第一項ヲ左ノ如ク改メ第三項中「等級」ヲ削ル
市會議員中關員ヲ生シタルトキハ三月以内ニ補闕選舉ヲ行フヘシ
第二十一條中「選舉期日前六十日」ヲ削リ其ノ日ノ現在ニ依リ「每年九月十五日」ヲ削リ其ノ日ノ現在ニ依リ「十月十五日」ヲ削リ「選舉期日前四十日」ヲ削リ其ノ日ヨリ七日間ヲ「每年十月二十日ヨリ十五日間」ニ「其ノ確定期日前」ニ「直ニ」ニ改ム
同條第八項及第九項ヲ左ノ如ク改メ第十三項及第十六項ヲ削ル
選舉人名簿ハ十二月十五日ヲ以テ確定期限トシ確定名簿ハ次年ノ十二月十四日迄之ヲ据置クヘシ
第三條又ハ第四條ノ處分アリタル場合ニ於ケル名簿ノ分合ニ關シテハ命令ヲ以テ之ヲ定ム
第二十二條中「各級ヨリ」ニ「等級」及「及第三項」ヲ削ル
第二十五條第五項但書ヲ削ル
第二十七條 削除
第二十八條第二項ヲ削ル
第二十九條 投票ノ拒否及效力ハ選舉立會人ノ意見ヲ聽キ選舉長之ヲ決定ス
選舉分會ニ於ケル投票ノ拒否ハ其ノ選舉立會人ノ意見ヲ聽キ分會長之ヲ決定ス
第三十條中「各級ニ於テ」及「各級」ヲ削リ「七分ノ一」ヲ「五分ノ一」ニ「年齡同シキトキ」ヲ「同年同日ナルトキ」ニ改ム
第三十二條中「數級又ハ」及「最終」ヲ削ル
第四十條第二項ヲ削ル
第四十九條及第五十五條中「年齡同シキトキ」ヲ「同年同日ナルトキ」ニ改ム
第六十五條中「市會議員ノ任期ニ依ル」ヲ「二年トス」ニ改ム
第四百四十六條第三項ヲ削ル

附則
本法ハ本法施行後ニ行ハル、選舉ヨリ之ヲ適用ス
本法施行ノ際必要ナル規定ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム
第十九 町村制中改正法律案(濱田國松君外二名提出) 第一讀會
町村制中改正法律案
町村制中左ノ通改正ス
第七條第一項ヲ左ノ如ク改ム
帝國臣民ニシテ獨立ノ主計ヲ營ム年齡二十歲以上ノ男子六月以來町村ノ住民ト爲ルトキハ其ノ町村公民トス但シ貧困ノ爲公費ノ救助ヲ受ケタル後一年ヲ經サル者、禁治産者、準禁治産者及六年ノ懲役又ハ禁錮以上ノ刑ニ處セラレタル者ハ此ノ限ニ在ラス
同條第二項中「二年」ヲ「六月」ニ改メ第三項及第五項ヲ削ル
第九條第二項ヲ左ノ如ク改ム
町村公民家資分散若ハ破産ノ宣告ヲ受ケ其ノ確定シタルトキヨリ復權ノ決定確定スルニ至ル迄其ノ公民權ヲ停止ス禁錮以上ノ刑ノ宣告ヲ受ケタルトキヨリ其ノ執行ヲ終リ若ハ其ノ執行ヲ受ケルコトナキニ至ル迄亦同シ
第十二條第二項乃至第五項ヲ削ル
第十三條 削除
第十四條中「二級選舉ノ爲ノミニ付亦同シ」ヲ削ル
第十五條第四項第五項ヲ左ノ如ク改ム
父子兄弟タル緣故アル者ハ同時ニ町村會議員ノ職ニ在ルコトヲ得ス其ノ同時ニ選舉セラレタルトキハ得票ノ數ニ依リ其ノ多キ者一人ヲ當選者トシ同數ナルトキ又ハ年長者ヲ當選者トス同年同日ナルトキハ抽籤ニ依リ町村長ヲ定ム其ノ時ヲ異ニシテ選舉セラレタルトキハ後ニ選舉セラレタル者議員タルコトヲ得ス
議員ト爲リタル後前項ノ緣故ヲ生シタル場合ニ於テハ年少者其ノ職ヲ失フ同年同日ナルトキハ抽籤ニ依リ町村長ヲ定ム
第十六條中「第一」ニ「每級及各別」及「解任」ヲ要スル等級ニ「削リ第三項ノ次ニ左ノ一項ヲ加フ
議員ノ定數ニ異動ヲ生シタル爲新ニ議員ノ選舉ヲ要スルトキハ三月以内ニ其ノ選舉ヲ行フヘシ
第十七條第一項ヲ左ノ如ク改メ第三項ヲ削ル
町村會議員中關員ヲ生シタルトキハ三月以内ニ補闕選舉ヲ行フヘシ
第十八條中「選舉期日前六十日」ヲ削リ其ノ日ノ現在ニ依リ「每年九月十五日」ヲ削リ其ノ日ノ現在ニ依リ「十月十五日」ヲ削リ「選舉期日前四十日」ヲ削リ其ノ日ヨリ七日間ヲ「每年十月二十日ヨリ十五日間」ニ「其ノ確定期日前」ニ「直ニ」ニ改ム
同條第七項及第八項ヲ左ノ如ク改メ第十二項及第十五項ヲ削ル
選舉人名簿ハ十二月十五日ヲ以テ確定期限トシ確定名簿ハ次年ノ十二月十四日迄之ヲ据置クヘシ
第三條ノ處分アリタル場合ニ於ケル名簿ノ分合ニ關シテハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第十九 町村制中改正法律案(濱田國松君外二名提出) 第一讀會
町村制中改正法律案
町村制中左ノ通改正ス
第七條第一項ヲ左ノ如ク改ム
帝國臣民ニシテ獨立ノ主計ヲ營ム年齡二十歲以上ノ男子六月以來町村ノ住民ト爲ルトキハ其ノ町村公民トス但シ貧困ノ爲公費ノ救助ヲ受ケタル後一年ヲ經サル者、禁治産者、準禁治産者及六年ノ懲役又ハ禁錮以上ノ刑ニ處セラレタル者ハ此ノ限ニ在ラス
同條第二項中「二年」ヲ「六月」ニ改メ第三項及第五項ヲ削ル
第九條第二項ヲ左ノ如ク改ム
町村公民家資分散若ハ破産ノ宣告ヲ受ケ其ノ確定シタルトキヨリ復權ノ決定確定スルニ至ル迄其ノ公民權ヲ停止ス禁錮以上ノ刑ノ宣告ヲ受ケタルトキヨリ其ノ執行ヲ終リ若ハ其ノ執行ヲ受ケルコトナキニ至ル迄亦同シ
第十二條第二項乃至第五項ヲ削ル
第十三條 削除
第十四條中「二級選舉ノ爲ノミニ付亦同シ」ヲ削ル
第十五條第四項第五項ヲ左ノ如ク改ム
父子兄弟タル緣故アル者ハ同時ニ町村會議員ノ職ニ在ルコトヲ得ス其ノ同時ニ選舉セラレタルトキハ得票ノ數ニ依リ其ノ多キ者一人ヲ當選者トシ同數ナルトキ又ハ年長者ヲ當選者トス同年同日ナルトキハ抽籤ニ依リ町村長ヲ定ム其ノ時ヲ異ニシテ選舉セラレタルトキハ後ニ選舉セラレタル者議員タルコトヲ得ス
議員ト爲リタル後前項ノ緣故ヲ生シタル場合ニ於テハ年少者其ノ職ヲ失フ同年同日ナルトキハ抽籤ニ依リ町村長ヲ定ム
第十六條中「第一」ニ「每級及各別」及「解任」ヲ要スル等級ニ「削リ第三項ノ次ニ左ノ一項ヲ加フ
議員ノ定數ニ異動ヲ生シタル爲新ニ議員ノ選舉ヲ要スルトキハ三月以内ニ其ノ選舉ヲ行フヘシ
第十七條第一項ヲ左ノ如ク改メ第三項ヲ削ル
町村會議員中關員ヲ生シタルトキハ三月以内ニ補闕選舉ヲ行フヘシ
第十八條中「選舉期日前六十日」ヲ削リ其ノ日ノ現在ニ依リ「每年九月十五日」ヲ削リ其ノ日ノ現在ニ依リ「十月十五日」ヲ削リ「選舉期日前四十日」ヲ削リ其ノ日ヨリ七日間ヲ「每年十月二十日ヨリ十五日間」ニ「其ノ確定期日前」ニ「直ニ」ニ改ム
同條第七項及第八項ヲ左ノ如ク改メ第十二項及第十五項ヲ削ル
選舉人名簿ハ十二月十五日ヲ以テ確定期限トシ確定名簿ハ次年ノ十二月十四日迄之ヲ据置クヘシ
第三條ノ處分アリタル場合ニ於ケル名簿ノ分合ニ關シテハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第十九條中「各級ヨリ」等及「第三項ヲ削ル」
第二十二條第五項但書ヲ削ル
第二十四條 削除
第二十五條第二項ヲ削ル

第二十六條 投票ノ拒否及效力ハ選舉立會人ノ意見ヲ聽キ選舉長之ヲ決定ス
選舉分會ニ於ケル投票ノ拒否ハ其ノ選舉立會人ノ意見ヲ聽キ分會長之ヲ決定ス

第二十七條中「各級ニ於テ」及「各級ノ」ヲ削リ「七分ノ一」ヲ「五分ノ一」ニ「年齢同シキトキ」ヲ「同年月日ナルトキ」ニ改ム
第二十九條第三項及第五項中「第三項ノ場合ニ於テ」何レノ當選ニ應スヘキカヲ申立テサルトキハ總テ之ヲ辭シタルモノト看做スヲ削ル

第三十一條第二項ヲ左ノ如ク改ム
第二十九條第二項ノ期間ヲ經過シタルトキ、同條第五項ノ申立アリタルトキハ町村長ハ直ニ當選者ノ住所氏名ヲ告示併セテ之ヲ郡長ニ報告スヘシ
第三十七條第二項ヲ削ル
第五十一條中「年齢同シキトキ」ヲ「同年月日ナルトキ」ニ改ム

附則

本法ハ本法施行後ニ行ハルル選舉ヨリ之ヲ適用ス
本法施行ノ際必要ナル規定ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム
(植原悦二郎君登壇、拍手起ル)

○植原悦二郎君 茲ニ議題トナシテ居リマスル府縣制郡制、市制、町村制ノ改正案ニ就キマシテ、提出ノ理由ヲ簡單ニ說明致シマス(贊成)ト呼フ者アリ(私ガ申ス迄モナク、是等ノ法案ハ或點カラ申シマスレバ、立憲政治ノ淵源若クハ根柢ト申サルベキモノニシテ、最モ重大ナル案デアリマス、凡ソ一國ノ立憲政治ノ運命ハ、此地方自治制ニ依テ決定スルモノト申シテモ差支ナカラウト信ジテ居リマス、此點ニ於テハ政友會ノ諸君モ御同感デアアルコトハ先日ノ普通選舉案ノ上程サレマシタトキニモ、中西君モ明確ニ申サレマシタ、普通選舉ノ實行モ必要デアアルガ、府縣制、市町村制ノ選舉權ノ擴張モ更ニ必要デアアル、ソレガナイノニ普通選舉ノ實行ガ出來ルカト申サレマシタガ、此點ハ或意味ニ於テ御尤ト感ゼラレマス、ソレ故ニ私共ハ第四十一議會ニ現行ノ選舉法ノ改正サレル以前ニ於テ、殆ト是ト同一ナル所ノ府縣制、郡制、市制、町村制ノ改正案ヲ提出致シマシテ、其當時モ私ガ提案ノ理由ヲ說明致シマシタ、而已ナラス第四十二議會ニ於テモ同様ニ之ヲ提出シ、第四十三議會ニ於テモ均シク之ヲ提出致シタデアリマス、然ルニ何ガ故デアアルカ

私共ハ理由ヲ能ク存ジマセヌケレドモ、會期ノ長イトキデアリマシテモ之ヲ上程スルノミニシテ委員會ヲ開カレナイ、或ル場合ニ於テハ提出致シマシテモ、其會期中ニ上程セズニ終ルト云フヤウナコトガ、今回迄三回繼續シテ居ルノデアリマス、而已ナラス今回ニ於キマシテモ、私共此會期ノ初メニ於キマシテ今日ノ日本ノ選舉界ノ狀態カラ最モ必要ナルモノト思ヒマシテ、第一ニ之ヲ提案致シマシタ、然ルニ既ニ其會期ノ半バナル今日ニ至リテ、漸ク茲ニ上程サレテ說明ノ機會ヲ得ルヤウナ状態デアリマス、眞ニ立憲政治ノ發達、地方自治ノ健全ナル所ノ時勢ノ進運ニ適應スル所ノ議會ヲ希望スル者デアリマシタナラバ、一日モ早ク此案ノ當選ヲ審議ヲ得テ、私共提案ノ如ク確定アルベキ筈デアルト信ジテ居リマス、私共ノ提出致シマシタ所ノ案ハ四案デアリマスケレドモ、改正ノ要旨ハ共通ノ點ガ淨山アリマス、故ニ其共通點ヲ最モ多ク有シテ居ル所ノ市制ノ改正ニ就テ要點ヲ簡單ニ申上ゲマス、第一市制ノ改正ニ就キマシテ私共ノ最モ重要ト考ヘテ居ル所ハ、選舉權ノ擴張デアリマス、現在ノ選舉權ト申スモノハ獨立ノ生計ヲ營ム滿二十五歳ノ男子ニシテ、其中内ニ二箇年住居シ、其中ノ負擔ヲ分擔シ而モ直接國稅三圓ヲ納ムル者ヲ以テ(ソレハ何デスカ)ト呼フ者アリ)

○議長(奥繁三郎君) 答ニ

○植原悦二郎君(續) 訂正致シマス

一國ヲ納ムル者ヲ以テ選舉權ヲ有スルモノト規定サレテ居リマス、私共ハ之ヲ獨立ノ生計ヲ營ム年齡二十年以上ノ男子、其中ニ於テ六箇月以上住居スル者ニ選舉權ヲ與フルト云フ所選選舉權ヲ擴張スルト云フ提案デアリマス、第二ノ要點ハ甚ダ議論ノ問題トナシテ居リマスル所ノ階級選舉制撤廢ノ問題デアリマス、何ガ故ニ之ヲ舊制ト御言ヒニナルカ私共存ジマセヌカ明カニ是ハ階級選舉制トアルノニ、或一部分ニ於テハ、之ヲ階級ト謂ヘバ此階級ノ普通選舉ニ階級制度撤廢ト云フコトヲ反對シテ行掛上困難ト云フノデ、殊更ニ舊制ト云フヤウナ文字ヲ作テ御用ヒニナシテ居ルヤウデアリマスガ、何レニ致セ今日ノ市制ニ於キマシテハ、三級ノ選舉制ニナシテ居リマス、此三級ノ選舉ノ狀態ノ如何ニ不公平デアアルカト云フコトニ就テハ、私共申上ゲル迄モナク、東京ノ麹町區ノ如キニ於テハ三入デ市會議員ヲ出シテ居ル、大阪ノ北區ニ於テハ五人ノ選舉人ニヨリテ六人ノ市會議員ヲ出シテ居ルト云フヤウナ状態ヲ望シテ居リマス、此不公平ナル事ニ就テハ私ガ申上ゲル迄モナク、此三級ノ階級選舉制度ヲ撤廢シテ、全體ノ有權者ニ同等ナル所ノ選舉權ヲ與ヘヤウト云フコトガ、私共ノ市制改正ノ第一ノ骨子デアリマス、第三ノ改正ノ點ハ選舉人名簿調製ノコトデアリマス、此選舉人名簿調製ニ就キマシテハ、現行法ニ於テハ選舉六十日以前ニ於テ選舉名簿ヲ調製スルコトニナシテ居リマス、私共ハ之ヲ毎年九月十五日カラ十月十五日ノ間ニ必ズ調製シテ備付ケテ置クヤウニ致ス、斯ウ云フ規定ヲ設ケタコトデアリマス、次ニ改正ノ要點ハ唯今市會議員中市參事會員ニ對シテ任期ノ甚ダ不明瞭ナル規定ガアルノデアリマス、實際ニ於テハサウ不明瞭モナクテ行ハレテ居リマスケレドモ、事實ニ於テノ規定上ニ不明瞭ノ點ガアリマス、其細目ニ互テ幾多ノ改正ヲコトマスケレドモ、要ハ選舉權ノ擴張ト階級ノ撤廢ト云フコトガ骨子デアリマス、又町村制ニ於キマシテハ丁度市制ニ於ケル程度ニ於テ、同一ナル選舉資格ヲ以テ、町村制ノ選舉人ト定ムルト云フコトガ町村制ニ於ケル選舉權ノ擴張ノ一ノ範圍デアリマス、申ス迄モナク町村制ニ於キマシテハ、二級制度ニナシテ居リマス、此二級制度ヲ撤廢シテ、市制ニ於テ三級制度ヲ破リ、市民全體同一ナル資格ノ下ニ選舉權ヲ有セシムルト規定ノ意思ニ基キマシテ、町村ニ於テモ二級ノ制度ヲ撤廢シテ、町村民ノ獨立ノ生計ヲ營ム二十歳以上ノ男子ニシテ、其地ニ六箇月以上住居スル者ニ選舉權ヲ與フルトニ致シタデアリマス、其他ノ選舉人名簿調製ハ是迄ノ制年ニ依リマス、市制ニ於テモ町村制ニ於テモ、別々ナ選舉人名簿ヲ作ルコトニ致シテ居リマスケレドモ、私共ハ市制ニ於テモ、町村制ニ於テモ、同一ナル選舉資格ヲ認メルガ故ニ、別々ニ選舉人名簿ヲ作ル必要ナシト致シマシテ、共通ノ名簿ヲ用ケラル、コトニ規定シタデアリマス、町制ニ就キマシテモ略同一デアリマス、府縣制ニ就キマシテハ、申スマデモナク直接國稅ニ三圓ト規定シテ居リマスルノ、此納稅資格ヲ撤廢致シマシテ、市制、郡制、町村制ト同一ナル選舉資格ヲ府縣制ノ下ニ於テモ與フルコトニ致シタデアリマス、又府縣制ニ於キマシテハ被選舉權ノ資格ヲ定メテ居リマス、之ヲ私共ハ撤廢シテ被選舉權ノ資格ヲ全部取除クコトニ致シタデアリマス、今一ツ府縣制ニ於キマシテ市制、郡制、町村制ト異ル改正ノ一ツノ點ハ、只今ノ府縣制ニ依リマスレバ、府縣會ヲ毎年一回開クト云フコトニ規定サレテ居リマス、毎年一回ト云フコトニナリマス、翌年ノ三月ガ會計年度デアアルノニ、豫算ガマダ編成サレナイデモ十二月以前ニ府縣會ヲ開カケレバナラナイト云フヤウナ不便ノアルコトハ、現行法ニ依テ各地ニ於テ認メラレテ居ル事デアリマス、此不便ヲ直スガ爲メニ、私共ハ府縣制ニ於キマシテハ每會計年度ニ一回ノ事實ハ同ジヤウデアリマスケレドモ、融通ノ利ク便宜ヲ圖ル所ノ規定ヲ設ケタデアリマス、是等ガ私共ノ大體ノ改正ノ骨子デアリマス、尙ホ詳シイ事ハ委員會ニ於テ說明致シマスガ、此ニ於テ私共此

第二十一 町村制中改正法律案(大道寺 慶男君提出) 第一讀會

町村制中改正法律案

町村制中左ノ通改正ス
第九條第二項中「禁錮以上ノ刑ノ宣告ヲ受ケタルトキヨリ」ヲ「六年未滿ノ懲役又ハ禁錮ノ刑ニ處セラレ」ニ改メ

〔大道寺慶男君登壇、拍手起ル〕

○大道路寺慶男君 兩案トモ提出ノ趣旨、所謂改正ノ趣旨ハ極ク簡單デアリマス。我國現在ノ司法制度ハ御承知ノ如ク一審、控訴、上告ト三審級ニテ居リマシテ、而シテ其判決ハ假執行ノ宣言ノ場合ヲ除ク外ハ、確定ノ判決ニ依リマシテ、絕對ノ效力ヲ有スルコトニ相成テ居ルデアリマス。然ルニ市制第十一條ノ二項、町村制ノ九條ノ二項ニハ、禁錮以上ノ刑ノ宣告ヲ受ケタル場合ニハ、其判決ガ未ダ確定セザルニ拘ラズ、直チニ公民權ヲ停止サレト云フコトノ規定ニ相成テ居ルデアリマス。隨テ其刑ノ宣告ガ上級審ニ至リマシテ、無罪トナルカ、或ハ禁錮以下ノ刑ニ輕減サレル場合ニ於キマシテモ、一旦停止サレタル所ノ公民權ヲ恢復スルニ手段ガナイデアリマス。其結果トシテ市會議員ト禁錮以上ノ刑ノ宣告ヲ受ケタル致シマスレバ、假ニ上級審ニ至テ幸ニ無罪トナタ所第一審ノ未確定ノ判決ノ效力ノ結果ニ依リ、一旦失ヒマシテ資格ヲ恢復スルコトガ出來ヌ結果ヲ見ルデアリマス。我が衆議院議員選舉法ニ依リマスルト、同法第十一條ノ四ニハ、禁錮ノ刑ニ處セラレタル場合ト云フコトニテ居ルデアリマス、即チ確定判決ヲ以テ資格ニ異動ヲ及ボスコトニテ居ルデアリマス、サレバ云フ權衡ヲ保テナイ規定ニテ居ルデアリマス。本改正ノ趣旨ハ第一ニ司法制度ノ趣旨ニ反スル未確定ノ判決ニ效力ヲ有セシムルコト云フガ如キ不條理ヲ改メタイコトガ第一デアリマス。第二ハ立憲治下ニ於キマスル政治ニ參與シマスル重大ナル權利ノ上ニ、衆議院議員ノ選舉ト、ソレカラ其以下ノ縣會議員、市町村會議員ト、資格ノ上ニ、此權利ヲ定メス法規ノ上ニ、非常ニ不權衡ニテ居リマスカラ、此不權衡ヲ正シタイコトガ第一デアリマス。第三ハ此法律ノ結果トシテ、實際上甚ダ不便不都合ノ現象ヲ見ルデアリマスカラ、之ヲ矯正シタイコト云フ、此三ツノ理由ガ本案提出ノ趣旨ニ外ナラナイデアリマス、ドウカ一致ノ御贊成アラント云フ希望致シマス

第二十 市制中改正法律案(大道寺慶男君提出) 第一讀會

市制中改正法律案

第十一條第二項中「禁錮以上ノ刑ノ宣告ヲ受ケタルトキヨリ」ヲ「六年未滿ノ懲役又ハ禁錮ノ刑ニ處セラレ」ニ改メ

○議長(奥繁三郎君) 岩崎君ノ動議ニ、御異議アリマセヌカ

〔異議ナシト呼フ者アリ〕

○議長(奥繁三郎君) 御異議ナシト認メマス、仍テ動議ノ如ク決シマシタ。日程第二十、二十一ノ二案ハ同種ノ議案ニシテ、且ツ提出者ガ同一デアリマスカラ、一括議題ニ致シマシテ、御異議アマセヌカ

〔異議ナシト呼フ者アリ〕

○議長(奥繁三郎君) 御異議ナシト認メマス、第二十市制中改正法律案、第二十一町村制中改正法律案——大道寺慶男君

○議長(奥繁三郎君) 岩崎君ノ動議ニ御異議ガナイト認メマス、仍テ動議ノ如ク決シマシタ。日程第二十二、乃至第二十六ハ同様ノ議案ニシテ、且ツ提出者モ同一デアリマスカラ、一括議題ニ致シマス、御異議アリマセヌカ

〔異議ナシト呼フ者アリ〕

○議長(奥繁三郎君) 御異議ガナイト認メマス、仍テ此五案ハ一括シテ議題ニ供シマス、黒金泰義君

第二十二 府縣制中改正法律案(箕浦勝人君外三名提出) 第一讀會

府縣制中改正法律案

府縣制中左ノ通改正ス
第六條第一項ヲ左ノ如ク改メ第二項第三項及第五項ヲ削ル

府縣内ノ市町村公民ニシテ市町村會議員ノ選舉權ヲ有スル者ハ府縣會議員ノ選舉權及被選舉權ヲ有ス

同條第六項中第三號及第四號ヲ削ル

第九條 府縣會議員ノ選舉ニ要スル選舉人名簿ハ市町村會議員ノ選舉人名簿ヲ以テ之ニ充ツ

第十條 削除

第十一條 削除

第十二條 選舉人名簿ニ登錄セラレサル者ハ選舉ニ參與スルコトヲ得ス但シ選舉人名簿ニ登錄セラレヘキ確定裁決書又ハ判決書ヲ所持シ選舉ノ當日選舉會場ニ到ル者ハ此ノ限ニ在ラス

選舉人名簿ニ登錄セラレタル者選舉權ヲ有セザルトキハ選舉ニ參與スルコトヲ得ス但シ名簿ハ之ヲ修正スル限ニ在ラス

附則

本法ハ次ノ總選舉ヨリ之ヲ施行ス

本法施行ノ爲必要ナル規定ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第二十三 郡制中改正法律案(箕浦勝人君外三名提出) 第一讀會

郡制中改正法律案

郡制中左ノ通改正ス
第六條第一項ヲ左ノ如ク改メ第二項第三項及第五項ヲ削ル

郡内ノ町村公民ニシテ町村會議員ノ選舉權ヲ有スル者ハ郡會議員ノ選舉權及被選舉權ヲ有ス

同條第六項中第四號及第五號ヲ削ル

村會議員ノ選舉人名簿ヲ以テ之ニ充ツ

選舉人名簿ニ登錄セラレサル者ハ選舉ニ參與スルコトヲ得ス但シ選舉人名簿ニ登錄セラレヘキ確定裁決書又ハ判決書ヲ所持シ選舉ノ當日選舉會場ニ到ル

選舉人名簿ニ登錄セラレタル者選舉權ヲ有セザルトキハ選舉ニ參與スルコトヲ得ス但シ名簿ハ之ヲ修正スル限ニ在ラス

附則

本法ハ次ノ總選舉ヨリ之ヲ施行ス

本法施行ノ爲必要ナル規定ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

〔異議ナシト呼フ者アリ〕

〔異議ナシト呼フ者アリ〕

者ハ此ノ限ニ在ラス
選舉人名簿ニ登錄セラレタル者選舉權ヲ有セサル
キハ選舉ニ參與スルコトヲ得ズ但シ名簿ハ之ヲ修正ス
ル限ニ在ラス

附則
本法ハ次ノ總選舉ヨリ之ヲ施行ス
本法施行ノ爲必要ナル規定ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第二十四 市制中改正法律案(箕浦勝人 君外三名提出) 第一讀會

市制中改正法律案
市制中左ノ通改正ス
第九條 帝國臣民ニシテ獨立ノ生計ヲ營ム年齡二十
五年以上ノ男子一年以來市ノ住民ト爲リタル者ハ其
ノ市公民トス但シ貧困ノ爲公費ノ救助ヲ受ケタル後
一年ヲ經サル者、禁治産者、準禁治産者及六年ノ懲
役又ハ禁錮以上ノ刑ニ處セラレタル者ハ此ノ限ニ在
ラス

市ハ前項一年ノ制限ヲ特免スルコトヲ得
市公民ノ要件中其ノ年限ニ關スルモノハ市町村ノ廢
置分合又ハ境界變更ノ爲中斷セララルコトナシ
第十一條第二項ヲ左ノ如ク改ム
市公民家資分散若ハ破産ノ宣告ヲ受ケ其ノ確定シ
タルトキヨリ復權ノ決定確定スルニ至ル迄又ハ禁錮
以上ノ刑ノ宣告ヲ受ケ其ノ確定シタルトキヨリ其ノ
執行ヲ終リ若ハ其ノ執行ヲ受クルコトナキニ至ル迄其
ノ公民權ヲ停止ス

第十四條第二項乃至第五項ヲ削ル
第十五條 削除
第十六條中「一級又ハ三級選舉ノ爲ノミニ付亦同シ」ヲ
削リ第四項ヲ左ノ如ク改メ第五項ヲ削ル
選舉人ハ住所ニ依リ所屬ノ選舉區ヲ定ム
第十七條中「二級又ハ三級選舉ノ爲ノミニ付亦同シ」ヲ削
ル
第十八條第二項中第四號及第五號ヲ削ル
同條第四項ヲ左ノ如ク改ム
父子兄弟タル緣故アル者ハ同時ニ市會議員ノ職ニ在
ルコトヲ得ス其ノ同時ニ選舉セラレタルトキハ得票ノ
數ニ依リ其ノ多キ者一人ヲ當選者トシ同數ナルトキ
又ハ選舉區ヲ異ニシテ選舉セラレタルトキハ年長者ヲ
當選者トス其ノ時ヲ異ニシテ選舉セラレタルトキハ後
ニ選舉セラレタル者議員タルコトヲ得ス

第十九條中「每級各別ニ」及「及等級」ヲ削ル
第二十條中「等級及」ヲ削ル
第二十一條第一項中「選舉期日前六十日ヲ期トシ其ノ
日ノ現在ニ依リ」ヲ「毎年九月十五日ヲ期トシ其ノ日ノ
現在ニ依リ」ト改メ「毎年九月十五日ヲ期トシ其ノ日ノ
現在ニ依リ」ト改ム

同條第三項中「選舉期日前四十日ヲ期トシ其ノ日ヨリ
七日間」ヲ「毎年十月二十日ヨリ十五日間」ニ改ム
同條第七項中「其ノ確定期日前二日」直ニ「改ム
同條第八項ヲ左ノ如ク改メ第九項第十三項及第十六
項ヲ削ル
選舉人名簿ハ十二月十五日ヲ以テ確定期限トシ確
定名簿ハ次年ノ十二月十四日迄之ヲ据置クヘシ
第二十二條中「各級ヨリ」及「等級及」ヲ削リ第三項ヲ
左ノ如ク改ム
天災事變等ニ依リ選舉ヲ行フコト能ハサルニ至リタル
トキハ市長ハ更ニ選舉會場及投票ノ日時ヲ告示シ選
舉ヲ行フヘシ
第二十五條第五項但書ヲ削ル
第二十七條 削除
第二十八條第二項ヲ削ル
第三十條第一項ヲ左ノ如ク改ム
市會議員ノ選舉ハ有效投票ノ最多數ヲ得タル者ヲ以
テ當選者トス但シ議員數ヲ以テ選舉人名簿ニ登錄セ
ラレタル人員數ヲ除シテ得タル數ノ七分ノ一以上ノ得
票アルコトヲ要ス
第三十二條中「數級又ハ」及「最終ニ」ヲ削ル
第四十六條第三項ヲ削ル

官報號外 大正十年二月二十四日 衆議院議事速記錄第十八號 第二十二 府縣制中改正法律案外四件 第一

同條第三項中「選舉期日前四十日ヲ期トシ其ノ日ヨリ
七日間」ヲ「毎年十月二十日ヨリ十五日間」ニ改ム
同條第七項中「其ノ確定期日前二日」直ニ「改ム
同條第八項ヲ左ノ如ク改メ第九項第十三項及第十六
項ヲ削ル
選舉人名簿ハ十二月十五日ヲ以テ確定期限トシ確
定名簿ハ次年ノ十二月十四日迄之ヲ据置クヘシ
第二十二條中「各級ヨリ」及「等級及」ヲ削リ第三項ヲ
左ノ如ク改ム
天災事變等ニ依リ選舉ヲ行フコト能ハサルニ至リタル
トキハ市長ハ更ニ選舉會場及投票ノ日時ヲ告示シ選
舉ヲ行フヘシ
第二十五條第五項但書ヲ削ル
第二十七條 削除
第二十八條第二項ヲ削ル
第三十條第一項ヲ左ノ如ク改ム
市會議員ノ選舉ハ有效投票ノ最多數ヲ得タル者ヲ以
テ當選者トス但シ議員數ヲ以テ選舉人名簿ニ登錄セ
ラレタル人員數ヲ除シテ得タル數ノ七分ノ一以上ノ得
票アルコトヲ要ス
第三十二條中「數級又ハ」及「最終ニ」ヲ削ル
第四十六條第三項ヲ削ル

附則
本法ハ次ノ總選舉ヨリ之ヲ施行ス
本法施行ノ爲必要ナル規定ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第二十五 町村制中改正法律案(箕浦勝人 君外三名提出) 第一讀會

町村制中改正法律案
町村制中左ノ通改正ス
第七條第一項及第二項ヲ左ノ如ク改メ第三項及第五
項ヲ削ル
帝國臣民ニシテ獨立ノ生計ヲ營ム年齡二十五
年以上ノ男子一年以來町村ノ住民ト爲リタル者ハ其ノ町
村公民トス但シ貧困ノ爲公費ノ救助ヲ受ケタル後一
年ヲ經サル者、禁治産者、準禁治産者及六年ノ懲役
又ハ禁錮以上ノ刑ニ處セラレタル者ハ此ノ限ニ在ラ
ス
町村ハ前項一年ノ制限ヲ特免スルコトヲ得
第九條第二項ヲ左ノ如ク改ム
町村公民家資分散若ハ破産ノ宣告ヲ受ケ其ノ確定
シタルトキヨリ復權ノ決定確定スルニ至ル迄又ハ禁錮
以上ノ刑ノ宣告ヲ受ケ其ノ確定シタルトキヨリ其ノ執
行ヲ終リ若ハ其ノ執行ヲ受クルコトナキニ至ル迄其ノ
公民權ヲ停止ス
第十二條第二項乃至第五項ヲ削ル
第十三條 削除

第十四條中「一級選舉ノ爲ノミニ付亦同シ」ヲ削ル
第十五條第二項中第四號及第五號ヲ削ル
同條第四項ヲ左ノ如ク改ム
父子兄弟タル緣故アル者ハ同時ニ町村會議員ノ職ニ
在ルコトヲ得ス其ノ同時ニ選舉セラレタルトキハ得票
ノ數ニ依リ其ノ多キ者一人ヲ當選者トシ同數ナルト
キハ年長者ヲ當選者トス其ノ時ヲ異ニシテ選舉セラ
レタルトキハ後ニ選舉セラレタル者議員タルコトヲ
得ス

第十九條中「每級各別ニ」及「及等級」ヲ削ル
第二十條中「等級及」ヲ削ル
第二十一條第一項中「選舉期日前六十日ヲ期トシ其ノ
日ノ現在ニ依リ」ヲ「毎年九月十五日ヲ期トシ其ノ日ノ
現在ニ依リ」ト改メ「毎年九月十五日ヲ期トシ其ノ日ノ
現在ニ依リ」ト改ム

第十四條中「一級選舉ノ爲ノミニ付亦同シ」ヲ削ル
第十五條第二項中第四號及第五號ヲ削ル
同條第四項ヲ左ノ如ク改ム
父子兄弟タル緣故アル者ハ同時ニ町村會議員ノ職ニ
在ルコトヲ得ス其ノ同時ニ選舉セラレタルトキハ得票
ノ數ニ依リ其ノ多キ者一人ヲ當選者トシ同數ナルト
キハ年長者ヲ當選者トス其ノ時ヲ異ニシテ選舉セラ
レタルトキハ後ニ選舉セラレタル者議員タルコトヲ
得ス
第十六條中「每級各別ニ」及「但書」ヲ削ル
第十七條第三項ヲ削ル
第十八條第一項中「選舉期日前六十日ヲ期トシ其ノ日
ノ現在ニ依リ」ヲ「毎年九月十五日ヲ期トシ其ノ日ノ現
在ニ依リ」ト改メ「毎年九月十五日ヲ期トシ其ノ日ノ現
在ニ依リ」ト改ム
同條第二項中「選舉期日前四十日ヲ期トシ其ノ日ヨリ
七日間」ヲ「毎年十月二十日ヨリ十五日間」ニ改ム
同條第六項中「其ノ確定期日前二日」直ニ「改ム
同條第七項ヲ左ノ如ク改メ第八項第十二項及第十五
項ヲ削ル
選舉人名簿ハ十二月十五日ヲ以テ確定期限トシ確
定名簿ハ次年ノ十二月十四日迄之ヲ据置クヘシ
第十九條中「各級ヨリ選舉ス」キ「及」等級及「ヲ削リ第
三項ヲ左ノ如ク改ム
天災事變等ニ依リ選舉ヲ行フコト能ハサルニ至リタル
トキハ町村長ハ更ニ選舉會場及投票ノ日時ヲ告示シ
選舉ヲ行フヘシ
第二十二條第五項但書ヲ削ル
第二十四條 削除
第二十五條第二項ヲ削ル
第二十七條第一項ヲ左ノ如ク改ム
町村會議員ノ選舉ハ有效投票ノ最多數ヲ得タル者
ヲ以テ當選者トス但シ議員數ヲ以テ選舉人名簿ニ登
錄セラレタル人員數ヲ除シテ得タル數ノ七分ノ一以上
ノ得票アルコトヲ要ス
第二十九條第三項ヲ削ル
同條第五項中「第三項ノ場合ニ於テ何レノ當選ニ應ス
ヘキカヲ申立テサルトキハ總テ之ヲ辭シタルモノト看做ス」
ヲ削ル

附則
本法ハ次ノ總選舉ヨリ之ヲ施行ス
本法施行ノ爲必要ナル規定ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第二十六 北海道會法中改正法律案(箕浦勝人 君外三名提出) 第一讀會

北海道會法中改正法律案
北海道會法中左ノ通改正ス
第四條 帝國臣民ニシテ獨立ノ生計ヲ營ム年齡二十
五年以上ノ男子一年以來北海道内ニ住所ヲ有スル

同條第三項中「選舉期日前四十日ヲ期トシ其ノ日ヨリ
七日間」ヲ「毎年十月二十日ヨリ十五日間」ニ改ム
同條第七項中「其ノ確定期日前二日」直ニ「改ム
同條第八項ヲ左ノ如ク改メ第九項第十三項及第十六
項ヲ削ル
選舉人名簿ハ十二月十五日ヲ以テ確定期限トシ確
定名簿ハ次年ノ十二月十四日迄之ヲ据置クヘシ
第二十二條中「各級ヨリ」及「等級及」ヲ削リ第三項ヲ
左ノ如ク改ム
天災事變等ニ依リ選舉ヲ行フコト能ハサルニ至リタル
トキハ市長ハ更ニ選舉會場及投票ノ日時ヲ告示シ選
舉ヲ行フヘシ
第二十五條第五項但書ヲ削ル
第二十七條 削除
第二十八條第二項ヲ削ル
第三十條第一項ヲ左ノ如ク改ム
市會議員ノ選舉ハ有效投票ノ最多數ヲ得タル者ヲ以
テ當選者トス但シ議員數ヲ以テ選舉人名簿ニ登錄セ
ラレタル人員數ヲ除シテ得タル數ノ七分ノ一以上ノ得
票アルコトヲ要ス
第三十二條中「數級又ハ」及「最終ニ」ヲ削ル
第四十六條第三項ヲ削ル

同條第三項中「選舉期日前四十日ヲ期トシ其ノ日ヨリ
七日間」ヲ「毎年十月二十日ヨリ十五日間」ニ改ム
同條第七項中「其ノ確定期日前二日」直ニ「改ム
同條第八項ヲ左ノ如ク改メ第九項第十三項及第十六
項ヲ削ル
選舉人名簿ハ十二月十五日ヲ以テ確定期限トシ確
定名簿ハ次年ノ十二月十四日迄之ヲ据置クヘシ
第二十二條中「各級ヨリ」及「等級及」ヲ削リ第三項ヲ
左ノ如ク改ム
天災事變等ニ依リ選舉ヲ行フコト能ハサルニ至リタル
トキハ市長ハ更ニ選舉會場及投票ノ日時ヲ告示シ選
舉ヲ行フヘシ
第二十五條第五項但書ヲ削ル
第二十七條 削除
第二十八條第二項ヲ削ル
第三十條第一項ヲ左ノ如ク改ム
市會議員ノ選舉ハ有效投票ノ最多數ヲ得タル者ヲ以
テ當選者トス但シ議員數ヲ以テ選舉人名簿ニ登錄セ
ラレタル人員數ヲ除シテ得タル數ノ七分ノ一以上ノ得
票アルコトヲ要ス
第三十二條中「數級又ハ」及「最終ニ」ヲ削ル
第四十六條第三項ヲ削ル

官報號外 大正十年二月二十四日 衆議院議事速記錄第十八號 第二十二 府縣制中改正法律案外四件 第一

者ハ北海道會議員ノ選舉權及被選舉權ヲ有ス
第七條第一項中第三號及第四號ヲ削ル
第十五條 削除

附則

本法ハ次ノ總選舉ヨリ之ヲ施行ス
本法施行ノ爲必要ナル規定ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

〔黒金泰義君登壇、拍手〕

○黒金泰義君 只今議題ニ供セラレマシテ府縣制其他改正法律案ハ今日マデ屢、吾等同志ヨリ當議會ニ提案ニナリ、其都度説明ヲ加ヘテ置イタリマシマス、又既ニ本日ニ於キマシテモ、植原君ヨリ此改正案ニ就テ大體説明ガアリマシタ、私共同志ノ提出致シマシタノモ、植原君ノ説明ヲセラレマシタノト同趣意デアリマシマス、殊ニ屢、説明ヲ重ネテ居ルノデアリマシマス、今改正案ニ對スル所ノ主ナル點ニ就テ簡單ニ説明致シタイト存ジマス、第一改正ヲ要スル點ニ就テ點ハ、現行ノ府縣制、郡制並ニ市制、町村制、北海道會法モ共ニ納稅ノ資格ヲ以テ、自治體ノ議員ノ資格ノ條件ト致シテ居ルノデアリマシマス、吾等ハ先ヅ此納稅資格ノ選舉權ノ條件カラ撤廢スルト云フコトガ眼目デアリマシマス、此選舉ノ資格ニ對シ、納稅ノ條件ヲ付スルト云フコトハ、最早今日ニ於テハ時勢ニ伴ハテ所ノモデアアルト云フコトハ、業ニ既ニ吾等衆議員議員選舉法ノ改正ヲ提出致シマシタル時ニ於テ述ベタルモノト全ク同一デアリマシマス、茲ニ之ヲ時ニ於テ必要ヲ認メマセ、吾等ハ今日ノ時勢ニ鑑ミ、マシテ、選舉ノ條件ニ對シテ、何所マデモ納稅主義ヲ撤廢スルト云フコトガ、今日ノ必要條件ト認メテ居リマシマス、不幸ニシテ衆議院議員選舉法ノ改正案ニ就テハ被レマシタケレドモ、吾等ガ機會ノアル度ニ此信念ニ向テ進ムコトニ躊躇致シマセ、隨テ今回ノ府縣制其他ノ改正法律案ニ於テモ、先ヅ第一著ト致シマシマス、納稅主義ヲ撤廢セントスル改正案ヲ提出致シタノデアリマシマス、次ニハ現行ノ市制町村制ニ於キマシテ、其公民ト致シマシテハ一箇年ノ居住ノ制限ガアルノデアリマシマス、併ナガラ吾等ハ今日ニ於テ二箇年間ノ居住ノ制限ト云フコトノ必要ヲ認メマセ又爲メニ、之ヲ一箇年ニ短縮スル改正案ヲ提出シタノデアリマシマス、又第三ノ改正ノ要點ハ先刻植原君ノ言ハレタ如ク、今日級制ト云フヤウナ文句ヲ使ハレテ居ル所ノ、今日行ハレテ居ル階級ノ選舉制度ヲ廢止シタイト云フノデアリマシマス、市制ニ於テハ三級、町村ニ於テハ二級ニ依テ、此階級ヲ以テ今日選舉ヲ行テ居ルノデアリマシマス、併ナガラ斯ノ如キハ全ク謂レナイ所ノ事柄デアアルト存ジマシマス、一級ニ屬スルモノ、選舉權ハ三級ニ屬スルモノ、若クハ二級ニ屬スルモノニ比較致シマシマス、其内容ニ於テ十倍若クハ二十倍ノ選舉權ヲ行使スルヤウナ今日ノ狀況ニ於テ居リマシマス、是等ハ全ク財產ノ基礎ト致シマシタ所ノ觀念ニ提ハレタル所ノ現行ノ規則ト存ズルノデアリマシマス、最早時勢ニ於キマシテ今日ハ斯ノ如キ不條理ナル所ノ制度ヲ存シテ置クベキ必要ヲ認メマセ又爲メニ、之ヲ改正セント欲スルノデアリマシマス、次ニ府縣制、郡制、並ニ市町村制

ヲ通ジマシテ現今神官、神職、僧侶、其他諸宗ノ教師、並ニ小學校教員ニ對シマシテハ、選舉權ヲ與ヘテアリマシタルケレドモ、被選舉權ハ今日與ヘテアリマセ、抑此制度ノ理由ヲ考ヘテ見マシマス、其當時ニ於テハ色ノ事情モアツタコトデアラウト存ジマス、成程是等ノ職ニ在ル所ノ人達ハ、其職掌上自ラ民心ニ對シテ一種ノ勢力ヲ有シテ居ルト云フコトハ申ス迄モ無イコトデアラ、此勢力ニ依テ選舉場ヲ攪亂スルヤウナ虞ノアツタ時代モアツタカモ知レマセ、サリナガラ今日ニ於キマシテハ人文ノ發達並ニ國民ノ政治上ニ於ケル所ノ自覺ハ、最早此ノ如キ制限ヲ存置シテ置ク必要ヲ認メマセヌノミナラズ、若モ是等ノ人ニ對シテ被選舉權ヲ付與シ、且ツ政界ニ携ハラシタルノ機會ヲ與ヘマシタナラバ、今日ノ如キ國民思想ノ上ニ於テモ、彼共ニ裨益スル所必ズ大ナルモノアリト信ジマシマス、爲メニ此制限ヲ撤廢シテ是等ノ人ニ對シマシテモ被選舉權ヲ與ヘント欲スルノガ、第四ノ改正案ノ要點デアリマシマス、尙ホ次ニ改正ヲ要シマシタル點ハ、選舉人名簿ノ調製デアリマシマス、是ハ今日市制、町村制ニ於キマシテ、臨時ニ選舉人名簿ヲ調製シテ居リマシマス、即チ選舉ノ日ヨリ六十日以前、町村制ニ於テハ、基礎人名簿ヲ作シテ、現在ニ依テ市制、町村制ニ於テハ、選舉人名簿ヲ作シテ居リマシマス、郡制ニ於テモ亦然リデアリマシマス、郡府縣制ハ一年ニ一回ノ選舉人名簿ヲ調製スル事ニナラシメテ居リマシマス、私共ガ今此改正案ニ於テ希望致シマシタル所ハ、府縣制、郡制、市町村制ヲ通ジマシテ、總テ選舉權ハ同一デアリマシマス、隨テ若シモ市町村ニ於キマシテ選舉人名簿ヲ一冊作リマシマスレバ之ヲ以テ郡制ニモ、府縣制ニモ之ヲ實行スルコトガ出來ルノデアリマシマス、殊ニ一旦市町村ニ於テ確定的ニ調製致シマシマスレバ、之ヲ臨時ニ選舉ノ場合ニ於テモ利用スルコトガ出來ルヤウナ、極メテ簡便ナル所ノ方法デアラガ故ニ、今日ノ如ク臨時ニ調製スルヨリハ、之ヲ確定的ニ二年ニ一回調製スルト云フコトノ方法ニ改メタイト云フノデアリマシマス、以上申述ベタ五點ハ此諸法律案ノ改正ノ主ナル點デアリマシマス、隨テ此改正ニ伴ウテ各條項ニ修正ヲ加ヘル所ガアリマシタルケレドモ、ソレ等ハ煩瑣ニ互リマシマス、大體ヲ述ベテ改正ノ趣旨ヲ明ニ致シタ次第デアリマシマス、ドウソ諸君ノ御賛成ヲ希望致シマス、(拍手起ル)

○岩崎勳君 日程第二十二乃至二十六ノ五案ヲ一括シテ衆議院國松君外二名提出ノ府縣制中改正法律案外三件ノ委員ニ併セテ付託セラレントラ望ミマス

〔贊成〕(贊成)ト呼フ者アリ

○議長(與繁三郎君) 岩崎君ノ動議ニ御異議アリマセヌカ

〔異議ナシ〕(異議ナシ)ト呼フ者アリ

○議長(與繁三郎君) 異議ナシト認メマス、仍テ動議ノ如ク決シマス、日程第二十七土地收用法中改正法律案ノ第一讀會ヲ開キマス、提出者上島益三郎君

土地收用法中改正法律案
第五十一條ノ二 收用又ハ使用スヘキ土地ニ在ル建物ノ使用者ニハ引越料ヲ補償スヘシ

第五十一條ノ三 收用又ハ使用スヘキ土地ノ小作人ニハ小作ニ依リテ得ヘキ利益額ノ三年分ヲ補償スヘシ

前項ノ利益額ハ小作人ノ勞力賃ヲ控除セシテ之ヲ算定ス

第五十二條中「前條ヲ」第五十一條ニ改ム

〔上島益三郎君登壇、拍手起ル〕

○上島益三郎君 從來土地收用法ノ實際解釋ト致シマシテ、小作人、借家人並ニ營業者ニ對シテハ、其資格ニ於テ何等ノ補償ヲ與ヘナカッタノデアリマシマス、且ツ甚ダ公正ヲ失フ事デゴザイマシテ、地主家主ト同一ニ、小作人ガ收用ノ爲ニ小作ヲ失フカラ、小作ノ利益ヲ與ヘ、又借家人ニ引越ノ必要ガアルカラ、引越料ヲ與ヘ、又營業者ハ老舖ヲ失フカラ、老舖料ヲ與ヘタイト云フノガ、本案ノ趣旨デゴザイマシマス、ドウカ宜シク御審議ノ程ヲ願ヒマス

○岩崎勳君 本案ハ上島益三郎君提出ノ身元保證ニ關スル法律案外一件委員ニ併セテ付託セラレントラ望ミマス

○議長(與繁三郎君) 岩崎君ノ動議ニ御異議ハアリマセヌカ

〔異議ナシ〕(異議ナシ)ト呼フ者アリ

○議長(與繁三郎君) 御異議ナシト認メマス、仍テ動議ノ如ク決シマシタ

○岩崎勳君 日程ノ審議ハ本日ハ此程度ニ止メ、殘餘ノ日程ハ之ヲ延期シ、明二十五日特ニ本會議ヲ開キ、其日程ト共ニ之ヲ審議セラレントラ希望致シマス

〔贊成〕(贊成)ト呼フ者アリ

○議長(與繁三郎君) 岩崎君ノ動議ニ御異議アリマセヌカ

〔異議ナシ〕(異議ナシ)ト呼フ者アリ

○議長(與繁三郎君) 御異議ナシト認メマス、就テハ明二十五日午後一時ヨリ本會議ヲ開キマス、其日程ハ公報ヲ以テ御通知致シマス、本日ハ是ニテ散會致シマス

午後五時三十五分散會

衆議院議事速記録第十六號正誤	頁 段 行	一八	「平民之助君」ヲ加フ
	頁 段 行	三七	「平民之助君」ヲ加フ
衆議院議事速記録第十七號正誤	頁 段 行	三九二	下 四一
	頁 段 行	三九二	下 四一
	頁 段 行	四時	正 五時